

Answer to  
Moscow Bible  
By late Reverend  
Richard  
Wurmbrand  
(Japanese translation)

# 共産主義の

## 聖典に対する解答

### 無神論学習書

文筆家と言われる人ならば、必ず聖典を持っています。

共産主義世界にも聖典があります。それは『無神論学習書』と呼ばれる本です。それは、一九六一年、モスクワ科学アカデミー（政治学のための国立出版社）から最初に出版されました。多くの専門家、たとえば歴史学者ペリヤエフ（ペリノフ）、哲学者チャニセフ、エルシマ、エメリヤなどの論文の集大成です。その最終編集責任者は大学教授S・コフレフです。それはこれまでなん度も版を重ねて出版されました。

無神論教義綱要とも言うべきこの本は多くの言語に訳され、広く社会主義の国々に配布されました。小学校から大学まで、ラジオでテレビで、映画で、無神論の大会で、この本に書かれている思想が宣伝されました。無神論者が死ぬと、この共産主義の聖書の教えにそった葬式の祝詞がなされ、墓に花を飾り、死者は永遠に死ぬと、残された者たちに対する慰めは何もないこと、今離別した者

たちは二度と出会うことがないこと、神はいないこと、永遠のいのちのものはないことが、確信をもつて記されます。

この本のもっとも目的は、神がいらないことを明らかにすることです。私たちは次の質問をもつて非常に簡単に答えることができます。「もし神がいなければ、羊がいるというのはどういうわけでしょう。」

この質問は、実際、ロシアの無神論の集会でなされたものです。講師が説明して、生命が自然発生的に現れて、自然淘汰によって淘汰した。そして残った生存競争で強くて早い動物だけが生き残ったと答えました。

信者が尋ねました。「それでは羊がおおきに全部食われないうちに生き残ったのはなぜでしょう。うか。めす。おおかみは一年間に五、六匹の子を生みます。羊は一匹だけです。その比率は五対一で、鋭い歯とめと強さと早い足をとおかみは持っています。羊はどんなことをしてもかからないであります。それなのに、なぜして

今もお羊がいるのでしょうか。今は人間が羊を守っています。動物世界は人間が現れる前からありましたが、その頃、だれが羊を守っていたのでしょうか。あなたは、神がいまという仮説を頼ることなしに多くのことを説明することができません。けれども、四つ足を持った羊は神なしには生存できませんでした。教会の初めから残酷な迫害者に対してならんら対抗する力のないキリストの愛する羊ならなおさらです。」

この信者が得た答えは、ソビエトの刑務所に数年間投げ込まれることでした。ソビエトの知識人たちのある会合で、シエクシリアが議論されました。だれかが、ダンカン王が臨んでいる間に彼を殺害したレディ・マクベスの言葉を引用しました。血ぬられた自分の手を見て、彼女は叫びます。「消えよ、呪われたよこれ！ 消えよと、言うのに。」

あるクリスチャンが質問して言いました。「どうしたらレディ・マクベスの罪の重荷を取り去ることができるとしようか。」ひとりの共産主義者が答えました。「人

間は理性的な存在です。最後の瞬間においてさえ、適当な教育とよい助言がなされれば、彼女はか

なことをせずに済んだでしょう。」この答えはなんの助けにもなりません。レディ・マクベスは殺人を犯かしてしまっただけです。それで彼女の受けた教育のことを考えてみたところで、無益でした。もうひとりの共産主義者が言いました。「殺人者は死刑にしなければならぬと思う。」この提案もまた無益でした。なぜなら、死刑の判決を受けても、なお人は罪を自覚する良心が死んだままではいからず、第三者の共産主義者が、保障して、将来の幸福な社会主義社会が出来れば、そこには王もなく、罰たされるべき自己中心な欲望もなく、罪を犯かさせるような必要も欲求もない、と言いました。けれども、共産主義社会はどこにも存在しません。

それで、信者が言いました。「聖書の解決だけが唯一で確実なものです。イエス・キリストの血がすべての罪から私たちをきよめるのです。」

しかし、私たちはこの簡単な答えで終わるわけにはいきません。科学アカデミーの会員たちは、宗教一般、とくにキリスト教が間違っていることを証明するために、六〇〇ページ以上の論文を書いて

います。私たちは彼らが何を言っているのかを理解し、彼らの提唱した問題点、一つ一つ答えたいかなければなりません。その挑戦を受けることが、礼儀と愛にかなったことです。

無神論者の聖典は全く退屈です。実際、それはそうと相場がきまっています。だれも無神論のために雄弁な人はいません。無神論は否定です。だれが否定について情熱を込めて書くことができません。だれが否定に対して時を作り、否定に対して歌をささげ、あるいは否定を彫刻することができましようか。宗教は音楽、絵画、彫刻、詩歌に力を与えます。無神論は、その当然の性質から、このような力を及ぼすことができませんでした。



羊の存在が神がいますことを証明する。

# 暗闇はろうそくから発せられる光に勝つことができない。



ソビエト共産党は革命以来今日まで60年間宗教抹殺のために主要な努力を傾注してきた。

それ自身の教えによれば、人は塵と影にすぎず、単なる物質です。物質が宗教を滅ぼすための、どんな力を持っているのでしょうか。物質は、物質ではない観念が何ものにも束縛されないで存在しているというのに、観念に対して戦いを挑むのに、情熱を動員することができないのでしょうか。モスクワの聖典は、また、科学アカデミーというにふさわしくないその方法と言葉の暴力を用いています。

私たちは、できるだけ科学の論議の範囲を避けるように提案します。私たちは、皮肉や中傷に会っても、愛のやさしさをもって、返答します。

私たちはそのような態度をとることができません。なぜなら、いかなしきほんにハンマーで打たれてもびくともしないからです。パリに、ユグノーの記念碑があります。そこになしきとこわれたたさんのハンマーが打ちかれています。神にいわく、「敵の軍隊、ハンマーは滅びた。されど、神のかなしきは立つ。」

私たちはそのような態度を取ることができません。なぜなら、私たちは自分で自分の考えを厳しくふるい分け、批判を受ける前にそれをよく考えるからです。独裁主義を取る共産主義の国における無神論の害毒と、それは反対の立場です。批判を受けない人が、どうして彼の正しさを知ることができるのでしょうか。

西側キリスト教国ではどこでも無神論は全く自由とその宣伝をすることができません。キリスト教はそれを少しも恐れる必要がありません。自由な討論では、必ずキリスト教が勝ちます。厚いカーテンで二つに仕切られている部屋を想像してください。一つはまったく暗闇で、一つはろうそくのともが点いている部屋だとします。カーテンがとり払われた時、勝つのは暗闇ではありません。暗闇はろうそくから発せられる光に勝つことができません。なぜなら、それは力がなからず、それは、力の欠如です。力なる光は勝ちます。このように、暗闇であつた部屋は見えるようになり、燃えあつてろうそくによって照えられます。

クリスチャンは共産主義の牢獄を恐れませんが、また、暗闇の道具もこれがありません。同様に、私たちは無神論者の本を恐れませんが、思想闘争において、最後に勝つのは私たちだけです。

## 無神論の道理

この二十世紀に、なん百万という無実の人々が銃に投げ入れられるも焼かれ、ガズで殺され、あるいは自らクリスチャンであるとか名のそれぞれがう政治形態の国の強制改容所で殺されたのですから、神が全能で善なおかたであられることが信じ難いのは無理からぬことである。もし彼が全能ならば、どうしてその残虐行為を妨げなかったのでしょうか。もし彼が善ならどうして彼はこのような残忍な世界を創つたのでしょうか。

キリスト教会の高僧たちが、し  
ばしば、迫害者や抑取者の側に立  
ち、彼らが暴君へつゝい、一緒  
になって暴動を起して、彼らの中  
には明日の暴君になることを望む  
る者さえいたというのでは、なれ  
るかが無神論者になつても、私た  
ちは此のことができません。

「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか。」と叫ばれたのを見て、十字架は人類の希望である、あるいは、渴い、水を欲しかったのかにすれば、いふやう酒を与えられたのか、が天と世とのすべの力を所有しておられる、といふことを理解するのは、たれにとっても困難だったにせよ、ありません。それがあつて、き理であることを宣言するために、神は行なわれまゐりました。

そして、放蕩むすこが父の家に帰りたいと思つても、彼らはさうにもそれを見出すことができないでいます。そのかわりに、たゞその異なる教義がわねられてその道理にいと互に主張し合つています。彼らはたゞ互に「我」を主張

ています。すなわち、今なお鉄  
子の中にいる。あるいは、強固  
容所で死に無実の人たちのた  
に心からの愛を実行してない  
いう点においてです。

またその上、多くの人の心  
中で、宗教は、迷信、曖昧、ある

いは間違つた教義を結び付けてゐます。

無神論は、ほかの多くの原因と同様にこれらの原因の結果です。私たちがしてはばかに考へることができません。多くの人が無神論者になるというのは当然の結果です。

神は、世間は無神論が存在するのを許されました。聖書によれば神は根本法則と原因結果の果てない鎖で物質世界を創造されました。神は御自身が存在するより他の存在を許す契約を自らなされた。これ文、無神論の可成り

そして、キリストが人類の罪のために御自身の血によつてあがなをなすことが決定された時に彼無神論者の罪をもあがなうこと

しかし、いっぽう、無神論者は彼らの立場から何が間違っているのかを考えねばなりません。こので想つゝい苦しみ会っている人々には神によって創られたであり、心から彼を愛しています。教会に行き、宗教儀式に出るのは伝統と慣習によるもの

もしれません。けれども、時に神に対する燃える愛がもっともしんでいる人の中にはつきりとられるのを、無神論者はどのよに説明するのでしょうか。信仰ために打たれ、苦しめられ、足せに五〇ポンドの重い鎖を付けられている人たちの感じる、クリ

チヤンが言うところの「主にあ  
まのこび」を彼らはどう説明す  
のでしょうか。

活のためにはたった二枚の銅貨しか持っていないやもめたちが神がもっと大きなことのために使いくださるやうに、その金をまのてんでささげるのはどうでしようか。

無神論者がクリスチャンになんては道理になかっていきます。

し神が全能なら、どうして地に  
が支配するのを許されるのか。  
うして私は最愛の人と別れなけ  
ばならなかったのか、と無神論  
は尋ねます。どうして私の子供  
苦しむのか、あるいは私の友人

どのように説明するのでしょうか。彼らにとって、死は父なる神に帰ることを意味します。

奴隷がむちの下で死に、神の定めや神に対する反逆が通常のことであったリミッド建造の時代から、一つの詩が私たちに伝えられています。

きよも死がやって来る。  
病める者の癒しのように。  
監獄からの解放のように。  
きよも死がやって来る。  
没落のかおりのように。  
風の目に覆うけの下に坐する  
ように。

きょうも死がやつて来る。  
はすの花のかおりのように。  
暗闇の淵に生わるように。  
きょうも死がやつて来る。  
通り過ぎる雨のように。  
旅から帰る人のように。  
きょうも死がやつて来る。  
晴れ渡る空のように。

きつちも死がやつて来る。  
長い間とらわれの身であつた  
人の  
望郷の思ひのよすがだ。

死とれるがが

ある者は静かに死を受け入れ、他の者はあつこんで死にました。彼らは、死は魂のふるさとに帰ることだと考えたのです。

ある植物は光の中で育ちます。しかし、日陰や暗闇でだけ生長する植物もあります。ちょうど、神

のために苦しむ度合いに応じて神を愛する人がいるのと同じです。それは、神秘主義者、禁欲主義者、殉教者です。彼らは無神論者が不平を言うあらゆる困難を、よく承んで耐えます。信仰をもって、彼らは苦しみから逃れようとしません。反対に、ある人は信仰を深める

あるいは、大きな働きによって認められます。

オスカー・ワイルドは神のこととは何も考えませんでした。そして随落の生涯はありました。とうとうこの天才は、もともと随落した罪のために獄につながれてしまいました。そのような境遇の中で

彼は書いています。「もしもこの世が悲しみから出来たのなら、それは愛の手によって作られたのだ。なぜなら、人の魂は、世界に彼のために作られたのだが、その完全な状態に達するまでは、この方法で出来ないのである」

た。苦しい生活から救われ得ずのよきなことをしなげねばならかつたので、彼女はとても苦みました。ラスコーリニツが女に言いました。「神さまはたゞさんお祈りしたら、ソーヤ。彼女に噓くように言いました」「わたしは神さまに生かされて

「でも、神さまはあなたのためと  
どんなお返しをしてくれるの？」  
彼女は言えた。「わたしに聞か  
ないで、あなたには分からないん  
です。……神さまはあなたのため  
と……お返しを。」

ラスコーニツは、また、  
女の貧乏な、惨めな、幼い妹を  
ソカにも聞きました。「あんな  
お祈りの言葉を知っているの？」  
彼女は答えました。「おお、もち  
ろ、わたしにはみんな知って  
います。大きなねば、わたしは  
も子供ではないもの。わたしは

自分ひとりでお祈りすることができず。でも、コーリヤとリタは、お母さんと一緒に祈りをするの。あの子たちは、まず、「マリヤさま」と言うの。それから、また、「神さま」。祝福してくたさうと、ソニーヤ姉さんをゆるして、わたしに「お祈りの。なっ、わたしに」と言うの。なっ、わたしに

したちの最初のお父さんはなくな  
って、今のは二度めのお父さんな  
んですもの。それから、わたしは  
ちにはかの人のためにもお祈りす  
るわ。」

破滅します。彼女の神に対する仰はソーニヤを破くしましたの故に、彼女を殺人鬼ラスコーリニコフに改め、彼を新しい人しました。それは、彼女の信の背後に、何かの真実がなければなりません。

十字架を贈り、彼に福音書を読  
あげました。このことが、迷  
入者をして驚愕に自慙させ、シ  
リヤに行かせ、新生活を出発さ  
しました。もしも彼女が彼にハン  
ーと鎌を与え、スターリシの退  
演説が、あるいはマルクスの  
「資本論」でも読んであげたら

んなことがございましょうか。  
ソーニヤは素直という悲しみ  
中にあり、ラスコーリニフは  
の悲しみに目覺めて、ふたりと  
信じたのです。

多くの人々にとって、宗教  
人生の多くの楽しみの一つ、芸  
やせいたくと同じ種類の教養の

うです。しかし、宗教をすべてする人たち、しかが谷川の水をい求めるように神を慕望する人たちがいます。このような人たちは、神を知ることが要求します。彼は、神の道が神秘であり、生きることが彼らにとってひどく困難であっても、神こそ愛すべき、信

すべきおかたであると言います  
これらの人たちは無神論者の理  
象を理解しています。しかし、ま  
なたがた無神論者は、彼らを通  
することができるとでしょうか。

# クリスチャンの心は実体のすべてを映すが無神論者の心は一部だけを映す

## 無神論者の矛盾

社会は非常に急速に変化しています。宗教組織は変化に歩調を合わせません。しばしば、脱教家のはなしには、現代人の問題に対してキリストの霊による答えを提供するかわりに、イエスは二千年前の人たちとその当時の問題にかかわっていたという内容のものが見受けられます。それ故、外の人々は、宗教は古くさいという結論に達します。

加えるに、外くの典が大時代的である。

それだけでなく、教会は、将来の地獄から人類を救うのがその願ひであるといっているのです。それならば、それは、混乱、飢え、悲嘆、独裁、抑取、公害、戦争などといった今日の地獄から世界を救う助けとなって、人類に対してその愛をあかしすべきです。

クリスチャンは、無神論者から出されるこれらの批判を受け入れます。愛はすべてを信じます。私は、どうして無神論者になるのか、その理由を信じることができません。私たちはヘーゲルと共にいる理由がある。「無神論者の態度にさへ深い理由があります。しかし無神論者が信者からの批判を拒むなら損をします。

マイスター・エックハルトの有名な神学が、神とひとになった人間は、もはや礼拝すべき神を持たないことを教えました。この高い観点から、彼は、神を知らないうちに礼拝しない人々を理解できます。クリスチャンの心は実体のすべてを映しますが、無神論者の心は一部だけを映します。

無神論者は、クリスチャンと共通する唯物主義の哲学を持っています。私たちの宗教の原則的な教えは、神は、キリストによって、肉(すなわち物質)となった、ということです。クリスチャンの神は観念ではなく、「人」です。キリスト教の目的は、魂の救いだけではなく、肉体の朽ちない形におけるのみがえりです。

しかし、私たちは物質主義にとどまりません。物質主義無神論者は一面的です。彼らは、神や愛の永遠の霊や、この世を支配している真理について知りません。

ただ一面しかない銅貨などというものがあてはまりません。あるいはひとつの極しかない電圧はあるでしょうか。キリスト教は、物質と同様に霊の領域を包含するのです。無神論は一面的である故に、まちがいです。

ある愚かな人が小麦粉と塩を買いにやってきました。彼は買ったものを入る皿を持って行き、彼は、この二つのものをまぜておこなうので、分けておくよう

にと言われました。店の人が小麦粉を皿に入れてくれたあとで、この愚かな人は教える思い出して、皿を逆さにして、塩を裏がえしの皿の上に入れてくださいと頼みました。それで、小麦粉はなくなり、塩は残りました。彼は、彼の側方とそこをそれを持って行き、また、側方は、「小麦粉はどこだ」と尋ねました。愚かな者は皿をひっくり返してみましたが、それでも塩はなくなりませんでした。

無神論者は、ときどき、この男と同じようなことをします。彼らは、宗教に対して、非常に熱心な有益な批評をします。彼らは塩を持っていきます。けれども、それで小麦粉をなくしてはいないでしょうか。彼らは、それまた正しいかもしれない宗教のための論議を捨ててしまっていないでしょうか。

そして、遂には、大きな危機に際して、無神論という塩をも振り落としてしまっているのではないのでしょうか。真のキリスト教の誇るべきところは、小麦粉と塩の両方を持っているということです。その哲学はソロニエフによって神物主義と名づけられたもので、物質とその造り主、神の両方を考えます。キリスト教はその持っている真理が非常に確かなものである、この真理についてのあらゆる批判を拒むことなく受け入れます。しかし、かかる批判を、真理の恵みとし

っかりまたがるための拍車として歓迎します。

信仰は、絶えず過ちをしりぞけ、新しい真理を経験されたところから絶えず靈感を受けて息づいています。

むかし、太陽が月と言ひ争いました。太陽が言ひました。「木の葉は緑である。」そこで月は、や、それは鉄だ、と言ひました。月は、地上の人間はたいてい眠っていると言ひました。そこで太陽は、すべての人間はいつも動きまわっている、と言ひました。

その時、風がやって来て、その言ひ争いを聞き、笑って言ひました。「あなたがたの言ひ争いはかたいてい、わたしは、太陽が照っている時も、月が輝いている時も吹いています。太陽が天空にかかっている昼の間は、すべてのものが、太陽が言ったとおりになります。地上には夜やかで、人間は動き、木の葉は緑です。月が昇って夜になると、すべてのものは一変します。人は眠り、しじまが支配し、木の葉の色は銀に変わります。ときに、雲が月を隠す時、それは黒くも見えます。太陽も月も、どちらにも、なにもかも知っています。」

無神論者はものごとの物質的な面を見て、それらがすべての実体を含んでいると信じます。仏教徒は、心が唯一の実体であり、物質はほらけり輝くことを意味します。

世界は、幻想の世界、マヤに属するものであると信じます。しかし、聖書は、キリスト教でも、ヘブル語でも、「霊」ということは「風」ということは多岐にわたる方向から、いつも吹いてきます。神の霊を持つ人は、実体のすべてを見ます。彼らは、自らを、物質主義哲学、あるいは観念主義哲学に制限することができません。

実際、聖書は、哲学的なことに注意するよりも私たちに警告しています。なぜなら、たいていの哲学者は、実体を見るのに、個人的な観念を持っているからです。しかし、すべての観念は、一面です。それは、ほかのすべての点に對して、私たちを無能にするからです。ある観点が現れる、私の著作している部屋にはアがありませう。うしろを振りむきます。さすると、ドアは見えます。この際が見えませう。上を見ます。この観点があらうと、部屋には床がありません。下を見ます。すると天井があります。特定の観点を避けることによって、私たちは、全体を認識することができません。クリスチャンの理想は、聖く、なるといふことからは、来ている。ロシヤ語に「聖」といふことは「ほらけり輝く」を意味します。

ゲルマン語の用法でも同じようにです。聖くなることは、観点を捨ててしまったことを意味します。

フイエルバッハは言ひました。「神がない」ということは、太陽のように明らかで、白日のよに明白である。神が存在し得ないといふことについては、なおさらである。宗教は絶対の明白を主張しませう。無神論はそうします。神が存在しないことが、太陽のように明白であるならば、全人類は(例外なく)太陽の存在を認めているが、神はないなどというフイエルバッハの主張には全人類が賛成しているわけではなく、いふことはそういうことです。

私の偉大な好敵手、ダーウィンをさへ、その立場を固く守り通すことができませんでした。彼は書いています。「この大地は、考へるわれわれ自身をも含めた不思議な世界が偶然に出来たという考えの不運実だが、私には、神の存在についての主要な論議のみに思われる。」

無神論者にとって、無神論は自明のことです。それならば、明白なこのために、どうして無神論が必要なのでしょう。キリスト教は、そのより深い事実のところに、キリスト教が自明のことであることは考えませう。もしもなら無神論者はいないでしょう。私たちは

は、分別をもって、われらの敵手の態度の何かを見ます。そこに、私たちが彼らを理解するための何かの手がかりがあります。無神論は、ただ無神論だけしか持た合いません。それは、宗教に対してあらゆる存在権を否定します。それ故、それは分別がありません。個人主義無政府主義の理論家、マックス・スターナーは、正しく社会主義を見ました。彼の結論は、人間社会を模倣することでした。しかし、彼はその一部でした。シイベンハウエルは、その問題に対する解答として、人類に自殺をすすめています。しかし、コラが彼の町を襲った時、彼は逃げました。彼はいのちを愛しました。思想や行ないにおいて大きな欠陥があるからといって、宗教それ自身を取り除くとする人々とも同じ程度にまちがいです。

色が気にならないからといって、動物を養育するのをやめてしまっているものでしょうか。泥れた画面の中の無垢な赤い唇を捨ててしまっているものでしょうか。

私たちは、無神論において、何が合理的なものであるかを知りました。そのほか、多くのことがありません。さ、それは、宗教において、何が合理的であるかを、無神論者と一緒に考えなさい。私たちは共通の分野に行きあうこともできません。

# 共産主義者は神を否定する

「無神論学習書」の著者はだれか。  
彼ら自身がこれに答えるべきです。

モスクワに集まった人たちは、

人生の最大の問題について、最高に変わる確率は、おそらく一億回に一度です。二つの可能性だけでございませう。人間の心という完全なコンピュータが電子と陽子の偶然な結合によって形成されるには、どれほどの確率があるでしょうか。この論文の著者である私は、多くの言葉を話します。そして名詞や動詞の語尾変化まで教えれば、百万語にも及ぶことは知っています。ほかに教養ある人々と同様には、いつも、私は「私」は「私」から始まります。もしも、私がこのことに対する答えを知らなければ、どうして、私は、この「私」が考えていることが他の人と分け合える価値があることを知るのでしょうか。もしも「私」が偉大でなければ、それが与えるすべてのものは、小さなものとなります。

モスクワの東部の著者たちは、彼らがいかなる神によっても造られたものでないと言っています。彼らを形成した物質の無作為な過程の中に設計はありませんでした。原子と陽子の回転や衝突が、純粋な真理をかもし出す頭脳を形成することができるとは、いかに奇妙な事象か。私は貧乏な子供でした。私は音楽を学びたいと思いましたが、私の両親にはそれをする余裕がありませんでした。それで、私は、線のはいた紙にでたらめに音符を書きつけました。しかし、それは曲になりませんでした。もし、ルーレットのゲームで、赤か黒の数が出る二つの可能性が

っているでしょう。彼らは、私がそれによって考える言語を形成しました。彼らは、私の中で成長した人間を造りました。私は彼らを知りません。私は、将来の、

無神論、あるいは宗教の教訓を形づくるものも決定的な時期である私の幼年時代を知りません。私はとても小さな世界に住んでいました。私の地球は、宇宙のこの点のひたひたにありました。この点のある微小な月に到達したことを、私は特筆すべき成果であると誇っています。私たちの小さな地球上の人間の営みは小さな

神がいらないことがどうして  
確かめられるのでしょうか。

私は記憶喪失になったことがありました。私は、「罪と罰」の著者だれであったか思い出せませんでした。私が得た十帝の人のやうと、それはドストエフスキだと教えてくれました。

私たちはとても小さな者です。それなのに、宇宙よりも複合宇宙と呼ばれるべきものについて、たくさんを知っています。それは、ちょうど、マルクスの本の上を歩いた猿が、マルクスのことを知っているようなものです。神は小鳥のさえずりを愛して

います。そのうちのどれかが、きょうこの目に、わしにつかまえるれるとも知らずに、そうしていま。私は枝に鳴る風の音を聞いています。どの木が虫に食べられていたのか、私は知りません。私

人に見つかることができません。しかし、そうだからと言って、そこにそれがないと言っていることは正しいでしょうか。神がいなかったことを確かめるために、無限の宇宙をたがねたことがありましたか。

そのようなわけで、あなたがた無神論の著者のみなさんは、あなたがたが主張することがまじいがないと考えることができません。きのうまで、元素が不安定であることは確かなことだと考えられていました。これはなん千年もの経験に基づいた主張でした。しかし、それにもかかわらず、それはまじいことがいふまで、かなり知識の進んだ人たちが、原子を見ることでできない、人は月に行くことができないと考えていました。彼らの周囲の人たちの間では、それはめつた経験の持ち主であったこれらの人たちは、まじいものでした。私の無神論者の友人諸君、あなたがたは正しかったが、これまでとではあり

クリスチャンの教訓、ターリヤンは、彼のことは、「グレート・クイア・イムボッシュル」(それが不可能の故に信じる)の故にとても軽んじられてきました。そして、現在、科学は、おかしなと思われたことや、理屈に合わないといわれてきたことを真実としています。私たちは知りません。一人がもし、何かを知っていると

思ったら、その人はまだ知らなければならぬことも知っています。はい、はい、聖書は言っています。(1コリント八二)

人は彼の脳を形成している細胞の十億のうち一つでも知っているでしょうか。その小さな乱れが、

# だが私たちの敵か

もしも、貧しい身なりの人が私に身元を尋ねたら、私はまず、彼がだれであるかを尋ねます。彼は警察の者であるかを証明しなければなりません。そうでなければ彼は私に尋問する権利がありません。

この無神論者の前提を仮定して、予測しがたい現実が、なんとも不可解な時代を、なんとも偶然の相関作用を通じて、時と偶然の相関作用を通じて、無神論の調子とクリスチャンの聖書の両方を送り出しました。なぜですか。彼はだれですか。なぜ彼は存在するのですか。実際に彼は存在するのですか。実際に彼は存在するのですか。

私が宇宙のなかに直視して、スフィンクスに、「あなたはだれか。あなたの中に神は宿っているのか。あなたは人の手によって造られたものか。それとも、永遠から存在していたのか。」と尋ねるとします。その答えはこうでしょう。「小さな人よ、まず、あなたがだれであるかを告げよ。あなたは、絶対の神祕があなたの前に開かれなければならないほど価値ある者であるか。もし私があなたにそのことを知らしめるとして、あなたがすべての純粋な真理を、たゞそれがあなた自身の利益に反し、今日まであなたが信じ、大事にしてきたことに逆うものであっても、なお理解し、受け入れる能力を持っているかどうか。」

「無神論者」の著者たちは神の存在を否定しています。しかし、彼らは自ら存在しているのでしょうか。彼らはだれですか。彼らは自らの存在を証明できますか。無神論の著者にとって、大胆な問題を出すためには、彼は、彼の出生のなかに、神や、神や、星雲が存在していたことを仮定しなければなりません。星や、天体の機構や、生命が存在できなかったというところからなるというように、地球上の運河を制御する太陽がなければなりません。無神論者が明確に大胆な問題を出すことができるのは、水、草木、動物、微生物、また、電気や、パンを焼くような酒を蒸らす熱などの実体、宇宙線や降雨、また、人格の圧倒的な存在があればこそです。

つみなに色合いの地の衣の美しさはどこから来るのでしょうか。原子の中の微分子のみなに配列はどこから来るのでしょうか。電子が、その軌道を、十万分の一秒ごとに、なん千万回と回転しているのはどうしてでしょうか。その規則正しい運動をしているものが、私たちに固体として感じられるのです。

あなたは、 $8.0 \times 10^{10}$  万の二乗の電子の細胞を持った機械のことについて聞いたことがありませんか。その細胞は「これは、わずか一瞬半の重さで、一兆の細胞から出来ており、半導体、受信機、記録機、エネルギーを伝達します。そのすばらしい機械はあなたの体です。あなたがあなたに自動車やレセントしたら、あなたはどんなに驚くべきことでしょうか。しかし、あなたは、もっとすばらしい機械を贈られたのです。だからです。

脳神経に化学変化が起こると、情緒の変化をともなう。ほかの思想が生み出されるのは、どうしてでしょうか。人間が有害な炭酸ガスを発散して、それを、愛のことはや、永遠のいのちのメッセージを伝えることはなぜ変えるのか。どうしてでしょうか。

あなたが何か悪いことをしようとすると、目に見える手があなたもあなたをおしよめるようにするのでしょうか。あなたが、だれの手で、たゞ、良心の音があなたに響くのをやめさせるほどの力がないとしても、のちに、後悔や自責の念となってそれが聞こえてくるのはどうしてでしょうか。

実体の正体を知るあなたに、だれですか。もしも、この正体が、次のように告げたらどうしますか。「おおいな様子から警察の方にお見送りますが、どうぞ、ま

ず、あなたの身分を明らかにしてください。」あなたは、実際に、あなたがあなたに問うているたくさんの質問の二つに、答えることができなかったではありませんか。科学の発展は、私たちが解答しなければならぬ質問の数の増加に追いつくほど、事実についての知識を増やせませんでした。

あなたは、実体に対して、その最後の神祕について、その意味について、その計画について、創造主の存在について質問します。実体はだれに対して答えるべきですか。そして、どんなことを使わなければならないか。最初の宣教師たちが出て行った原始的な部族は、「愛」「信仰」「救い」「聖」「聖」「聖」などを意味する言葉を保持していませんでした。宣教師たちは、彼らのメッセージを伝えるのに、あるいは彼ら自身の国の実体を伝えるのに、不便な思いをしました。あなたは、最高の実体と交わり共通語を持っていますか。

もう一度聞き直すが、この実体はだれに対して語るべきですか。あなたがたの心理学的には、理性は人間の頭脳作用によるもので、象の頭脳は別のものによって構成されている。その作用は本能と呼ばれます。自分のものに、あなたはよりすぐれた名前を付けました。しかし、人間の頭脳と、あなたの主張によれば、進化の結果であり、設計者の手にかかることになり、水ごころの時を超えて、原子が無作為に集まってできたものです。

あなたは、無神論が真理であると考えます。しかし、無神論に対して「真理」という概念を適用する前に、あなたは、「真理」とは何を意味するのか、定義しなければなりません。

「真理とは「何が真理か。」と質問しました。何をもちて真理というのかという基本がない質問に、だれも答えることができません。彼らは「真理とは、たゞみなく疑うことである。」「あるいは「大多数によって承認された幻想である。」「と答えています。しかし、彼らが幻想としてはかたくなに、正しい指導のもとで、まちがいを是正するかもしれない。錬金術や占星術は、ちょうどこのような実りある過ちともいえるべきもので、化学や天文学の先がれとなりました。

あなたがたの真理の定義とはいかなるものでしょうか。

マルクス主義者は、真理は社会階級によって決定されるというのでありましよう。人間が生活する経済条件が、彼の自覚を決定します。

一八五二年十二月七日付のクルスに宛てた手紙で、マルクスは、彼自身の経済状態について書いています。彼は、ズボンも靴もないし、家族は極寒のどん底に落ち込みそうだし、これでは半分のほうにすぎない、と書いています。私たちが、彼に同情しますが、しかし、マルクス主義はズボンと靴のことではなくて、人間の心の問題です。今日、自由世界のすべての労働者は、ズボンと靴を、一つだけではなく、いくつも持っている。それで、マルクス主義は、私たちに合わないのです。私たちは私たちが自身の真理を持たねばなりません。

マルクスは、一八七七年十月十九日付のソルジュ宛の手紙で次のように書いています。「労働者が……職業文筆家になると、きまってしまう。頭が膨らんでしま……」「過激な学生運動も、また、真理を持つことができません。マルクスは、「ロシアの学生は、それ自体価値のないばかりか、ことを行なっている。」「と書いています。あるいは、マルクスにあって、確実な真理の定義はなれず、「真理とは、ズボンと靴を保持しない時に考えることである。何か神秘的な理由をひいて、ズボンが真理にいたる道をひくことになっているように思われます。このようなものは、皆、捨ててしまひましよう。

私たちは、目下流行の定義をもつて教を助けてあげましよう。真理とは、実体の産物であるわれわれの心と、思考の対象（実体）との調和です。しかしながら、このような調和は、あなたがたが実体を正しく理解した確証ではありません。その上、間違いがあるかどうか、あなたがたにはどうしてわかるのでしょうか。あなたがたは宗教は間違いであると主張しています。しかし、宗教は、実体と人間の心との間の調和です。それで、人は、思考方法の正当さについて強く確信することができて、なお、あやまちを犯します。

あなたがたが、かかる錯覚の犠牲になっているとしたらどうでしょうか。

ひとりのクリスチャンが無神論者になったと仮定しましよう。その時、彼は、それまで考えていたことが間違っていたと悟るでしょう。間違っているに気が付いたら、彼は、あなたがたの思想を受け入れるでしょう。彼がもつた一つの間違っていた信念に落ち込んだというのを、

はつきりと知ることができるでしょうか。彼は、彼の思想が、いまや、実体と一致したと、確かに感じるかもしれない時に、彼は、これと同じように信じたのです。実体や非実体を超えた、私たちが真理であるとか間違っているとかと呼んでいることを超えた、これはこれであるとか權威をもつて私たちに告げてくれる一つの光がなければならぬ、あなたがたは思いませんか。無神論者であるという自覚を、この超越的な光を認めることによつてのみ、調和をもつて存在することができぬのです。

（なんど人間の思考には調和が少なうてしまひましよう。この光を、私たちが宗教において感得しているのです。

いと高き方が、理性の言語であなたがたに話かけなければならぬのでしょうか。しかし、どれほど多くの理性を理解できるでしょうか。理性が、奴隷制、絶対君主制、迷信を正当化しました。それが、私たちに奴隷を導いて迎えさせ、世界戦争を正当化し、罪のない人々を大量に殺害したので、メフィストファレスは言います。「どんな動物よりもっと動物物的である時だけ、彼はそれを理性と呼び、それを用いる。」人は、つても、すべてのことを合理化し、概念化し、知性化しなければなりません。

ゲーテは、二〇〇年前、「われらの星は宇宙の心理的建造物である」と言いました。私たちは、天才と真理のひらめきはあるが、あきらかにそれは狂気の徴候である民族の理性を持っています。私たちの最高の知恵者として、私たちは、不合理な衝動の中の一つの調和に過ぎません。理性は、正しい結果を生み出す

ために、低級な情念によって汚されなければなりません。

これが、私の敵の実情です。彼らの思考において、恐怖がなんの役割も演じていないでしょうか。非共産主義国において、無神論者が、しばしば宗教に帰ります。今エタワ科学アカデミー会員のひとりが、賛否両論のすべてを味味したあとで、ソベトラナ・スターナ、バステルナク、シミアウ

スキー、ソルジエニーツインのよ  
うに、キリスト教は正しいとい  
う結論に達したらどうでしょうか。  
人の確信というものには、いろいろ  
な方面で変化します。——その結  
果は、どうなるのでしょうか。彼  
らは、直ちに、アカデミーの会員権  
を失ひ、教授の肩書きは失はれ  
る書物を出すことが出来なくなりま  
す。彼は、また、ぜいたくな生活  
をするのができなくなります。

モスクワ・アカデミーの会員である  
クロムイコ陸軍少将は、ソビエ  
ト政府の人たちと、政治、軍事面  
で、ちがう意見を発表しました。

この「偏向」のために、彼は、精神病院に送られて苦しめられました。私に敵対する人たちは、あなたがたは、少しも恐れていないのですか。研究と発表の完全な自由がなければ、あなたがたの意見が正しいか、まちがいであるかを、理性は正しく判断することができません。あなたがたの理性は、恐怖という情念によって汚されています。

私は、あなたがなを特別に愛めようとは思いません。すべての人の理性が、いくつかの情念によって汚されています。ある人にとっ

ては、それは、名声や富に対する欲望であるかもしれませんが、このような情念は隠しむべきことでは

ありませんが、どんな場面でも、理

性だけで正しい結論を出せるもの  
ではありません。

あなたたちは、情熱や、真理の愛によって生かされているのだから、どうして正しい結論を要求しなければならぬのでしょうか。強い情念である情熱は、時々は邪魔になるけれども、また同時に、正しい推論に導く強い力になります。それは、その、まぎなく前提です。

三段論法が正しい思考をつくらせ出すということが、どうして私たちにわかれるのでしょうか。そうです。私たちはそう思うだけです。そして、私たちは、小さなことにおいてのみならず、大きなことにおいてもそう思います。アインシュタインは、彼の有名な定理において、それが実験に付せられるのに、それが正しいと思ふたと書いています。この思うとは何でしょう。

うか。それは理性に属するものではなく、  
はあります。直感でもあります。  
ん。しかし、それらは、アインシュタインのような人を満足させま

証拠は外見のものだけではま  
 りません。時には私たちの意識  
 に対する内的な証拠もあります。  
 この内なる自覚、信仰は、それ自  
 身、宇宙の偉大なる事実の一つで  
 す。それは、自然界のほかの事実  
 と同様に尊重され、説明されなけ  
 ればなりません。

た。  
無神論もまた、信仰にもとづいて見えています。それも、また、その意見を持っています。それは、非存在を否定する生き方をすること、価値があるという考えにもとづいています。反キリストの偉大な弟子、学者ニーチェは、正直にこのことを認めていました。彼は書いてい

ます。「われわれ、今日の知識狂  
信者も、われわれ無神論者、反形  
而上学者も、なお、なん千年もの  
間、信仰が燃やしつづけてきたの  
のおかげ、火をもちろ。キリスト  
教信仰は、神は真理であり、真理  
は神であるというプラトーの信仰  
でもあった。「ニーチエは、それ  
は残念だとは思ったものの、しかか  
し、彼は自分を」なお信心深い  
と考えました。

もしも憐念が、信者の確信において、未信者の場合も同様である大きな役割を果たしているとしたら、どうしてと高きお方とが、あなたがた、自尊心の高い理性に對して語らけて、これら憐念に對してはそうしないのでしょうか。

レーニンは、彼の『哲学写本』という本の中で、物質は自己反省のための力を持たないといつてゐる。それは、自己自身を思ふためです。

において反影します。だれの思考  
においてでしょうか。ひとりの人  
間の思考においてです。さて、私  
たちの思考することがすべて実体

の反映であるとするならば、そして、私たちの思考が非常に個人的なものであるとするならば、それゆゑにそれが反映する真理は、ひとりの人格でなければなりません。私たちがそれを正しく理解するか、ぼんやりと理解するか、歪んだ形で理解するか、あるいは、私たちが実際に理解したと思つたに理解することはあつても、ひとりの人格を見ることにちがひありません。

ん。イエスは、真理とは、人格であり、彼自身であるといわれました。今、これを、三段論法で説明してみましよう。そうすれば、またあなたがたはイエスの主張は真理であり、神秘的真理であるという結論にいたることでしょう。

と信じてゐるのですか。またあなたが  
それと信じてゐるのですか。あなたがた  
は、それは信憑できないかと考へて  
います。あなたがたは、今この  
心があなたがたを幻想の世界に引  
きずり込んだ眠りの時からめざめ  
たのです。それは、夜ごと、あな  
たがたにうそをいいます。それは  
あなたがたの白昼夢において、ま  
た妄想において、うそを言いま  
す。盲目的にあなたがたの心を信  
頼することは、理になつたこと

心に信頼する多くの人たちが、ヒットラーやスターリンを天才として歓迎しました。その同じ心がのちになって、彼らを大量虐殺者として指名しました。あなたがたとでは、あなたがたの心がしばしばあつて、あることに気づきます。それは、あなたがたに真理を語るのを容れさせません。それは

は、あなたがたに、あなたがたが聞きたいと思う耳ざわりのよいことを語る売春婦です。それは、無神論者に、神はいないと言いま

す。それは、宗教家に、あなたはいじめられたいと言います。それは、あらゆる政党の党員に、その政策が最善であると言います。私たちは、みな、大きなあやまちを犯しました。人類の歴史すべては、人々がそのために専ら死んだ思想の巨大な墓場です。あなたがたは、あなたがたの思想がいつの日か、地球がアトラスに支えられていたという思想と

同じことばばかりかたものであると考えられるようになっては思いませんか。

心は信頼して、現代でさえ、九十九%の人が因果律が絶対に正しいと信じています。しかし、彼の主張を理解する人は非常に少ないのですが、ハイゼンベルグは正しい。それは、こうです。「量子物

あなたには、精神病院を訪ねたことがありますか。精神病院と日常生活の間には、いかに大きな溝があるか、それは、天才の脳に侵入した怪客が、月を食ふやうに、人間界を侵略するのと同じである。正しく、大勢の人間に、この思想を放棄させることが、よつてのみ達成できる。これらのは、うちでもっとも大事なものは、自然現象が厳格な法則——因果の原理に従っているという思想である。」

「わたしは、エペロヘータが彼らの脳を支配してはじめているのを知っているでしようか。フルシチュフは共産党幹部さえ生命を乞ひやかされた地獄のようなターリン支配のことを書いています。このように、*『無神論学習書』*の著者たちも、大きな恐怖に襲われるわけにはなかりませんでした。彼らは、自ら

完全に正常であると言うことがで  
きるでしょうか。私たちのだれが  
いったん正気でしょうか。私たち  
は、豊かな地球に住みながら、三

十年ごとく、いつもの静寂によつて、  
 して問題を解決することのできない人種に属しています。私たちの心に、なにかまがうがいがあるはずですが、無神論者はこれを信頼することが正しいと考えているので、  
 ようか。

どんな人が、少くとも、狂気、  
 神経病、麻痺患者、眼瞼つき、自閉症、誇大もう狂狂、愛慾性欲者文難  
 感など、の範ちゅうにはいらな

でいられますか。そこは完全な、正解なことがあるでしょうか。心よ、おまえはだれか。おまえの正体を見せよ。おまえの最後の権威者はだれか。だれに、おまえは実体について尋ね、その最後の秘密をおまえに明らかにするようにと求めたことができるのか。

滴——それが私の存在です。それは一滴のうたが、海の中に生まれます。それによって、私は大海を離れることができません。私の存在は、あらゆるものによられるその一部分です。

私自身が生かすことに気づいて、理想について謙遜に考えるかわりには、それを数えたいと考えるやいなや、それはやはり実体ではなくないか、非存在、幻想となります。

「神の本質」——神だけが存在し

「それは、彼は創造しました。しかし、彼は自身のうちにおいてそしたのではありません。彼の中で、私たちは、私たちの存在、いのち、活動を持ちまゐる。彼は、彼が創造したすべてを飲み込みます。なん徳という細心の心があり、それの完全な組織を持っており、生命の機能すべて備えていゝるものに、私たちは、みな、いかに逆うなら、私たちの存在はそ

賢い人は、冗談の言いかたをわ



博物館になっている聖ワシリイ寺院

# 無神論者になることは宗教的である

よりもずっと困難なことです。

私たちは、できる限り、私たちの無神論の友人たちに接近しようとして努力しました。

無神論は、偽りの宗教が聖的真理に到達する道となることができず、無神論は、ある年代には、一般に、偽善的宗教の迷信の結果です。しかし、その時、それは一つの通過路です。その通過路に上まらなければならぬ。

私たちは、また、自ら無神論者であるものについている人たちの皆がなんともうにそうではないことを知っています。十八世紀の有名な無神論者、バロン・ホルバッハは、神を彼の個人的な敵であるときめつけました。彼にとつては、自然以外の存在は同様なものでした。彼によれば、自然がすべてのものを造り出します。そして、それ自身は造られざるものです。しかし、これは、まさに、私たちが神として信じているものです。自然には、法則、秩序、目的、愛があります。ホルバッハが自然によって理解していることが何であるかを説明はしませんが、彼は、嫌いな「神」ということを「自然」ということばに置き換えていたに過ぎなかったという印象を強くします。これはほんとうの無神論ではありません。

多くの人々にとって、無神論は、宗教が未だ探求するところのきざしであることについての欲求不満の隠れた表現に過ぎません。その無神論は、信仰の抑圧であり、それは、彼らと対話の方法を知らない私たちの罪です。クリスチヤンは未信者になる時、キリスト教を離れ、あることを忘れないでなければなりません。医者は医者同士の交わりの時には手術用器を用いますが、賢い医者は患者と接する時には彼らにわかる用語を用います。宗教の教師はたとえクリスチヤンでも、聖書の用語を知らなければならぬ。彼の信仰を分る方法を知りません。このことが、多くの人々を宗教から遠ざけています。

きるでしょう。

その第一の教義はこうです。「永遠から絶えず運動する物質が存在してきた。それが生命を創造した。」

そして無神論者にこのことがわかるのでしよう。有名な天文学者、ホイールは、それと反対の証拠をあげています。「宇宙の性質」という本で、彼は次のように書いています。

創造についての論争をさけるためには、宇宙の物質すべてが無限のむかしから存在することにならなければならない。そして、これは、実証的な理由としては存在し得ない。なぜなら、もしそのとおりなら、宇宙には少しの酸素が残っていないことになる。私が天体の内側について語った時に説明したように、酸素は、いつも、宇宙のどこでも、ヘリウムに変化する。そして、この変化は、一時的であり、それ故に、酸素はほかの元素の破壊によってほんの少しの量も作り出されることはできない。それなのに、どうして宇宙には酸素がほとんど全部存在するのだろうか。もしも物質が無限のむかしから存在していたのなら、これは全く不可能なことである。それで、宇宙が何であるかを見えたと、創造論が簡単にたがつけられないことに気がつく。

私たちは、また、熱力学の第二法則によって、宇宙のすべて

の観察し得る物理的過程において、エネルギーがわずかながら減少する。宇宙は退化している。それが退化しはじめてからかなりの時間が経過しているということは、その初めがあったという証拠である。

聖書はこう言っている。科学を語っています。すなわち、「見えるものは一時的である。」これに反対するどんな証拠を無神論者たちは持つていようか。何が、彼らに、物質は永遠に存在すると信じさせるのでしょうか。いつも移り変わる証拠とはなんなのでしょう。しかも、あなたがたはそれを信じなければならぬ。そして、そう信じることが、非常にむずかしいことです。神はいない、愛する天の父はいない、物事は目的がない、まもなく破滅する私たちの人生には希望することができません。

## 人生における大いなる危機が無神論者をふるえあがらせます。

レーニンが、ロシア革命が最大の危険にさらされた時、ペテルズブルクが反共産の将、コルニコフの軍隊に包囲された時、演説をした中で、なん回か、ダイ・ボエー「神よ、われらを救え」を叫びました。これは、願望を込めた叫びでした。このふたりの信者の聲には、たの一度も対されることはありません。しかし、神の名のほけりません。スターリンは、この大危機の時、ただ「神よ、トーチ」作戦以外には、このことを便りませ（北アフリカ侵略）に成功を与え

たまえ」「過去は神に願する」などと言っています。

毛沢東は厳格な無神論者です。しかし、一九三六年、共産党中央委員の一員として、彼が重い病氣になった時、彼は洗礼を受けることを要求し、尼僧の手でバプテスマを受けました。彼の妻が蒋介石の軍隊によって射殺された時、彼は「不死」という宗教詩を作り、一九七一年、イギリスの新開闢者、スティーヴン・グレイは、彼は言いました。「まもなく、わたしは神の前に立つことになるだろう。」

さて、このような事件は、とても教訓に富んでいます。もし、あなたが橋を造った技師であるとしたら、橋を二匹の猫が渡ったからと言って、その橋がいつかある証拠とは考えないでしょう。汽車がその上を通過しなければなりません。私たちは、無神論の教義が美しい教えだけであるとは考えることができません。

共産主義者イン・ター・シヨナルの総裁、ジョージ・エフは、スターリンの手によって殺されました。彼の最後のことばはこうでした。「聞け、イスラエルよ。われらの神は唯一の神である。」同じようにスターリンによって殺されたソビエトの内務大臣イオダは言いました。「神はいるにちがいない。なぜなら、私の罪が私に及んだからだ。」ソ連無神論連盟の長イアロスラフスキーは、死の床からスターリンにお願いして言

ました。「私の本を全部燃やしてください。ごらんない。彼がここにいます。彼は私を待っています。私の本を全部燃やしてください。」

党を開放されて、仲間によって投獄された共産主義者といっしょに共産党の牢獄に入れられていた時、私は同じような場面に会ったのを思い出します。

私たちの無神論の友人たちが、これらのことをよく考えるようにおすすすめします。さて、彼らの学習書のさじに細部にわたる分析にはいる前に、彼らの思想を文章で明らかにするために、ソビエト連邦の共産主義者に対する私たちの態度を、まず説明しておきましょう。共産党の党員はひとり残らずキリスト教信仰の敵になろうと考えていることを私たちは彼らから学びました。資本主義体制の下では、世界のそのほかのどのところでもそうですが、共産主義者はキリスト教の味方のように振舞い、私たちのクリスチヤンの兄弟たちに対話を求めてきます。しかしながら、これは戦略上の動きであることは、私たちにわかってきます。キリスト教に対する共産主義の真の態度は、『無神論学習書』に見られるとおりです。それは敵の一つときめつけられていきます。

見えるものは一時的であり見えないものは永遠に続く



人類最古の記録はみな、われわれは神によって造られたと言っています。

## 宗教の起源

「宗教は、人間にとって生まれつきのもではない。それは、人間の本性の移り代わらない性質ではない。」私たちが敬する神は、科学がそのことを証明したと言います。「考古学上の発見が、なん万年もの間、人間はなんら宗教を持っていなかったことを示している。」

私は科学アカデミーの会員ではありません。私は、無学ながら、考古学は過去に存在したものを発見することができたのであって、存在しなかったものは発見できなかったと信じています。

それは言いつながら、しかし、会員たちは我々を言いつけているのではありません。彼らはほんまに論争をしています。現代人の先祖であるヒタクトロブスやシナントロブスが住んでいた洞窟が発見されました。そこには、たくさんの石器や、食べられた動物の骨がありました。「しかし、その時代からは、もっとも幼稚なものでもその当時存在していた何か宗教的表現のしるしを不発掘がなされたためではない。」

このことは、私に、ひとつの物語を思ひ出させます。あるイタリヤ人がひらのユダヤ人と討論しました。「あなたがユダヤ人はどうも進歩的。あなたがたは世界でいちばん知的な国民であると言つて、大いに宣伝している。まったくはげしかったこと、イタリヤでは、強弱が行なわれ、少くとも三千年前の地層から電線が発見された。それは、われわれロー

の歴史の太古の記録によって自らを方向づけます。そして、このことが、人類の起源の分野においても、良い考えをもたらすにちがひありません。

マ人の祖先が、その当時すでに電線を使用していた証拠である。ユダヤ人が答へました。「イスラエルでは、四千年前の地層が発掘されたが、なんも見つからなかった。これは、あなたがたが電線を使用する前に、私たちが無線電線を持っていた証拠だ。」

先史民族の住居に宗教遺跡がないことが、宗教の見えるしるしを持たない宗教の霊的な形、瞑想、沈思、真理における礼拝などからなる宗教があった証拠であると言つたのでしようか。正直にお話しましょう。同志諸君、アカデミー会員の皆さん。

しかし、論議を進めるために、私の敵は、ある時、人間が宗教的になったということが、どのようになつて起つたのかを説明しなければなりません。彼らは、ネアンデルタール人の時代に、二つの理由から宗教が現れたといひます。第一に、部族の死んだ人たちが墓場から出て来て、生きている者たちに危害を加えるかもしれないという恐怖から想像される死に対する原始人の恐怖。第二に、自然の災害に対する原始人の無力。

ところで、ヒタクトロブスはクロマグノン人やネアンデルタール人よりもっと原始的でした。彼は、後者の二人種よりもっと無力でした。そうであるなら、論理的には、彼はもっと宗教的にならなければならないことになりま

私に答へます。私の敵たちはアカデミー会員であり、そのある者は歴史学者です。彼らはローマ人と国家の起源を互ひのうちに考へているのでしようか。そうです。彼らは、私

不滅の存在に対する信仰と願望がすべての宗教に靈感を与えました。

「存在」の単純な事実がありま

す。私は年をとり、仲間が死にま

す。それが、私の子供たちが成長

するにつれて、今度は私の死ぬ番

がまわってくることを警告しま

す。私をとりまくすべての対象は

腐ちていき、枯れていきます。し

の犠牲をやめました。しかし、彼らは、専ら自らを犠牲にしました。

とにかく、一度は、私たちの敵たちは、私たちについてよいこ

とはを言いました。キリスト教の部

分は、国家的に、あるいは民族

的差別がありません。そして、こ

のことは、すでに二千年前からで

す。ポーランドにおいて、そして

ソビエト連邦において、ユダヤ

問をしめることができなかった。火が放たれたという考えを

追放することができなかった。そして、このうわさを取り除く

ために、ネロは、犯人を作り上げ、この上なく残忍な方法で、

普通、キリスト教と噂はれて

とてもいみじくされていた人々

を、罰した。キリスト教とい

う名まえのものとなつたキリス

トが、チベリヤ地方の代訴人、

## キリスト教の起源

「無神論学書」は、私たちク

リスチャンにほめてこたをいうこ

とから始めています。次のとおり

です。

「無神論学書」は、私たちがク

リスチャンにほめてこたをいうこ

とから始めています。次のとおり

です。

「無神論学書」は、私たちがク

リスチャンにほめてこたをいうこ

とから始めています。次のとおり

です。

「無神論学書」は、私たちがク

リスチャンにほめてこたをいうこ

とから始めています。次のとおり

です。

「無神論学書」は、私たちがク

リスチャンにほめてこたをいうこ

とから始めています。次のとおり

です。

「無神論学書」は、私たちがク

# 美しい初代教会の証しは私たちの励まし

そのようなわけで、「無神論者」が「一世紀にはキリストに関する記述が絶対になかった」という「絶対」は絶対にあり得ません。私たちが、キリストの存在について確言している「一世紀のローマの歴史家を知っています」。

私たちは「第二」の人物、スエトニウス（だいたい七五―一六〇年頃）によって敵に反撃することが出来ます。彼は「ウィタ・クラウディイ」に書いています。

「……キリストの運動によってユダヤ人たちがひきこもり騒ぎを起こしているのを、彼（クラウディウス）は、彼らをローマから退放した。……」

このように、もうひとたび、キリストの存在が確認されます。そして、もっともで出来ます。

皇帝クラウディウスの時代に、このキリストは、既に、多数の弟子をローマに持っていました。六四一年に、彼は既に殉教の迫害を受けました。そのことを、この同じ著者が「ヒタ・ネロニス」の中に書いています。

「彼（ネロ）の支配下で、多くの殉教行為が抑圧が行なわれた。そして、多くの新しい法律が制定された。……不思議な、奇妙な迷信を信じる人たちの集団である「クリスチヤン」たちの上に刑罰が課せられた。

次に、第三番めのローマの歴史家、プリニがいます。（六一―一三一年頃）彼は、皇帝トレイシヤンに書いています。

閣下、私はわからないことをお

尋ねるが私の主義であり、私に、無知を教導するのは、だれにとってもよいことではないでしょう。私は、これまで一度も、クリスチヤンの裁判に立ち会ったことがありません。それで、一般に行なわれている刑罰や罰金などなんの知りません。私はとてもためらいながら次のことをお尋ねしたい。年令によって差別があるものでしょうか。弱い者も強い者も同じ取り扱ひを受けるものでしょうか。転向する者は赦されるのでしょうか。かつてクリスチヤンだった者は、もうあることをやめることによって、何も罰を受けることがなくなるのでしょうか。それとも、罪人だけに、その名まえがかぶせられるのでしょうか。

これが、私のとくに、クリスチヤンとして持て来られた人々の事件で、私が採用した材料であります。私は彼らに、クリスチヤンかどうかと尋ねます。

彼らがそれを認めたら、私は、大なる罰を受けることになるぞと聞いて、二度、三度とその質問をくり返します。彼らが、間としてううい続けるならば、私は彼らに死をいいます。

私たちは、第四番めの文書によって敵に反撃することが出来ます。私たちは、ネロの迫害のすぐあとに書かれたローマのレシヨップ、聖クレメントの最初の手紙を持っています。とにかく、それは一世紀のもので、それは、また

キリスト教についてのたぐさんの情報を記録しています。そこから私たちは、当時のコリントの教会の状態を知ります。それは、私たちに、使徒ペテロが殉教者として死んだこと、パウロが七度投獄されたことを知らせてくれます。私たちは、ダナイド一樹や、ディルケなどの殉教者の名まえを知ります。

一世紀に書かれた「クレメント」は歴史的事実として、キリストを知っています。彼は書いています。

「キリストは心の美しい人たちのものであって、人々の前に高ぶる者たちのものではない。神の権威をもった王である私たちの主イエス・キリストは、高ぶるやうな優の装ひをもつて来られたのではなく、彼はさうすることのできたに、聖霊が彼について言ったとおりであります。」

四世紀のキリスト教作家、サルピシウス・セベラスの「断片」が、同じように、批評的に調べられ、た。そして、それがタチヌスの過去の作品からの引用に基づいていると判断されています。それは、私たちに、紀元七〇年のエルサレム捕囚後にタチヌスによって開かれた戦争議会の様子を知らせてくれます。それは、ユダヤ教とキリスト教の宗教がもつて完全な根絶されるために、エルサレムの寺院は破壊された後にはならないという意見を述べたと報告されています。キリスト教はユダヤ教の中から起こりました。それで、根が切り倒されれば、幹は容易に破壊されるでしょう。（「初代キリスト教と異教」ドナルドスベンス著）

一五五年にクリスチヤン哲学者アリスタイデスが、皇帝ハドリアンに、教会の道徳教訓の全写本を提出した。それが精確な思考体系を持ったために、既に古くなっていたにもかかわらず、次に引用しよう。

彼ら（クリスチヤン）は迫害する人たちに、彼らは（聖書の言葉をもつて）熱心に説き及ぼす。彼らは友人にします。彼らは、彼らの敵に対して良いことをします。王さま、彼らの妻は処女のように清純で、彼らの娘はしとやかです。彼らの夫はすべて悪い性的関係から身を守り不純なことを謹みます。彼らは他の世界に行く時に報いを受けるという希望を持っています。

奴隷の男や奴隷の女、またその子どもたちについては、もしそこだれがいても、彼らは彼らを説得してクリスチヤンにします。そうしたあとでは、彼らは、何の差別もなく、彼らを兄弟と呼びます。

彼らは異教の神々を礼拝することを拒みます。そして彼らはけんそんと喜びの道を行きます。彼らの間に、偽りは見られませんが、彼らはお互いに愛し合います。やもめの必要は無視されません。そして、彼らは、孤児を養育する人から助けを受けます。惜しげなく、高ぶらずに、持てる者は持たない者に分け与えます。クリスチヤンは他國の人を見ても、家に連れて行き、彼をもてなします。彼らのひとりに赤ん坊が生まれると、彼ら

は神を賛美します。もしそれがみどり子のうちに死ぬと、それが罪なくこの世を過越したと言って、もつと神に感謝します。しかし、彼らのひとりか不正を行ない、罪を犯かして死ぬと、彼らはいくく嘆き、その破壊に会おうとしている者のように悲しみます。

このように、王さま、クリスチヤンには戒律が与えられており、このように、彼らは行なっており、神を知っている者として、神が与え、彼らが受ける正しい要求を、彼らは神に求めます。そして、彼らは彼らに対する神の神性を知っているために、ごらんなさい。彼らのために、美がこの世に溢れます。彼らのなす善を、彼らは大声でおおせいの人に聞こえなくして語ることはあません。彼らは家を隠す人のように、彼らのほこしを隠します。彼らは正しくあるように努めます。それは、ちょうど、彼らのメシヤにあいまいなことを待ち望み、彼らが約束のものを受けることになっている人たちのようです。

実に、この人たちが、新しい人々です。彼らの中には、何か聖なるものがあります。彼らの書いたものを手にして、それをお読みなさい。そうすれば、私が、私自身の權威でこれらのことを押しつけようとしているのではないことがおわかりでしょう。彼らの書いたものをから読みなさい。私は固く信じます。現在のところについてだけでなく、来るべき世に

についても同様です。私は疑いなく思いますが、この世は、今は、クリスチヤンのとりなしがあればこそ立っています。彼らの教えは光の門です。

それで、神を知らない人たちに近づき、すべての時と永遠から来る朽ちる言葉を彼らに受けさせてください。そうすれば、メシヤなるイエスによって全人類に福音の美しい救きから彼らは救がれることができるで

これでもまだ、一世紀には、キリスト教に関するなんらの情報を「絶対」に「私たちに与えていない」と主張しつづけるのでしょうか。しかし、私は、一世紀に書かれたキリスト教についての記録が絶対になくはないというのには異議を申し立てる必要はありません。そして「無神論者」の著者である「アカデミー」会員たちは、続いての文章の中で、自らを否定します。彼らは、断示録は紀元六八年に書かれたものだといい、それは、ちょうど、彼らのメシヤにあいまいなことを待ち望み、彼らが約束のものを受けることになっている人たちのようです。

「……この人たちが、新しい人々です。彼らの中には、何か聖なるものがあります。彼らの書いたものを手にして、それをお読みなさい。そうすれば、私が、私自身の權威でこれらのことを押しつけようとしているのではないことがおわかりでしょう。彼らの書いたものをから読みなさい。私は固く信じます。現在のところについてだけでなく、来るべき世に

ついていても同様です。私は疑いなく思いますが、この世は、今は、クリスチヤンのとりなしがあればこそ立っています。彼らの教えは光の門です。

それで、神を知らない人たちに近づき、すべての時と永遠から来る朽ちる言葉を彼らに受けさせてください。そうすれば、メシヤなるイエスによって全人類に福音の美しい救きから彼らは救がれることができるで

「福音書の内容の簡単な分析が、それが後世の偽造によるものであることを証明します。（このことを主張するために、私の敵たちはエングルスにさえ反対します。彼は、キリスト教が偽造者たちの作品であるとする考えを笑っています。F・エングルス著「ブルジョア」と「古代キリスト教」参照）

言われるように、福音書が二世紀の終わりに作り出されたとする。その時は、使徒たちの名まえがキリスト教世界では、とても尊敬されてきました。その時、彼の作品が神の靈感によって書かれたものであることを保証したいと考える偽造者が、なぜ、イエスがペテロを「サタン」と呼ぶ、他の弟子たちを叱責しているのをわざわざ教会に教える必要があるのでしょうか。このような言葉は、それが実際に書かれたものでなければ、福音書の中に書かれたことにはかたがたでいられるでしょう。使徒たちは、教会では、高く尊敬されていましたが、彼らに対する非難の言葉は、クリスチヤンによって作り出されたものではないと思えます。

二世紀の終わりに、キリストは、全教会で、神として礼拝されました。どんな偽作者でも、彼がわからな女たちと交友関係がなかったか、十字架上で、「わが神、わが神、どうしてわたしを見捨てられたのですか」と泣き叫ぶか、というような偽作を彼に類することは、彼の作品を現る書として受け入れさせるためには得策でないと考えたのではないのでしょうか。同じように、ゲッセマネにおけるキリストの恐れと不安の記事についても考えられます。これらの出来事は、救い主の名を攻撃にさらすことになりました。

一八八一年に書かれた本の中で、セルサスは、彼の弟子たちが深い沈黙の中で苦しみ耐えていたことを指摘しながら、十字架の痛みを指し、イエスをあき笑っています。彼は、福音書から、イエスに関する事実を知っていたにちがひありません。伝道者たちは、彼ら自身の利己的な目的を達成するために、彼らを書いたのではなく、ただ、彼らはそれらを重しするたにだけ書いたのです。そして彼は、もしも、たの意図、悩みや苦痛が、多くの人たちの意見で、イエスの品位を低下させるとしても、かまわないと思つたのでした。このような説明は、福音書の純粋性のあかしであり、それらが初期の時代に書かれた証憑です。

のちの偽作者であれば、イエスに対するこびへつらいでいはいだつたにちがひありません。彼らは、彼が同時代の人びと、彼自身の民たち、彼をもっとよく知っていた人々によって、彼自身若者に、何故なんじはわれを畏き者といふか」と問うたように、悪魔と考へられていたといふことを、私たちに教えるようなことはしなかったでしょう。

福音書と書簡聖書は、わずかながらアラマイク語を留めています。アラマイク語は、パレスチナで、ユダヤ人たちによって話された言語です。もし福音書がギリシヤ語を話したものでないならば、どうして書かれたものならば、どうして偽作者たちは、アラマイクの言葉を残したのでしょうか。それらは、クリスチャンの大部分がユダヤ人であったキリスト教歴史の最初の一千年間だけ通用したのである。

福音書は、安息日の正しい守り方について、ユダヤ教の儀式の価値について、イエスとその反対者たちとの論争を書いています。一世紀のユダヤ人読者にとってはそれらは重要でした。二世紀の異邦人クリスチャンたちは、そのような論争が理解できなかったり興味がなかったりしたでしょう。偽作者ならば、それ、十分の一税、ユダヤ教の洗いきよめの儀式、パリサイ人とはだれで、サドカイ人とはだれかなど、その意味をいかに説明しなければならなかったにちがひありません。しかし、福音書の著者は、このような知識は当然のことと思つていました。それらは、これが非常に早い時代に書かれたもので、彼らの間に起こったことを正確に、イエスの生涯のエンパットとして記録したものであります。

新約聖書の二つを見ても、村に教会があるという記述が全ありません。キリスト教は、最初の頃には、都会の現象だつたにちがひありません。それなのに、偽作者たちは、なぜ、農夫の花嫁の、百姓だのと、いつもういなかの生活のことばかり、イエスの口から語らせているのでしょうか。

この時代には、偽作の大家たちが横行していました。彼らは、のちになって、彼ら自身が犯罪人であると認めつけた人々の頭に聖書の後光を照らしつけました。もしも、伝道者が偽作者だつたならば、このような重大な過ちを犯かざらなかつたであらうでしょう。また、聖書として、彼らの本を受け取らせることに成功しなかつたでしょう。

聖書の記述がその古い年代と同様、歴史的に正確であることを証明している記事がヨハネ福音書一九三四に見られます。兵士のひとり、私たちが十字架の主を横で突き刺した時、「血と水が出てきた」と書かれています。その理由は書かれていません。しかし、伝道者ヨハネは目撃しました。そして、彼は「見たとおりを、書き置いた。その時代の彼のみなから他のだれも、何が起こつたのかを説明することができませんでした。それから十八世紀経って、クロフォールの発見者であるシンブソン博士が、イエス・キリストの死因は科学用語でいう蝕血、あるいは現代用語でいへば、心臓破裂であつたと説明しました。人がそのようにして死ぬと、同僚がぐつたりと釘づけられていました。」イエスが叫ばれたように、大声で叫びます。そして「血が心臓に集まつて鼓動を止めます。しばらくの間、血が流れなくなりません。それは血清（水）と凝固体（血液中の赤血球）に分離します。兵士がむね腹（心臓）を突き刺した時、血と水が流れ出たのです。」

筆者があまりもしなかつたことを書いて、それが二千年後、事実とひいて符合する厳密な科学的説明がなされるなどということは考へられることでしょうか。

福音書がのちの偽作であるという物語りは、のちの偽作そのものの中にあります。ユダヤ人は他の部族をきびしく存在しないおぼけ人間が世界のどの部族よりもその教において愛したキリスト教市民とその文化の全部の創造主であつたなどということは、考へられることでしょうか。

二千年間にわたる迫害と、憎悪と、欠乏に耐へて生き残つて来たキリスト教部族のような部族は、この二千年の間に存在したためしがありません。

キリスト教は世界のもっとも偉大な事実です。そして、この偉大な事実が存在しない人間によつて作られたと言ふのですか。全くはけがたこととす。だが、そんなことを信じることはできるでしょうか。

ジョン・ステュアート・ミルは書いています。「福音書に書かれているようなキリストは歴史的でないと言ふことは、意味のないことだ。彼の弟子たち、あるいは改宗者の中のだれが、いったい、イエスが言つたとされて、イエス、福音書を明らかにされたその生涯と人柄を作り出すことが出来たのだろうか。ガラヤの偽物たちにもそのようなことができないのはきまつていて、聖パウロにも出来たことない」

イエスの人格——その神話や柔和だけでなく、人を導き、問題を解決する才能、洞察、伝道者としての能力などを、だれが作り出したと言ふのだろうか。

それで、だがイエスを作り出した人だと言ふのだろうか。ユダヤ人たちが彼を作り出したとは考へられませんか。なぜなら、一世紀においては、彼らの一神教が非常に厳格に主張されていたので、見える神の化身としての人間を作り出すなどということはけつして出来なかつたからです。

ユダヤ人は他の部族をきびしく存在しないおぼけ人間が世界のどの部族よりもその教において愛したキリスト教市民とその文化の全部の創造主であつたなどということは、考へられることでしょうか。

初代のクリスチャンたちもまた彼を作り出すことができませんでした。

私たちは、彼らにイエスという人間を作り出すことなど及びもつかない、彼らには彼の美しい名に少しの偽をつけることもできないことは、初めから分かっていることです。

聖パウロが既に書いているとおり、その当時改教した人たちは、みな、大欲、むさぼり、名譽欲、自己本位の動機からそうしたのであり、神のことはをねじ曲げていました。欲ばりな、自己中心な伝道者には、イエスを作り出すことなどできません。

そして、たとい、人びとが肉體となつた神を作り出すことに成功したとしても、彼らは、彼を、ユダヤ人として、きびしく愛している民族に属する人間として、その中の一大工として、馬小屋のかいには桶の中に生まれ、十字架で死に、死後に一冊の本を残さなかつた無学な男として作り出したとは考へられませんか。

このような事柄は作り出すことのできなかつたことです。悪魔が荒野でイエスを試みたまつた時に、三つの質問、「あなたは神の子なら、この石にパンになれといつけないか」、「あなたが神の子なら、ここに神殿の

隅から隅まで降りなさい。」「神は御使いたちに命じてあなたを守らる。」「とも、「あなたの足が石に打ち当たることのないように、彼らの手で、あなたをささへさせる。」「とも書いてあるからです」そして、「もしあなたが私を拝むなら、（この世の権力と栄光の）すべてをあなたのものとしなす。」「を引用して、ドストエフスキは、「カラマゾフの兄弟」に次のように書いています。

この世に、実際の、ばかげた奇跡がかつてあつたとするならば、それは、この三つの誘惑の目に起こつた。これら三つの質問のこぼれ自体が奇跡であつた。単に議論のための仮定であるが、悪魔のこれら三つの質問が聖書から全く消され、われらがそれらをもとに作り出したものはならぬ。そうするために世界中のすべての賢者——支配者、高僧、学者、哲学者、詩人——が一掃に集められ、この場面じつたりの三つのことは、三つの人間のことは、世界と人類の未来の歴史を全部い表わすような、三つの質問を作り出す作業を彼らにさせたと思へることができるとするならば——この世の知恵は、みんなして、荒野で知恵と力のある靈によつて、その時、実際にあなたになされた三つの質問に匹敵する深みと力あるものを作り出すことができたか、あなたは考へるだろうか。これら三つの三つの質問から、これらの言葉の奇跡から、われらは、はかな人間の知恵によつてではなく、絶対の、永遠の知恵をもつて、ここできなされなければならぬことが分かる。

有名な無神論作家、インガソンは、イエスについて次のように書いています。

レノンと共に、私はキリストはひとりの完全な人間だつたと思ふ。「ひとりにしてもらいたい」と思ふことは、ひとにもそのようにしなさい。」「とは、宗教と道徳の模範である。それは、最高善である。それは、ソクラテス、プラト、マホメッド、キーセ、あるいは孔子の教えよりもはるかに高いものだ。それは、千七世紀に授けられたと言つた十戒に取つてかえられ

た。それは、キリストの「ひとりにしなさい」を實踐すれば、殺人も、うそも、むさぼりも、あるいは戦争もなくするにちがひないからである。

完全な人間が非常に不完全な使徒たちによつて作り出されたものでないことは明らかです。

完全な人間が非常に不完全な使徒たちによつて作り出されたものでないことは明らかです。

## 福音書の初期の起源に

## 反対する議論

さて、しかし、公明正大にいきましよう。私たちは自分たちの議論ばかりをたくさんし過ぎて、福音書の初期の起源に反対するアカデミー会員たちの重要な議論を忘れるところでした。それらは三つあります。

(1) 福音書は宮から商人たちを追いつたことを書いています。「しかし、その宮では、何の商売もなされていなかった。」無神論の博士たちは、どうしてそのことが分かるのか書いていません。しかし私たちは、ユダヤのことに関する信頼すべき参考文献であり、私の敵たちよりもこのことではずっと権威のあるアルムードから引用しましょう。學術論文「シババット」15ページによると、それは、宮の破壊前四十年に、それはちょうどイエス存命中になりますが、そこに商店がありました。

(2) 「聖書はパレスチナのカダレナ地方の二〇〇〇頭のぶたの群れのことを書いています。しかし、ぶたを飼うことは、旧約聖書の時代からユダヤ人たちに對して禁止されていた。それ故、パレスチナにぶたの群れがいたはずがない。」

この議論の結論について、読者の皆様はどのように考えますか。まあ、聞きましよう。アカデミー会員たちが話しています。私たちの国にはそれを禁止する法律がありませんから、とがめだてることができません。これらの提議がもっともらしく聞えるでしょうか。

その上、モスクワのアカデミーは、地理上の区分を知らねばなりません。ガダラはヨルダンの東、ペラエにありました。その地方はおそらく、パレスチナの領土ではなく、住民はユダヤ人だけではありませんでした。

(3) 福音書の著者たちはユダヤ人ではあつたが、なぜなら、この著者たちは、その当時パレスチナに住んでいた野ね、ジャッカル、パンサーなどの動物のことを書いていないから、またなんと迷信に満ちた言い方です。

それで思い出しますが、『無神論者福音書』は、シント・ディックが書いたものではない、なぜならそこで、しるみや、陶器出や、わすめのことが書かれていないからという考えに導くことができます。しかし、それは多くのクリスチャンたちが、恐怖の初期の年代に、刑務所でこれらに苦しめられたかを私は知っています。

私は、私の敵たちに公正に對処しました。私は、また、単に私の考えだけでなく、福音書について彼らの議論を考えました。それは、読者の皆様がこれら二つの考えを比較検討するためです。

## 新約聖書のメッセージ

新約聖書が幻覚による、のちの偽作であるという批評は根拠のないものです。

しかし、もしそうなら、なぜ批評するのでしょうか。

新約聖書が悪い本だったと仮定しましう。それなら、どうしてそれを反証するための二〇〇ページもの論文が書かれなければならないのでしょうか。毎年、ソ連は度々小説、悪い小説、時には非道に悪い一読みの物が現れます。だれひとり、長い年月をかけて、悪い小説に對する全世界的な規模の反対運動をする人はいません。読者自身がそれを追放します。共産党の路線はゆるぎを覚めます。重要と考えられている本が突然燃やされます。二千年前には、だれもタリシンの本をなやがしにすることができませんでした。しかし、ある日突然、命令が下りました。この本は、いっぺんになくなりました。だれもそれに反対する者がいません。それらは、あたかも書かれなかったように、沈黙のうちに葬られました。

その後、フルシチョフが、彼がタリシンの追従者であったことが読者に気づかれないうちに、編集されて、出版されはじめました。これらの本も、また、消え失せました。なんの反論もありません。だれひとり、トロツキの多数の論文に反対する者がいません。

なぜ、新約聖書を批判し、これを粉々に破り捨ててやめなことが行われるのでしょうか。いっほうでは、同時に、ソニエトの大多数は、聖書から自分たちの考えを引き出すための写しを持つことも禁じられていたのです。

信仰といふものは、公に試されたい証の上に立つものでなければなりません。科学が暗示すること

は、特定の真理の重要性ではなく、真理を追求し、しほりつけられ、制限されているその有用性を引き出す権利です。特定の信仰はそれが反対者に対して正当化される時だけ、命脈を保つことができます。

それなのに、どうして諸君は人びとに新約聖書を持たせないようにするのでしょうか。

その理由は、福音と新約聖書が全体として、すべての人に必要な最も重要なメッセージを含んでいるからです。

料理人がいないのにおいしいことが食べられるなどということが考えられるでしょうか。自然は宴会です。そこには、天然の小麦があり、いもがあり、牛乳があり、肉があり、さまざまな種類の果物があります。そこには、光があり、雨があり、美しい花や、小鳥のさえずりがあります。そこにはあなたがたの肉体を養い、あなたがたの魂を喜ばせる、役に立つものや、美しいものがあります。だれが自然の宴会の料理人でしょう。それは神である創造主神です。

こんな話があります。ある科学者が研究室から家に帰って来ると、彼の妻が夕食ですと言いました。彼の前にサラダが運ばれて来ました。無神論者の彼が言い、「もし、レタスの葉、塩のつぶ、ソースや油のうすうすざりにした卵が永遠の昔から空中に浮いていたら、ある時偶然にサラダが出来上がったかもしれない。」「そうね。」と彼の妻が答えました。「でも、わたしの作ったのより、見た目も、味もよくないわよ。」「原子が無作為に結合しても、こんなに美しい宇宙はできなかったに違いありません。原子は神秘です。いのちは神秘

です。科学者たちは、その秘密を発見するところから遠いところにいます。それならば、物質や生命の創造主なる神については、もっとそうです。ヨハネの福音書はこう言っています。「神を見た者はいない。」「千セが、」「わたしに分かるように、あなたの顔を見せ下さい。」と主なる神に尋ねた時、至上命令の答えが返って来ました。「あなたは、わたしの顔を見ることができない。人はわたしの顔を見ると、死ぬ。」

どんな哲学者も彼を理解できません。しかしどんな素朴な人でも彼を理解できます。それは、ちょうどどんな科学者も原子の秘密を理解できないが、しかし、どんなでも原子から出来ている物質を操作することができると同じです。

新約聖書は、この神について私たちに語っています。また、自然についても語っています。

私は、共産党員である刑務所の係官と話をすることがあります。

彼は私に打ちあけ話をしてくれました。「ある秋の日に、わたしが窓際に木の葉の落ちた裸の木を眺めておりました。春になれば、また、芽ふき、小鳥がさえずるようになるのを私は知っていました。そして、わたしは、だれか分らない人、あるいは、だれか知らない人、を拜んでいます。た、それが、わたしに、木や、小麦や、花を与えてくれるのです。火の中に石炭を投げ込むと、それが美しい炎に変わります。わたしは、力あるいは見えざる人を崇めます。わたしは、それがだれで、何であるか知りません。それは善をもつて、悪に闘います。そして、時には、醜い生活、それまでも悪だっただけの生活を、聖なることのために殉教する美しい生活に

変えます。わたしは、あなたがたクリスチャンの中に、そのような人がいるのを知っています。」この共産党員は神が理解できませんでしたが、実は、すでに神を理解していたのです。

私たちがイコン（宗教絵）に見るように、玉座に白いひげをはやして座しているというような、神についての原始的な概念を笑うことは、『無神論者福音書』にとって簡単です。

クリスチャンは子供の頃、神について子供らしい方法で教えられます。彼らの多くは、おとなになつてから、聖書のことは、子供らしいことに驚かされるのを覚えます。彼らは子供じみた考えが残っています。それは簡単に、無神論者の物笑いの種になります。しかし、神は、のよな未成熟な概念とは全く違うお方です。

これらの宗教絵は、偉大な科学者ニールス・ボーアによって画かれた原子の絵は、ほかの絵のようではありません。原子は黒くこのでさもないのです。そして神は、私たちが考えている以上の、お方です。しかし、科学は近似値なしには何もなし得ませんでした。私たちがクリスチャンも、人間の言葉を、神についての私たちの感情を表現するために絵を画きます。しかし、私たちの偉大な教師のひとりである聖トマス・アクィナスは、次のように書きました。「神はあなたがたが考えているような、あるいは、あなたがたが理解していると思っているようなお方ではない。もし分かっているなら、あなたは間違いを犯かしているのだ。」

私たちの心はあまりにも小さ過ぎるので、無限なお方を包含す

ることができないのです。しかし——先に言いましたように——私たちは彼を理解することができません。

ひとりのクリスチャンが、ある時無神論者といふしに草原を連れだつて歩きながら尋ねました。「だがこんな美しい花を造つたんでしょ」。「知らないね」。

と相手は答へました。「神についてのばかげた話は一度とくり返さないでくれたまえ。花は自ら存在しているんだ」。クリスチャンはそれ以上言いませんでした。数日後、この同じ無神論者が彼の家を訪ねて来ました。彼は、周囲に美しい花を画いた絵を飾っていました。無神論者が彼に尋ねました。「だがこれを画いたのかね」。

クリスチャンが答へました。「宗教くさいばかばかしはやめてください。この花は私が画いたのでもない。花は自分で絵の中にはいり込んで来たのです。自然が顔ぶれを造りました。そして自分で、それは地にひびいて、だれの手も借りずに、ちょうどそこにあつた釘にひかかつたのです。それだけのことで」。無神論者が悪い冗談を言いました。しかし、そのあとで、クリスチャンが尋ねました。「谷間や丘の上で、強い香りを放つなんなん方という生きている花が創造主によつて造られたものでないと思はれてゐるのに、香りも、いのちもない絵の中の三本の花がだれかによつて創造されたものと信じてゐることは理屈に合つてゐるのでしょうか」。

神は神秘です。イエスは私たちを教へて言われました。「天にいます私たちの父さま」であつて「街を歩いている、どこでも見かけるようなお父さまではない」。

彼は世界の変わり者です。

たの口をささいに閉じているという明白な事実は、彼らが不公平で、それ故に信じてゐないことを示しています。

あなたがたの信仰を神に置きなさい。

この神は私たちと共に苦しんでおられる。彼は私たちすべてに悲しみを共にされる。彼は、私たちのために御自身を犠牲にされる。彼は私たちを喜んでおられる。マルクスと歴史的唯物論は、そのまじくそのまじく、神を奪ひ取り、そしてそれを廃棄させました。

神についての知識は、この世を深く知るための鍵です。私たちは実体と神を別々に持ち合わせておられません。しかし、神の美に包まれた実体を持っています。同じように、絵の中に、私たちは風景と夕日を別々に持つことはできません。そうではなくて、すべての山や谷が夕焼けに染まつてゐるので

タイのある洞穴で、人間や魚を画いた先史時代の絵が発見されました。その中には「X線画」といわれる絵があります。三千年以上もむかしの芸術家が、彼が見ることのできなかつたが、存在することを知つていた微細なものを画いてゐます。人間や動物を画きながら、彼は頭蓋骨やその器官を、胃や肺と同じように画きました。このような画は、初期のオストラリヤ原住民の間にも見られます。

私たちは、このような絵を原始的だと思ふ。それは私たちの絵のよきに美しくないかもしれませんが、それはもつと美事に近いのです。肖像画の画家が私たちが見る画かれたものはもとの対象ではなく、よき行きの事物です。ひとつの対象について、私たちが見ることのできるのは、顔と手だけです。もし、裸になれば、私たちは

はたを見ることができません。私たちはくわすかなもので満足してゐます。原始の芸術家はもつと実体に近づきたいと思つたのです。なぜなら、感覚的に、彼は純粋的な現代人よりも、ずっと実体に近かつたからです。

新約聖書は世界と歴史について同じ「X線」の方法で語つてゐます。唯物論者は、単に、物ことの外面だけを見ます。信者は、外面的なことだけでなく、それに加えて、内にある世界と歴史を動かすもの、その被造物に働き、行動すると愛として御自身を現わしなされる神を見ます。

神は私たちのために、御自身の御子、イエス・キリストをたまひました。パンやあなたがたのパンの心配を、お百姓が野菜の心配をするように、あなたがたにその製品を供給するよう、学者が世界中から集めた知識をあなたがたに与えて、あなたがたを導くよう、一度も罪を犯したことがない唯一のお方なる神の子イエスは、あなたのために心配して下さつたのです。彼は御自身の義をあなたに与えます。あなたは新しく生まれた赤ん坊のように、一度も罪を犯さなかつた者のようになりま

神と二人になつた新しい生涯が始まります。あなたの罪のために、彼は身代わりとなつて下さつたのです。

あなたは、あなたの罪が非常に重大なものであつたと、いくらか感じてゐます。その罪が他の人の中に苦しみを作り出しました。多分、涙と血が流されました。そして、あなたは罪があります。それで、彼（イエス）は、あなたの罪だけを、あなたの罪の罰も受けました。彼は、エルサレムの近くのゴルゴタと呼ばれる山上で、十字架で死に、それを受けました。彼の傷によつて、私たちは癒されます。

新約聖書は、イエスが私たちの心の扉の前立つて、いつも叩いてゐると私たちに教えます。もしだれでも、彼の声を聞いて戸を開くなら、彼は中に入つて、彼と心とで語り合います。

生活は国のために働くためにだけあるものではありません。食べることも、飲むことも、セックスを楽しむことも生活です。キリストは聖的存在です。彼はあなたに、罪と死と地獄に勝たせたいと願つておられます。そして、あなたの決断だけを得るべきです。

そして彼は来たるべき天国のみならず、あなたの魂に、今すぐ、元國の生活を約束しておられます。新約聖書は、神の子キリストはともて人々を愛されたので、十字架の苦しみと耐えながらも彼を殺す者たちのために折られたと、私たちに教えます。あなたは彼がほうだったかもしれない。キリストは二人の罪と一に死にました。十字架にかかりながら、悔改めた彼らの一人を、パラダイスに救われました。彼は罪を免れ、死を逃れませんでした。大きな罪を赦すことが、彼の最大のよき行ひでした。

新約聖書は無神論者によつて非難されます。その理由は、それが生活の指導原理として愛を説き、人の心に天の二門を作るからです。心は正直に考えはじめます。なぜなら、人生のあらゆるものは、ばばば、愛の欠如によるものが少

なくないからです。一度、キリストなる真理の鏡をじつと見つめると、全人類に対する大いなる愛が、あなたがたの魂に滴ちて来て、あなたは驚くほど自由になるでしょう。

ソレエトの大衆は新約聖書のメッセージを禁止されてゐるので知ることができません。その理由は、それが彼らを神と一つにするからです。それ故、それに対して、彼しく、理由もなく攻撃するので、罪とあがないの偉大なる実体に対するこの深い洞察を持つてゐる私たちの友人の無神論者が十字架の前に身置いた、それに反対して七〇ページの本書を書くことが、容易に理解できます。ありがたない直感ながら、無神論者は聖書は最終的な真理を含んでゐると感じてゐます。

スターリンは死にましたが、共産主義者のだれも、「スターリンが魂の愛する者」とは歌ひません。また、「フルシチョフ、わが最愛の人」とも歌ひません。またその子孫が、今後一〇〇年間、フルシチョフに対して「わたしは、いつもあなたが必要」と歌うこともないでしょう。

しかし、イエスをまつたについては世界中で、彼が十字架に死んでから三千年たった今も、このように歌はれてゐます。

そして、彼らがどんなに努力しても、聖なる母ロシヤでこれらの歌をうたわせないようにすることにはできません。

彼らについては、何の歌もうたわれないでしょう。

既に、今日彼らについて語られてゐる冗談が、彼らが将来受ける評判がどんなものか示してゐます。世界にはたくさん悲しみがあ

ります。世界には笑ひが必要で、私は人々の喜ぶのがとても好き

きなので、みんなが私のはかきかけんを笑つても、気にしません。私は、私の敵が同じ感情を持つてくれることを希望します。そして彼らが、私がロシヤに行きわたつてゐる二つの冗談を彼らに語つても、悪い気持ちを起さないように希望します。

第一、高等学校の生徒が、歴史の時間に、「スターリンとはだれか」と質問された。彼は答へました。「自己礼讃が好きで、人殺しになつた人です。彼は身近かな同志を殺しました。これが私たちの二千四百万人が私たちに教へてゐることです」。

「あつし」。と教授が言ひました。「それは、どうも答へてくだされ。フルシチョフはさういふ人でないか」。

直ちに、その少年は答へました。「フルシチョフは、中央委員会から退散された、ばか者でした」。

「それも、よろしい。それでは最後の質問。フルシチョフとはどんな人ですか」。

「彼は、もつとこのばか者です」といふ答へが返つてきました。教授が彼を止めた。「それは、賛成決議の行われる一、二年後には、多分、ほんたひになるでしょう。それまでは、彼は天才的な指導者です。それで、あなたの答へは間違ひです」。

二つめの冗談。学校で、先生が生徒に教へました。「彼は私たちの父です。そして、帝皇は私たちの母です」。

それから、彼は子供のひとりに尋ねました。「あなたは同になりたかと思ひますか」。

「子供は答へます」。

人々はイエスを愛してゐます。ある者たちは彼を憎んでゐます。大部分の人たちは彼のメッセージに無関心です。しかし、今までの、だれよりも、彼について悪意のある冗談を言つた人がいませ

ん



イエスの最初の弟子たちは、共産主義のもとに生きていました。しかし、愛と自由な意思にもとずき共産主義で取りました。だれも強制されず、何一つ没収されませんでした。愛がすべての人をかりたてて、兄弟と分かち合せてたのです。似ても似つかぬものながら、今日の共産主義の起源も、また、聖書にあります。

聖書を信じない人がいるのは認めますが、その態度に敬意を払うのを妨げてはいけません。ヨーロッパで印刷された最初の本が聖書であったことは、まぎれもない事実です。キリスト教の宣教師が、アフリカ原住民に人食いの習慣をやめさせ、読むこと、文明人として振舞うことを教えたのは、まぎれもない事実です。

以前、人食い人種だった人が、ある時、共産主義の宣教師に言いました。「なんだって、この本がほんとうでないかって。わたしはそれを家を持っていきます。ひざまずいて、それを読みます。するとわたしの心は喜びで燃えてきます。どうして、これがうそのはずがあるまいや。わたしは、人肉を食ひ、飲んべいで、隣びとて、うそつきでした。この本がわたしに語ってくれたので、わたしは新しい人間になりました。いや、この本はうそではありません。」

もしも宣教師たちが、彼らに最初キリスト教の信仰を教えたかったならば、共産主義の宣教師は世界のいたるところで土着民に食べられてしまっていたにちがいない。文明を創造し、彼らに働く自由を与えたことについて、キリスト教は感謝しなければなりません。

りっぱな無神論者は、人類がキリスト教に負うところのものだから、

めに、ていねいに教会の前で頭を下げなければなりません。しかしもしも、聖に近づきたいならば、そこから、あなたと文明世界の全部は救済の汚いものを飲まなければならない。

「わたしは神を信じない。」ラビはその人を抱き寄せていいました。「兄弟、わたしはあなたとあなたをたたくし思うことだろう。あなたは、わたしよりはるかに霊的に高い状態にいます。わたしは悩める人を見る時、わたしはひとりごとをいいます。『神は彼を助ける』。そして、その人を助けてやろうとします。あなたは神の存在を信じています。それで、あなたは彼を助ける必要はありません。あなたは、もしも神がいるならば、神がなすことをなさねばなりません。今、行って、そのようにしないで。飢えを癒い、病める心を癒い、求める人に真理と喜びを与え、すべての人を愛をもつて擁護し、いつも、もしも神がいまさらば、神がなされるようにしないで。そして、それから一年たつて来て、神がいまつかないかを、わたしに告げてください。」

このラビは、彼の無神論が最善のものを引き出すように彼を勇気づけるために、無神論者に対して優しい態度を取ることができたのでした。あなたがた、私の共産主義の敵たちは、信者に対して、このような態度は取りません。

あなたがたは、もっと低いところに生きており、あなたの立つているところは、みな、もういのです。

無神論者達は私たちの理性に訴えて、その点を証明しようとするをもちかけます。今、もしもこ

の著者たちが、私たちが論じているとが出来ると思ふのなら、どうしてこの本にこれほどに聖書がないのでしょうか。大衆は自分たちでそれを読むことができないわけではあります。その敵が何を言うべきなのかわかりませんが、その後、彼ら自身の結論を引き出すなければなりません。どうして

### アダムとエバはすべての一般の経験の原型です

聖書原典に対する批評は、人間の精神の当然の関心事です。クリスチャン神学者たちは、『無神論者』の指摘を待つまでもなく、聖書と世俗の年代を調和させ、考古学資料を分析して聖書の歴史を立証しました。私たちが、神の霊感と聖書の無謬を信じているという事実は、その原典とその内容を正確に吟味する妨げにはなりません。人間道に、私たちが、神がそれに聖を吹き込ませた、のちの写本家や伝記家たちによってそこなわれたことのない聖書を持っています。

しかし、私たちの無神論の敵によつてなされる聖書批評は、全くちがう種類のものです。彼らは聖書の物語の最も重要な出来事や否、基本となる聖書の人物を神話の領域に追放します。

クリスチャンは、聖書が科学の本であるとは考えません。それは、たゞの詩や象徴主義を含むものとして、それは、現代の科学の教科書として使えぬものではあります。

『無神論者』の著者たちに、アダムとエバは神話の人物です。アダムとエバが実際にエデンの園で生活していた、そしてそこが追放されたという聖書の記録を否定する確かな理由は何もありません。人間によつて保存されているのは、その歴史上の記録を理由にもなく、捏造ではないのと同じです。

聖書が然やされるのですか。あなたがたは、正當に『論ずる人間の力を信じないのですか。それなら、どうしてわざわざ議論をする必要があるのですか。ただ、『信じるな』という命令を出しさえすればいいではありませんか。そして、それをもって全部を片づけられればよいではありませんか。

聖書が然やされるのですか。あなたがたは、正當に『論ずる人間の力を信じないのですか。それなら、どうしてわざわざ議論をする必要があるのですか。ただ、『信じるな』という命令を出しさえすればいいではありませんか。そして、それをもって全部を片づけられればよいではありませんか。

アダムとエバの物語は、歴史上のもので、それは神話であると同時に、歴史です。私の敵である樹々、あなたがた自身の生活は、アダムとエバに起こったことのくり返しです。

大きな問題にむすべられない世界には、子供しい無邪気さがありました。きつと、あなたがたは思ひ出すことでしょうか、あなたがたがたがたてて生活していた道徳律を犯して、罪が最初にあな

あなたがたは神から隠れたのはありませんか。のちには、それは、あなたがたがたの行動を隠すという形を取ったかもしれせん。私たちは、私たちの始祖を責める

べきではありません。もしもアダムとエバが罪を犯さなかったとしても、私たちは禁じられた木の実を食べたかもしれないからです。アダムとエバは、すべての魂によつて引き起こされる一般の経験の原型です。神話は現実とくく違ふものではない。それらは、非世にせよは隔離された何かの事象の意味を深めるものであり、全人類の典型をそこに彫かします。あなたがたは、モノ・リザの価値を、それが単なる肖像画であるからと言って、無視することができません。それは、生きてゐる人間の肖像画です。肖像画は、それが示す人間と同様に現実です。モノ・リザは、ある意味で、それが写した人物よりも、もっと現実でさえあります。それは、さうに美しく、さうに永遠です。それは、彼女の最後の姿の集大成です。それは自然を正します。肖像画は人物を否定するものでありません。アダムとエバの物語の豊的な意味は、彼らが歴史上の人物であることを否定するものではありません。

私がアダムとエバについて語ったことは、罪の贖い、キリストの犠牲にも当はります。何か悪いことをした人は、だれでも、身代り、だれが彼自身の罪の代価を払ってくれるを望みます。罪びとの中に宿るこの肉体的な法律を、ご存じのキリストは、自らを身代りとして捧げられたのです。神の御子なる彼は、善であられ、悪であられ、私たちの全生涯のすべての責任を取られます。彼は、愛の心から、御自身を私たちと同一のものと考へられました。そして、私たちの罪を受けられました。ゴルゴタの十字架で、彼が罰えられたことが、あなたがたも、私たち自身が彼の模みの全部を通過したかのう

に、私たちに授けられます。私たちは、キリストが私たちのために御自身の血を流されたことによつて罪と罰から解放されたのです。その後、彼は、死人から生きあがり、彼を信じる私たちもまた、パラダイスでよみがえって、彼と共にいることになることを、私たちに示されました。

彼の死と復活は、歴史の現実です。しかし、罪のための犠牲として死んで生きかえる神についての神話は、キリスト以前のものです。『無神論者』は、エジプトのホルス神や、ミトラ神や、その他の神が、ほとんど同じまに信じられていたと私たちに言うのは、間違っています。キリストとちがって、これらの神々は歴史上のものではなく、原型だけの実体です。これらの『神々』は、みな人類に対して、そしてキリストの再臨の前ふれという意味において約束された真正の贖い、主の御せものであります。ホルスも、ミトラも、デオニサスも、人類が待ち望んでいた罪からの救い主と与えられた名まえでありました。そして、クリンや、アイシスや、ダイアナは、清純、柔和、自己犠牲、そしてすべての女性の徳の完全な姿を無言のうちに表わして、主の母の前ふれでありました。私たちの敵が、アダムと、エバと聖書後に彼らに約束された贖い主を、天国の神話と呼んでも気にしません。

全世界を破壊したノアの時代の洪水だつて、別の伝説もある、と私たちの敵は言います。しかし、聖書の物語は、洪水の物語が、中国、ギリシャ、イギリス、メキシコにあることによつて、かえって裏づけられます。一八七〇年にバビロニアで発掘された楔形文字版にも、大洪水のこと

が書かれてありました。それは聖書の記録と似ているので、注目されています。B.C. 三〇〇〇年頃、大洪水をなまなく想い出した人たちが、この石板を書いたのちにちがいないと考えられています。

ギルガメッシュ叙事詩と呼ばれているこの物語は、大洪水の英雄ウトナヒシュティムが、どのようにして人類全滅から逃がれることができたかを書いています。シュルバク（現在のフアラ）の古代都市の偉大なる神々は、洪水によつて人類を滅ぼす決心をしました。エア神は、ウトナヒシュティムに天のおきてを開いて、彼とその家族を救いました。

アッシリアやバビロンより以前の言語、サマリヤ語で書かれた別の洪水の物語が発見されました。有名な人類学者、サー・ジェームズ・フレイザーは、さまざまな、遠い地域、たとえば、リワード群島、ベンガル、中国、マレーシアなどの洪水の伝説を収集しました。どの地方の人々も、後進部族も、この恐ろしい出来事を記憶にとめています。彼らは、大筋において、大洪水は重大な罪の罰であつて、ただ僅かな正しい人が救われると認めています。ヨセフ・フラベウスは、一般に、最も信頼できる古代歴史学者と考へられています。彼は、『ユダヤ古史』で、こう書いています。

『アルメニア人は、この場所（ノアとその家族が箱舟から降りた所）を、『アボパレリオン』降立った場所と言います。』洪水の物語で、事実と神話が、また入り混じります。

人間の心の最も深いところに刻み込まれた真理は、一般化した重大な罪が破局をひき起こすだろうということです。私たちは、また僅かな義人が、奇跡的に、一般の





た時、イエスは皮肉をこめて、「それで十分だ」と答えます。主をもっとよく理解するために、弟子たちは時間が必要でした。「剣をさやにおさめよ」は、特別な場面での命令でした。イエスは守ってはおくとは思っていませんでした。彼の願いは、世の罪びとのために死ぬことでした。

「無神論者」の著者たちは、ルカによる福音書に、別の矛盾を発見しました。人々はイエスの側についたので、大祭司は彼を秘かに殺そうとしたはずだから、大祭司の同僚者たちが集会を開くことはできなかったと思われるのに、実際には、二、三日後、群衆が叫んで言いました。「彼を十字架につけよ。十字架につけよ。」

私たちの敵は、地方の民衆がわずから一晩でこんなに急激に変えをえることはいけません。そして、伝道者ルカによって語られたこの話は真実であり得ないと言います。

科学アカデミーの会員たちは、あわれにも、彼ら自身の民衆の悲劇を何も知らないのです。すべてのラジオ放送局が、モスクワで、スターリン讃歌を流し始めたのは、ある朝のことでありました。そして、それは、その後二十年間続きました。その朝の新聞は同じように、スターリン讃歌の記事で埋まりました。それは、ソビエト連邦共産党第二十回大会の開かれた日でありました。その日フルシチョフは演説をして、スターリンは、実際には、大量殺人者であり拷問者である、敵に対してだけではない、味方にもそうしたと言いました。それまでは、全国民と彼自身が、長年の間、最大の天才として彼に追従していたのです。全ロシア人民が前の神の定められた指導者の反対にまわり、彼

を責めるかわりに、彼をのしりこめるのに時間はかかりませんでした。やがて、彼の遺体さえも取り去られました。

この話を、「無神論者」の著者たちは信じていることができません。それは、彼らは、民衆の心の状態は、非難に急に変化します。それが、人類の最悪の指導者ヨセフ・スターリンの場合でした。そして、それは、人類の最も美しい手本、ナザレのイエスの場合でした。

科学アカデミーの会員たちは、一度スターリン讃歌を唱えて、のちに、そのことを後悔したことを出発点ではないでしょうか。彼が、中国や、ルーマニアやユーゴスラビアの共産党と水曜の友好を結んでいることについて、共産主義者の水曜の安定についてスロガをかける、街頭行進したことを、早くも忘れてしまったのでしょうか。水曜の安定がどんなに早く、あわれな争いに変わったか、彼らはわかっているのでしょうか。彼ら自身にいが経験は、千年前の出来事に適応して、すべての時代において人間の性質は同じであることを認め、言うところの矛盾が福音書にあるのではなく、人間の精神と心にあるのであるとすることが、どうして彼らにはできないのでしょうか。

イエスを逮捕に来た兵士たちにユダが認知の合図をする必要はなかったという論争は、ばかげており、子供じみた言い方です。なぜなら、パレスチナは非常に小さな国で、イエスはガリラヤやユダヤを広く旅しましたが、彼の顔が広く知られていたと信じるべき理由がなかったからです。今日の有名な人物は、その写真が新聞に発表され、テレビで報道されますがその当時は、このような大衆報道

機関がありませんでした。それでイエスのことについて聞いてはいたものの、顔と顔を合わせれば見たことのない人とおぼせたりは思われます。ローマ兵士たちと大祭司カバの手下たちは、イエスの説教をそれほどの真剣に聞きたとは思われません。今日共産党の秘密警察が共産国で、説教家の話を特別の悪い目的のほかに、聞くことはなからと思われ、同じくして、逮捕する人間の認知の合図をたががするの、は、全く当然のことでした。その上、その出会いの夜のこと、十二人の使徒、黙立した特徴のない顔をたいたまつの光けで判定するのですから、これというきめてが必要だったのです。

「無神論者」の著者たちは、スターリンの残虐を批判したが幸運にも救われたが、それですべてスターリン時代の英雄たち（彼らがスターリンを批判しなかったか、それとも、彼らが信じていた神のあわれみによって護られた）と大きくこれらの者たちは逮捕の現場、ゲッセマネの園で、恐れを見せたイエスを、そして十字架に消えたイエスをさげすんでいます。

大いなる徳を所有することは、確かに非難に値しないことです。これらの徳を、木がその葉かげに実を隠すように隠すことは、さらに賞賛すべきことです。キリストの目的は、最も弱い者たちのために天に至る道を開くことであり、彼らさへも神に受け入れられることを示すことでありました。このように橋を造るために、彼は英雄のようには振舞わなかったのです。もしも彼の行動が、あらゆる場面で、英雄のように、また到達したいもののようには見えたら、私は一般の、また一般以下の人間は、人生の模範として彼を受け

入れることはできません。それ故彼は私たち人間の弱さのところまで下りて、ゲッセマネの杯を取った。「神よ。私からこの杯を取って下さい。」そして、十字架で叫んで言われました。「わが神、わが神、どうして私を見捨てられたのですか。」このために私たちが、しばしば失望に落ちたり、苦しい運命の杯を私たちから取り去って欲しいと思う時、彼のうしろ、信頼に頼る友を見出すのです。それが、キリストの行為の目的です。それをおく病というのは間違っています。

「無神論者」の著者たちは旧約聖書と新約聖書の間の矛盾を指摘します。このようにして、ヨハネによる福音書に、神を見た者はだれもいないと書かれているのに、旧約聖書で、ヤコブは私は顔を顔を会わせて神を見た（創世記三十二）と述べていると言います。その説明は非常に簡単です。聖書時代のヘブル語は非常に真しだったので、多くの意味を一つの言葉に持っていました。ヤコブが「私は顔を顔を会わせて神を見た」と言ったのは、天使を意味したのであり、聖ヨハネは、その言葉の最高の意味における神、最終の実体、天地の起り主について言っているのです。これで十分です。

その角度から見ると、実に、それはなっています。神人の作った美しい縁取りを取り上げて、裏からそれを覚えてもらなさい。それはなにかなんだかわからない糸のじやなくです。それを表から見なければ美しく見えません。そのように聖書は下から、神に近づくにつれて人間の観点から見られるべきものでありません。彼

らは、この点から聖書を見ます。それ故、その全体の調和と、深い意味を捕えることができないのです。彼らは、また、聖書の限界を知っています。それは、人間の言語のわく組みの中の神の黙示です。

こんな話があります。南アフリカに遭われた宣教師、ロバート・モハットが、現地人にギリシの汽車を説明したいと思いましたが、それで彼は、大地に二本の鉄道を敷いて、いくつかの牛車を順々に並べて、最後に大きな轡わかしを牛の頭の前にぶら下げました。そして、アフリカ人が、のちに、ヨーロッパに行つてはものものの汽車を見たが、モハットの説明のばからしさに気がつくでしょう。しかしアフリカの言語では、汽車とはどんなものか、彼には説明できなかったのです。同様に、神は、天上の、また聖のことを説明するのに地上の経験から言葉を探さなければなりません。そのためには、人間の言語ではびたり表現できないのです。

しかし、今なおこの本は、なんど心をかき立て、鼓舞することでしょう。ホルテは、聖書は百年以内に流行遅れの、忘れ去られた本になり、博物館に行かなければ見られなくなるだろう、と言いました。しかし、その百年後、彼自身の家が聖書協会によって使われるようになりしました。

聖書は千三〇〇の言語に翻訳されて、なお百万部も毎年売られています。しかし、ホルテの本を読む人はだれもいません。生まれつきの能力から言えば、プラトンは美しい顔面であった聖ヨハネよりはるかに優れており、あるいは、マルカス・アウレリウスのほうが思想家としてはペテロよりもはるかに優れているのは間違いないです。

私たちが、彼らには全く知識のない本、聖書に反論するために、なん百ページもの本を書きました。

私がひとりの人と相まみえることをします。しかし、私はその人を知ることにはなりません。私はただ、その人の動物や靴を見ただけです。彼の体について言えば、ただ、頭と手が見えるだけです。彼を裸にしても、それでも私は彼を知ることはできません。なぜなら彼の魂は、いせんとしてそのままだからです。聖書の文字に書かれた経典は、外側の着衣に過ぎません。そのたとえ話はその体であり、その霊の真理は魂です。その神秘の美しさは、昇んで彼の目と心を天の窓に対して開く神の愛する者たちに対してだけ明らかにされます。美しい光景は解剖学的新目によって受け取られ、脳により判断されます。ちょうどそれと同じように、霊的な事柄は、聖パウロが言うところによれば、霊的に識別され、神の霊によって取り次がれます。

# 聖書は神の黙示

# キリスト教は独裁専制に従うようにとは教えません。

せん。

「シーザーのものはシーザーに返しなさい」というイエスの言葉は、無神論者「新約聖書」の著者たちにとって、私たちが今日、植民地支配者と呼んでいるものに対して、敵対するものに教えるという明らかで、無神論者であるといえます。

ところで、イエスは、この言葉を弟子たちに言ったのではなく、彼らに「シーザーのものはシーザーに返しなさい」と言わせたのです。そうしてこそ、努力するところとして、彼の敵たちは、やがて、彼らが氣遣いの支配者に対して満足するならば、（事実、多くのローマ皇帝たちは氣遣いでした）神に与えるものは何もなくなるといふことに気が付くことがない、彼は考えられたのです。

イエスの弟子たちは、非常にしばしば間違えて使われてきたこれらの言葉の意味することを、よく理解しなければなりません。

もしも、ある人が不正を働いた人がつぐないをしよとする時には、まず、いかによいことは負

償をはたきさせて、それを返済することです。ところで、ユダヤ人は皇帝にどんな負債があったのでしょうか。チニコはコズイギンにどんな負債がありましたか。何もありません。

ローマにおいてさえ、正当な皇帝の所有物は何もありません。勝利のローマの將軍、ジュリアス・シーザーは、ガリア戦争から得ると、武力で共和国をくつがえしました。このように、彼は合法的な支配者ではありませんでした。彼は専制君主によって受け継がれた。彼の大部分は、王座よりも精神病院のほうがふさわしいような人たちでした。彼は、それに対して何も与えませんでした。シーザーに所属するパレスチナでは、もっと何も与えませんでした。ユダヤの党派間の分裂を利用して、ガエウス・ポンペイウスはこの小さな国を武力で占領して、それに、恐怖と破壊の支配を押しつけました。

シーザーは、パレスチナでは一つの道路も造りませんでした。ユダヤがその事業をしました。彼は一軒の家も建てませんでした。彼は一本の木も植えませんでした。「シーザーのものはシーザーに返しなさい」とは、革命的な、愛國的な言葉です。それは、結局、支配者のすべての権利を否定することです。

ソビエト連邦の正直に考える市民が、ナチ侵略時代に、「ヒットラーのものはヒットラーに返しなさい。神のものは神に返しなさい」と言ったとすれば、だれでも、この言葉の意味は、「ヒットラーに利益を与えよ。そして彼の軍隊を追い出せ。なぜなら、ソビエト連邦に彼のものは何もないから。彼はここにいる権利さえもない」ということであると理解したでしょう。同じことが、チニコスロバキアのソビエト侵略に対してもいわれると思います。

ローマの官憲とユダヤの彼らの手先であった高僧たちは、明らかに、イエスの言葉に対して、私と同じ解釈をしました。その証拠に、彼らは彼を帝国民と見做す

ず、露反人と考え、彼らは彼を十字架につけたのでした。

「無神論者」は、新約聖書の著者、ローマの支配者の追従者として書いて、真実を間違えて伝えています。

「それには、ローマ政府に対する非難は含んでいない」と彼らは言っています。「十字架につけた罪のすてはユダヤ人に帰せられ、バールで葬られている。」

聖書がない国でこのような主張をするのはやさしいことです。使徒行伝四章二七節に、「一ハロデとガネオ・ピラトは異邦人やイスラエルの民といふしよに、あなたが神をそがれた、あなたの聖なるしもべイエスを逆つてこの都に集まり、……と書いてあります。

ユダヤの聖徒は祭司たちにそのかされて、イエスの十字架刑を要求しました。しかし、ピラトは自ら先頭に立って、残虐に残酷を加えました。私たちはそのことを次の言葉から知ります。「そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。」（ヨハネ一九）聖書は、明らかに無実であると思われる囚人をむち打って喜ぶローマの支配者の下劣な姿を暗示しています。それで、福音書は、非常にはっきりと、ピラトが彼を十字架につけるために引き渡したと言っています。

どんな権利によって、共産主義者は、ローマ政府に隷属していた初代のクリスチャンがピラトを消滅的な観察者として記録したと言ったのでしょうか。出版、クリスチャンの追放、返答の自由につ

いて独占権を持っている横領者の「権利」によってでしょう。

聖ヨハネ一人だけが、ローマ政府を非難しているのではありません。伝道者全書が、彼を追従者と書いています。聖マタイは、「ピラトはイエスをむち打ってから十字架につけるために引き渡した。」と書いています。（マタイ二七）聖マルコは、「ピラトはイエスをむち打って後、十字架につけるように引き渡した。」と書いています。（マルコ一五）聖ルカは、「ピラトがはつきりこう言ったと言っています。『私は……この男に、別に何も罪を見出せません。……それで、私は怒りめ……』」と書いています。（ルカ二二、一六）

新約聖書の著者たちは、イエスを十字架につけたローマ人の罪をけつして無罪にはしませんでした。彼らは問罪です。のちの教会歴史家は忠実に報告して、ローマ政府がクリスチャンを野獣の餌食にし、彼にあらゆる種類の残酷な仕打ちをしたことを、書いています。

「無神論者」の著者たちは、ほかの聖書の箇所を引用して、キリスト教は不正な支配者たちに対して、盲目的に服従することを教えており、それ故、人間性の進歩にとって邪魔であると言っています。その聖書の箇所は、ローマ人への手紙三章一節から三節までです。「人はみな、上に立つ權威に従うべきです。神によらない權威はなく、存在している權威はすべて、神によって立てられたものです。したがって、權威に逆つてゐる人は、神のためにはむいてゐるのです。そむいた人は自分の身にさばきをおきます。」

しかし、この同じ章に、クリスチャンが服従を要する「上に立つ權威」は何であるかを定義しています。神のしもべとして、善を行う者は賞賜を与え、悪をなす者は怒りをくちくち受け、その名に面します。（一、二）もしも支配者が反対のことをなせば、もしも彼が善を働いて悪に酬いるならば、私たちは何を、彼の力を神からのものと認めることはできません。

この上であつた聖書のことばが、クリスチャンをして専制暴君に反対させるのです。

中世に、サボナローは火あぶりの刑にされました。彼がこう言ったがら、「キリストに仕え、清いクリスチャン生活を送る以上には、彼自身に對する懲罰はない。これらは、彼自身の体質に真正面から反対するからである。」

次に、スコットランドのメアリー・クインとプロテスタントの宗教改革者ジョン・ノックスとの討論を引用しましょう。

メアリー。「あなたは王が許可する宗教ではないのを受け取るようにと人々に教えました。神は王に従ひなさいと命令しているのを知つていながら、いったい、神のいかなる教えによつてそうするのですか。」



教会を破壊され屋外で集会するソ連の信者達

# メアリー・クイーンとジョン・ノックスとの論争

ノックス。「マダム。正しい宗教は根柢的な力を持たず、この世の君からの權威も持たず、ただ永遠の神からの權威のみを持つてゐるのなら、彼らの王の欲求によつて規制される宗教というものは意味をなしません。……アブラハムの子孫が皆バラオの宗教に属すべきだったというのなら、……どんな宗教がこの世に存在したでしょうか。あるいは、使徒時代のすべての人たちが、ローマ皇帝の宗教に属していたとしたら、この地球上にどんな宗教が存在できたでしょうか。」

メアリー。「そのとおりですが、彼らはだれひとり、彼らの王に対して剣を向けませんでした。」

ノックス。「しかし、マダム。それでもあなたは、彼らが抵抗したことは否定できません。抵抗の方法として……服従を拒むのです。」

メアリー。「しかし、それでも彼らは剣では抵抗しませんでした。」

ノックス。「マダム。神は彼らに、力と、手段を与えたいませんでした。」

メアリー。「力を持っていたら彼らは王に反抗したと思いませんか。」

ノックス。「王が限度を越えたら、マダム……疑いもなく彼らは抵抗するでしょう。力に訴えてもです。父親が気が狂って、子供たちを殺そうとする時はどうでしょうか。」

「よか。彼らは彼を捕えて、彼らに力づくで刃や武器を取り上げるべきではないでしょうか。神の子たちを殺そうとする王に対して同じことをします。彼らは熱心のあまりというのではなく、まさしく気が狂っているのです。……それだから、彼らから剣を取り上げ、手をはり、彼らをもつと穩健な心を持つようになるまで彼らを獄に入れるのは、王に対する不服従ではありません。それは、まさしく服従です。なぜなら、それは神のみことばにかなうことだからです。」

「共産主義者が、スターリンに対して、このように話した者があつたのだろうか。」

「聖書は、リンカーンやウィルバーフォースを助まして奴隷廃止のために戦わせた。マルクスはその『資本論』において、大英帝國における労働者保護の法律を作るのに、クリスチャンのシャプテスバークがその役割りを果たしたことを認めている。皇帝に対していかなる權威をも否定したのはロシヤのクリスチャン、レオ・トルストイ伯爵であつた。アメリカ大統領、トーマス・ジェファソンは書いた。『私は人間の心を支配するあらゆる暴君を永遠に憎むことを神の前に誓つた。』そして、『暴君に対する叛乱は神に対する服従である。』」

「エマソンは書いた。『あなたが奴隷の首に鎖を巻き付けるならだれかがあなた自身の首のまわりにそれを巻き付ける。』」

「エマソンの言葉は予言であつたことが証明された。ソビエト共産党の政治的指導者鎖を巻き付けた。まず、君主の首に。次に領主の首に。資本家の首に。反対派社会主義者の首に。抑圧された國民、ウクライナ、ビエロロシア、グルジンの首に。しかし、その時鎖の一方の端は共産主義者の首のまわりにも巻き付けた。フルシチョフ同志は第二十回共産党大会における演説で、同じことを言つた。彼は、スターリンが中央委員のほとんど全員を不名誉な追放によつて殲滅した。」

「キリスト教は奴隷制の味方でもない。」

「リンカーンは、一八六二年十二月一日の議會の演説でこう言つた。『奴隷に自由を与えることによつて、われわれは自由人に自由を与える。』」

「第二次世界大戦後、クリスチャン國家はそのすべての領地を解放した。一方、ソビエト政府は、バルトの人々、ハンガリー、チェコを併呑した。中国共産党はチベットを併呑した。」

「私は、私の無神論の友人たちは『首吊り自殺した人の家の繩のことはしるべきな。』という昔のたとへを気にしてゐるのではないかと思ふ。共産主義者にとっては、奴隷制は思ひ出たてな古いことなのかもしれない。私自身、共産党の強固な支持者の奴隷であつた。しかし、これはすべての議論は実際には不必要である。なぜなら、『無神論者』は、いつもそれ自身を否定するからである。キリスト教の奇蹟的な成長と勝利を説明するために、教会は神が働いてゐることを認めることのできない無神論者には、『クリスチャン社會は、奴隷たちをお互いに交際できない立場に置いたから』それはほんの奴隷たちに伝道したのだと説明する。」

「ヒレモンへの手紙の中で、聖パウロは、奴隷所有者が逃した奴隷を通れ民す時は、罰をもつてではなく、兄弟の愛をもつて、するよにと言つてゐる。」

「それなら、どうして初代のクリスチャンたちは奴隷制を廃止しなかったのか。彼らは迫害されてゐた。彼らは國においてなんの力もなかった。彼らの大部分は自ら奴隷となつた。ほんの少し前、スパルタクスによつて指導された奴隷の大暴動は血を流して死にされた。そして、なん万といふ多くの奴隷たちは十字架刑にされた。暴動の結果が敗北でわかつてゐるなら、ばか者でなければ叛乱しない。」

「神は一度だけ、十戒を与えるためにナイに現れた。その前には、神の言葉はこうである。『われは王、なんじの神である。エジプトの地から、奴隷の家からなんじを導き出したものである。』彼の國民に対する自己紹介で、彼は自らを、天地の創り主よりもむしろ、奴隷の解放者として性格づけることを選んだ。これがわれわれの神である。」

「キリスト教は、『支配階級に仕えてきたし、今も仕えてゐる。それは搾取と圧迫に基づく社會的、政治的要求を支持し、強化する。など、など。』という、無神論者『神の論説』を讀むと、私はちがひに思ふ。」

「私たちは、そんな非難は気にする必要がないことを知っている。私たちは無神論の學者たちが何を考へてゐるか知つてゐる。本来、視野が狭いため、彼らは首尾一貫した書き方を知らないのである。それで、私たちは読んでも何もピンとこない。同じ著者がこの本のほかのところでいふわけにはならないことを見てみよ。『宗教改革の指導者たちは、いろいろな國民の言語に聖書を翻訳した。聖書が多数の大衆に受け入れられる最初の時代が到来したので、その中に、急いで、社会平等のための彼らの戦いを正当化するものを発見したかったのである。』」

「ここに、それがある。『聖書は社会平等のための戦いを正当化する。』」

「『聖書は暴君に対する叛乱と服従を教える。』この二つの論調は同じ著者たちによつて、一つの同じ本の中に書かれてゐることである。」

「『無神論者』を書いた學者たちは、彼らの好きなように考へる。彼らの愛した者たちはもつとよく知つてゐる。彼らは、クリスチャンは専制君主に賛成しないことを知つてゐるのである。彼らはこのことを、信仰にある私たちの兄弟姉妹たちをなん言と殺すことによつて、そして、私たちの仲間である信者たちをなん言も牢獄に閉じ込めてゐることによつて証明してゐる。」

「無神論者たちは、殘虐な支配者たちの前に頭を下げることを気にしないことに、もつと氣を使つた。彼らが現在、歴史上最大の大衆殺人者で非難しているスターリンを、彼らは神として崇めなかつたのだろうか。科学アカデミーの會員たちは若い人たちは思へない。それ故、彼らは、きのうまでスターリンにこびへつらう人たちと一緒にいたがいない。あるいは、そうでなければ、彼らは、今日、生きていて彼を非難するはずがなかつた。」

「私は、スターリンとその後継者たちの統治時代に投獄されてゐた。ロシアの地下教会は、無神論者たちが暴君に反対を唱えるよりももつと多くの權利を持つてゐる。それは驚きではないだろうか。もう一人の殺人者、中国の手束の最近の神格化についてはどうか。中国共産党は、皆無神論者なのに、彼に頭を下げる。百万以上の中国のク

リスチャンが殺された。しかし、彼らは頭を下げるよりも死ぬ方を選んだ。」

「真のクリスチャンは、自由の戦士であつたし、今もそうである。アメリカ合衆國、イギリス連邦、オーストラリアには奴隷労働者所はない。ソビエト連邦と中國にはそれがある。暴君にこびへつらう集団としてリスチャンを書くことは、彼らを風刺することにはかならない。それ故、無神論者が否定するのはキリスト教ではなくて、そのこけいに改作したものである。」

## キリスト教はこの世において社会変革を 実行する意志を持たない、それとは反対に共産主義運動は地上のすべての労働者の解放をめざしてゐるというのは全くの作りごとである。

# 天上天国か地上天国か

『無神論者』は、キリスト教の希望は、天に、死後の永遠のいのちにあると言ったフリードリッヒ・エンゲルスの言葉を引用している。彼によれば、キリスト教は、この世において、社会改革を興行する意志を持たない。

それは反対に、共産主義運動は、地上のすべての労働者の解放をめざしている。これは全くの作りごとである。キリスト教が天の経緯点だけしか持たないというのは真実ではない。イエスは、私たちに、「天にあるごとく、地にみこころなるまに」折るようと教えられた。ヨハネ福音書三章十二節で、「私はあなたがたに世のことを語った……」といっている。

ルカ福音書の冒頭で、人々がバプテスマのヨハネに、何をなすべきかと尋ねた時、彼は「永遠のいのちのために努力せよ」とは告げなかった。ヨハネの告げは非常に地上的であった。「下着を二枚持っている者には一つも持たない者に分けなさい。食べ物を持っている者も、そうしなさい。」「取税人に対して彼は言った「決められたもの以上には、何も取り立ててはいけません。」「また、兵士たちに対して、「天国を求めなさい」とは言わないで、「だからからも、力ずくで金をゆすったり、無実の者を責めたりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい」と言った。兵士たちは一般の人たちよりも高い給料を取っていた。

(ルカ三章一四)

イエスは富から商人たちをむちで追い出した。彼はなおやけに、学者やもめの家をむさぼるパリサイ人を非難した。富める者に対して、彼は言った。「売店にならば、彼らに思ふならば、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に与えなさい」(マタイ一九)

キリスト教も、その計画の中にこの世における社会改革を持てない。ソビエト政府当局者が、アメリカ合衆国のために、キリスト教の道徳を持った国の経済水準を達成し、追い越さなければならぬと言っているのは奇妙なことである。そのようにして、彼らはおよそソビエト市民よりもはおおむねキリスト教の影の下にあるこの世において富める生活をしようとしていた。

アメリカやほかの西側国家において、労働者たちは教会に行くの自分の車で行く、あるいは、もつと高い賃金を獲得するために、ビケを張ることができ、ソビエトでは、だれひとり欠席することの許されない共産党の集會に出席するの、自転車さえも持っていない。

西側の富と自由は闘争なしに獲得された。しかしながら、キリスト教に対するエンゲルスの叱責が正当であるとするならば、この闘争は必要でなかったとちがいない。エンゲルスは書いている。

福音書の社会的教義は、不正に対する消極的な宗教的抵抗、ひきまついては、反抗を表現す。それは、実際において、抑

圧者の正当化を意味し、第一に古い制度と奴隷制度の根柢的な社会悪の正当化を意味する。キリスト教は革命闘争に向かう抑

圧された人々のイデオロギーではなかった。それは、戦うのぞみを失った、奇跡的な救いを折り求める抑圧された人たちのイデオロギーであった。

これは間違いないである。福音書の主な教義は、クリスチャンはキリストの模範に従うべしということである。キリスト御自身は不正に対して消極的であったか。むちで商人たちを追い出した彼の態度についてはどう思うか。彼が富で祭司たちとパリサイ人たちの前に立って、彼らを、まむし、また偽善者と呼ぶのは消極的なことだったか。

福音書に記された如きマリヤの「賛歌」は、讃めの歌であったか。御子「は、讃めをその座から引き下ろし、力なき者を導き出す、と彼女が歌いました。彼は飢えた者を食物をもって満ち足らせ、富める者をむさぼり去らせる。これは、搾取者に対する柔和な服従というようなものではない。

賢者は、暴君を倒すのぞみが全くない時は受身の柔和な態度であれとキリストの弟子たちに教えた。しかし、このような態度の模範が熟した時にはいつても、クリスチャンは戦ってきた。宗教改革の時代に、小作人が領主に反抗した時、その原因に関する根本的な問題は、宗教であつた。その次のような革命的な賛美歌がある。

アダムが押し、エバが妨ぐ。その時だれが領主であったか

そして、われらの神は堅固な要塞。城壁は崩れることがない。

工業プロレタリアートの運動がイギリスで始まった時、チャーティスト運動の主題歌は次のようなものだった。

ブリタニアの息子たちよ。なんじが奴隷であった時、創造主なる神はなんじを解放した。すべての人は、彼は生命と自由を与えた。しかし、もう決して奴隷とはしなかった。

ロシアにおける一九〇五年の革命に導いたデモを組織した最初は私たちの共産党の友人たちではない、ガボン司祭に率いられたクリスチャンの労働者たちであった。共産党はそれを利用したあとで、その司祭を絞首刑にした。

キリスト教は共産主義同様革命的であるが、革命が違つた。共産主義革命はその敵者、即ち人々の血を流すことから始まる。そして流血は習慣となり、楽しみにさへなる。そして遂には、転覆前のものよりもっと悪い専制が行なわれる。

かつてレーニンが、「恐怖とチニカは絶対に必要」と書いた。皇帝ニコラス二世は、専制政治に恐怖を導入したとはなかった。

彼はなん人の人を殺したか。ケレンスキーはどうか。そして、考えていたきたい。スターリンはどれほど多くの人を殺したか。

彼が、彼に恐怖の技術を教えたレーニンを自ら毒殺した可能性は非常に高い。その後、彼はレーニンの親しい友人をほとんど皆殺しにした。

今日でさえ、ロシアの強制収容所で、飢えと過労のために、数えきれないほどのソビエト市民が死んでいる。共産主義は、共産中国において、なん百万の人を殺している。恐怖は、ソビエトの新聞さえ報ずるところである。ポーランドやゴムルカなど、プロレタリアート独裁の実施されている所ではプロレタリアンを射殺している。共産革命は、いかなる時も、否定的で、破壊的である。

私たちクリスチャンは、全く異なる意味において革命的である。クリスチャンは、第一に、そしてまづ先に、聖霊の剣を用いる。それは罪びとを殺すことなしに罪を殺すことができる。

聖霊の剣によって、クリスチャンは多くの腐敗を正してきた。キリスト教文明の行きわたるところ人々は自由であり、そこでは無神論者さえ自由である。私は私の敬愛する敵の皆さんが、アメリカ合衆国で、イギリスで、あるいは西ドイツで、無神論者であるという理由で投獄されている人々一人だに名をあげて指摘できないだろうと思う。しかし、共産主義運動では、私の信仰の兄弟姉妹たちは投獄されるか、あるいは殺されるかしている。だが自由のために戦ってそれを獲得したのか。――無神論者か、クリスチャンか。

クリスチャンは暴君に対する反抗の必要性を否定しない。しかし彼らの武器に頼りつづけている。彼らの目的は、いつも、独裁のかわりに、平和と公正をその政權に置きかえることである。それはいわゆる、マルクスの作り出したことばで言えば「永遠の革命」である。永遠の革命は何のためか。革命は革命のためのものか。その終着点には、けつして到達できないのか。目指すユートピアさえ、到達不可能なのか。これは全く自虐主義である。

クリスチャンは、最初の悪魔は悪魔であったことをけつして忘れない。彼らは簡単に反逆に訴えることはしない。共産主義政權に対してさえ反逆しない。

しかし、彼らが地上の運命に心を捧げているのは、彼らが地上の目的以上のものを持っているからにはかならない。人は暗い泉の底に住んでいるかえるのやうなものだ。そこから、彼らは外界のことを何も見ることができない。信者は、そのやうな所に住んでいながら、ひばりのさえずりを聞いた者である。そして、奇跡中の奇跡

「彼らはその歌の意味を理解したのである。それは、太陽や、月や、星や、木におおわれた山や丘や、すばらしい海のことを語っている。彼らはこの歌を信じた。彼らは天国があることを確信した。彼らの地上での務めを怠ることなしに、彼らはそれに向かつて努力をし、彼らに知られるやうに他の者たちに呼びかける。

ダヴィッドももつと進化の可能性を信じている者があつたれば、それはクリスチャンである。彼は新しく生まれることを信じている。彼はかえるがはりになれると信じている。人間が天界の一員になれると信じている。しかもそれは長い時間をかけてではなく、イエス・キリストを信じることで、いつか同時にしやうなれると信じているのである。

これらすべてを信じているので、クリスチャンは、天国を求めて努力しながら、この世において正義のために戦つたのである。

「彼らはその歌の意味を理解したのである。それは、太陽や、月や、星や、木におおわれた山や丘や、すばらしい海のことを語っている。彼らはこの歌を信じた。彼らは天国があることを確信した。彼らの地上での務めを怠ることなしに、彼らはそれに向かつて努力をし、彼らに知られるやうに他の者たちに呼びかける。

「彼らはその歌の意味を理解したのである。それは、太陽や、月や、星や、木におおわれた山や丘や、すばらしい海のことを語っている。彼らはこの歌を信じた。彼らは天国があることを確信した。彼らの地上での務めを怠ることなしに、彼らはそれに向かつて努力をし、彼らに知られるやうに他の者たちに呼びかける。」

# 神は存在するか

## 神は存在するか

今まで、私は、この論文において、次のイエスの教説に従って来た。「二マイル行くように強制する者があるならば、彼と共に二マイル行きなさい。」

私の敵たちは、一つの議論のコースを取るよう要求した。私は彼らと一緒に歩いた。私は、問題が全く重要でない時でさえ、彼らと議論を交えた。

しかし、今、私は、無神論者とクリスチャンの間にある問題の基本的な疑問に集中しようと思う。礼拝すべき、信頼すべき、守りとなるべき、慰めとなるべき神は存在するか、それともしないか。

フランス共産党の理論家、R・グラウディによれば、神は、完全に、絶対に存在しない。それは「実在の存在」に過ぎない。人間より優れているものは存在しない。クリスチャンは神を信じている。この世において彼らを助け、永遠の命を備えてくれるという彼の約束を信じている。グラウディは書いています。「われわれ無神論者にとって、約束されているものは何もない。また、だれもわれわれを待っていない。」なんと悲しい言葉だろう！無神論者にとって、彼ら自身の仲間の忠誠さえ約束されていないのである。グラウディは、全生涯を共産党に捧げたあとで、そこから追放された。彼が失意の時に、だれも待っていない、彼に助けの手を差のける者がいかなかったし、また友情を示す者もいなかった。彼は孤独であった。

ある若い作曲家は憤て、貧民に仕んでいた。ひとりの友人が彼を元気づけて言った。「あなたの死後、この家の壁に神様が刻まれるだろう。」作曲家は熱心に聞き

返した。「ほんとうにそう思うかい。」「ほんとうだ」と友人は答えた。「貧民」という神様が書かれるのだ。」これよりももっと、グラウディの死後には待ち受けているものがなかった。現世でも、彼が党から追放されたことは、彼と同じように、だれがほかの放逐される人のために、ただ場所を残したに過ぎない。

人は神である。共産主義信条のすべては、この信仰を言い表わしている。

このごまかしに気がついて、ソビエトの地下時人のひとり、I・ガバは、次のような時を作った。

### 現今労働信条

われわれはわれ自身の神なり。さ

神だつて？— 多分、邪悪な神。しかし、実際、私が、頭なき頭、を起しているのなら、神よ、なんじを平和な無神論者にならしめたまえ。

神になること— そのことから、神よ、なんじを守りたまえ。

われは神なり。— されど動乱には力なし。曲解された境界の論理によつて、

今や博物館が寺院の中に造られて

## 人は神である。共産主義信条のすべてはこの信条を言い表わしている。

そして神々が人ばかりのただ中に住んでいる。われわれが壮大なる狂気の故に敵したまへ。されど、わが運命に神の偉大さはない。自ら罰し、自らおのれの罪を赦す。わが壮大なる狂気を敵したまへ。

神の偉大さ— それは罰することだ— 私はどんな隣人に対してもそうしなかつた。私はそのような命令を彼に求めたくな

神よ、なんじが神の前にひざまずくのを禁じたまへ。自ら身をあかしを立てたり、自らに罪の咎しを与えることと禁じたまへ。

われは有りて有る者。神— 彼ののみ神。なんじという大なる自負、なんじという悲し。

神よ、なんじがなんじの良心に信頼することを禁じたまへ。

そして、それを無視して生きよ。

人間に優る存在があるであろうか。普通の意味で、天地の創造者、イエスが私たちに、私たちの父と呼ぶやうに教えられたお方、神は存在するだろうか。

エルサレムの神殿に、多くのエジプトやペルシャの神殿の場合と同じく、至聖所がある。そこには、大祭司だけが、年に一度、

のむすことである。しかし、ひとたび彼がこのことに思い及ぶと、彼は直ちに、彼の心に誕生したこの神は、すべてのもの、そして彼自身の人格の創造主であり、彼は彼自身の意識外の客観的な存在を持つており、人はすべてのことを彼に負っているという結論に達する。そのうちに、子なる神から、人は父なる神の概念に達する。これら二つの概念は、われわれが聖書から学ばずに、言語に尽くし難い愛、聖霊によって互いに一つに結ばれている。神は信仰を持つ人間を創造した。信仰は、神の概念を造り出す。

このように深く、われわれは、神についてのわれわれの概念を理解する。しかし、われわれを造った神はわれわれの理解をはるかに超えている。神はわれわれの理性が考えることができないものではない。

神学は神が存在するという多くの議論を提供してきた。このことに対して、宗教に反対する者たちは、反対の議論を提出した。私は議論するつもりはない。弁解してゐる者を必要としている神こそ悲しけれ。神は御自身を表わすことができる。あなたは太陽の存在を証明する必要がある。— ましてや、その創造主についておや、太陽が雲におおわれている時がある。その時、それを見たいと思ふ者たちは、待たなければならぬ。もしも神が、熱心に彼をたずね求める者にのみ見出されるようにと彼自身を隠されたかと思ふならば、私は彼の意志を受け入れなければならない。

神は生きとし生けるものに命を賦与するために光を用いられる。しかし、神も光も目には見えな

うか。全く真空の管の中では、光の線は見えることができない。私たちが光が見えると言う時、光によって輝いている空気、物体を見ているのである。このよる光は見る

ことができない。理由は神を指摘するかもしれないけれども、人は神を知るために、意味と理由を越えなければならない。

あなたは自然の中に目的を観察する。大地にまかれた種は、その環境から、窒素、空気、水などの花になるために必要な養分を吸収する。あなたは、やがて、それが成長するのを見る。それは達する目的を持つている。妊娠した卵巣は、母親の胎から、それが赤ん坊になるに必要な養分を取る。再び最終目標に到達する。しかし、種子も卵巣も目的を追求することはできない。それらは知恵ある存在から来る。そのお方が、その被造物にそれらを課するのである。

さらにその上、私たちはその環境に順応する人間を見る。そうでなければ、彼はそんなに長い年月生きのびることができなかったらう。人間の運命にかかわらず、時には努力して、時には努力せず、われわれの生存に必要なものをわれわれに与えてくれる現象の中で私たちが生きているのは、そのためである。私たちはミルク以外のものを消費することのできない赤ん坊として生まれる。そして、私たちが生まれる少し前、私たちの母親の乳房は、ミルクが搾えられる。成長するにつれて、私たちは次第に離乳食を必要とする。そこで、私たちの必要に応じて、母親の乳房のミルクが変化

する。私たちは肺を持って生まれ、空気に触れる。私たちは水を必要とする。するとそれは供給される。数か月すると、私たちは野菜や肉

に含まれている栄養を必要とする。そして、世界にはそれがあ

る。私たちは病気に對して敏感である。しかし、私たちは、今では、だれかが、地上の草木、きのこ、貝類などから、いろいろな種類の病

気のために薬を準備したということを知っている。

すべての人間の必要のために、その必要を供給する通信の役割をするものがある。

根本的な必要のために、神を慕う私たちの魂の渇きのために、多くの神話や宗教を造り出した渇

き——そこに目的を達成する実在がないと考えるのは、あまりにも

ごうまんて無知に過ぎるのではあるまいか。

ある秋の日、からすがその年に生まれた若いつばめと話をしました。からすがつばめに言いました。「あなたは長旅の準備を

していますね。どこに飛んで行くのですか。」「つばめは答えました。

「ここはだんだん寒くなりま

す。ここを去ります。私はもっと

暖い国へ飛んで行くのです。」「か

しこいからすは笑って言いました。

「でも、よく考えてごらん。あなた

は生まれたばかりではありませ

んか。あなたは、ほんの二、三か月前にここ

の様に似ている。人間の魂は、神がなければ、この世で水柱になっ

て消えてしまう。フーリストの第二巻に出てくる

ホムンキウスは試験管で造られた人

造人間だった。彼はいつも寒さにふるえていた。あなたが、あ

なた自身のことを化学反応の複雑な組み合わせであると考えるなら

あなたはふるえるが、私たちは暖かき、愛、光の源である父なる

神を慕い慕う。すべての根本的な人間の必要が現実

に達成されるように、魂の必要も同様である。私たちは神を見出すことができる。

私たちは神を知ることができる。しかしながら、知識の分野は特

別の道具を用いなければ探求できない。あなたは望遠鏡を通さなければ

星を見ることはできない。あるいは、顕微鏡を通さなければ微

生物を見ることはできない。正しく考えることができない人間は、

物質の分野における生命の機能である知覚を通して神を見出すことが

できないから神は存在しないのだという結論に達する。知覚は神

を見るための正しい手段ではない。

微生物学は特別な器具を持っている。天文学はまた遠くのものを持

っている。それと同じように、信仰もまた、創造主なる神を見るこ

とができるものを持っている。イエスは言われた。「心の清いものは

はさういふのである。その人は神を見るであろう。」「そのような心

を持つなら、あなたは見るであろう。」「私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

る。私たちはこの方法で見

彼は、つり上がった目をした髪を束ねた黄色い人間を見た人々に

「マルコ・ポーロはこう言った」と言われた。どんな方法で、彼は自分の言葉を証明で

きたのだろうか。彼は、たゞ、人々にこう言うことができたに過ぎな

かったのではないだろうか。」「私の行った所に行つてごらん

さい。私の会った危険に会つてごらんさい。私が通過した苦勞を

してごらんさい。そうすれば、わかります。」「

私はフーリストの存在を疑う人を得心させることはできない。彼自

身が顕微鏡をのぞくのが一番である。心の清い者はさういふのである。

その人は神を見る。神を知るといふ問題は、人格の清さの問題であ

る。最終的な真理は、きさの独占物である。賛成の立場からであ

れ、反対の立場からであれ、だれかが私に神について語る時、私は

彼に尋ねる。あなたが信じていると考へられるために、どれほど清

いでしょうか。聖よりも白人だけがこの問題を理解できます。」「

神とは誰か

無神論者は、私たちを卑からきよめるために十字架にかかったキ

リストの犠牲を受け入れない限り神を見ることはできない。しかし

私たちは彼らが次のようにたずねることは正しい。「あなたは神を

神とは誰か。その問題に関する現代の最大の理論家、ド・ブローリエは、こう

書いている。「光線があると知つて、われわれはなんと多くのこと

を知るようになる。」「偉大な生物学者、ヤコブ・フオン・ウェクス

キルは、こう書いている。「われわれの心は、生命がどのようなものか、知

らない。」「そして、私たちは生命と光の賦与者は誰であるかという問題に

答えることができない。」「あなたが「光、あるいは生命」とは何か

か」とたずねる時、むかしは「何」とか「誰」とか「生命」と

か「光」とか「神」とかという言葉にあるのではない。」「

私たちが、これらの言葉によつて何を意味しているかは分かつてい

る。分りやすい言葉を阻害しているのは、質問文の中の最も小さな言

葉、すなわち「ある」という単語である。この「ある」という言葉

はどんな意味なのだろうか。このことが理解できないのは、ほかの

すべてはなぞのままに残る。」「キリスト教は大きく二つに分か

れる。それは「ある」という言葉を中心として起こっている。新約

聖書によれば、それは実際にはギリシア語で書かれたものである

が、十架刑の前に弟子たちと一緒に持った最後の晩餐において

言った。「これは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

た。それは私の血である。」「そしてどう酒の杯を取つて言

動かす原動力はそれ自身の運動をもっている。原動力のうちの一つの概念は、単なる存在というだけ

なく、それは動く、ということである。

実は存在を知らない。カントは純粋理性批判で「存在するとい

うことは真実に叙述することではない。……論理的語法において、

それは判断の単なる連綿にすぎない。」「神は善である、ある

いは善であるといふことは意味をなす。神、あるいは他の何かがある

といふだけでは、確しい言葉の領域に留まっていることを意味す

る。存在の意味とは何かを私たちが自問する時、答えは、存在は単に

成ることか、進化するということか、動くことか、変化することか

してだけ存在するということか。ヘラクリタスは「パンタ・レー

イ——すべてのものは流れ行く」と言った。あなたは同じ流れで二

度水浴することはできない。なぜなら、あなたが水浴する間に、あ

なたのからだは変化し、流れもまた変化するからである。

世界が構成されている基本的な微分子、化学的な要素は、量的な

実体と同様に、存在ではなくて、出来事、事象である。私が「銅

原子」中の電子は中性子のまわりをなす千億回と巡回するにちがいない

。私が「鉄」という語の最後の音を出す時は、鉄はもはや私

# 多くの科学者が神を認める

人類の全歴史をひとまとめにして、たゞたゞその過程をたどる。ジェームズ・ジョーンズ卿は、「物質は存在する何かではなくて、起る何かである」と言った。物質は存在しないうちに、流れてくる。すべてのもの——特に生物——は絶えず変化し、新しくせられる。すべてを動かすお方が、どうして動かないでいるのだろうか。もしも神の像が許され、現実にはあることができるとするならば、神の最も忠実な像は、カペラ・シナイナ、の天井にミケランジェロによって描かれた、あらしの中を飛んでいる神だろと思う。ルッシーには、神の翼のことが書かれてある。

私の敵たちは、神はいないと言う。彼は、サツと昔に、上位のクリスチャンの教師がそう教えたことを知らない。ただし、彼はこの否定に正しい意味を与えていた。スコラ派の哲学者ジョン・スコラス・エリクナは書いた。「文字通りに言へば、神はいない。なぜなら神は存在を超越しているからである。」「聖トマス・アキナスは言う。「その実体である神なる存在は、普通の「存在する」というものではない。それは他の存在から明瞭に存在するものである。神なる「エッセ」(ラテン語で「存在すること」は、通常の「エッセ」ではない。)

「存在するもの」という語は単に名詞であるだけでなく、動詞でもある。創造物は単に名詞だけに止まらず、活動している。それは運動し、それは歴史を生きているからである。あなたは、創造に対して固定の形を持つ限定された意味において、ある」という言葉で言い表すことはできない。創造主なる神に対してはもっとそうである。あなたが「神はある」と言う時、あなたは神について全くいつていい何も言っていない。神は現象である。

「神」という出来事がある。彼は巨大な来歴であり生成である。彼の名はヘブル語で「エル」という。それは関係を表す言葉である。「エル」とは「方向」を意味する。アルファ初めからオメガ(終り)に至る運動のことである。モーセに対して明らかにされた彼のヘブル語の名前「エジエ・アシャ・エジエ」は、文字通りに翻訳すると、「私はあるなう」というものである。神は、神の時間的作者「エジエ」は、神はそれであるかと自ら問うて答えている。彼は天使の翼に乗って飛んだ。しかし、彼は風の翼に乗って飛んだ。「聖書は私たちに教えている。神は翼のあるものに乗っている。あるいは、むしろ、翼のある出来事の上に乗っている。なぜなら、天使たちもまた「存在」ではなく、現象だからである。ほかの時間にはこう書いてある。「彼は翼を戦車とする。彼は風の翼の上を歩く。」

世界についての現代の科学的な概念の源は予見であること東洋の空想と、宇宙の動かさる原動力という思想とを比べてみれば、聖書がいかに正しいかがわかるだろう。神にあっては、彼の愛の固定した品性に関して、変化しないということはない。回転の影も同様である。しかし、この愛の表われは、新しいすべての瞬間である。これが、「神とは誰であるか」という質問に答えるのを困難にしている。なぜなら、彼はいつも新しい形で人類に彼の善きものを注いでいるからである。彼の愛の炎は火の炎のように絶えず変化している。あなたは実際に人の肖像を作ることができない。すべての人は多くの表情の連続である。あなたは実際に真理を言うことができない。真理は、いつも、変化する物や人に関する主張の顔の全部である。

それ故、神が最初に御自身の啓示を与えられた言葉であるヘブル語は「神」という単数の言葉を持つていない。「顔々」——「パニム」という言葉だけがある。すべての人、またすべての物は、絶えずその局面を変化する。神御自身についても、聖書は、この複数形の「パニム」を用いている。彼はまた、絶えずその愛と義の表現を変化する。

あなたが自ら「神とは誰であるか」と問う時、神とというイメージが万花鏡のように、それぞれが他よりもっと美しくあなたの目の前を過ぎて行く。それ故、彫像を作ることがユダヤ人には禁じられた。

ヘブル語は「有る」という表現を避ける。イエスはヘブル語そののアラマイク方言を話されたが、これは私のからだである」とは決して言わなかった。単に「これ——私のからだ」と言われたのである。(ロシア語では、中国語でも、「ある」という動詞を省略する。)

もしも神学者たちがもっとも聖書の言葉を知っていたら、イエスが言われたことについての争いを「減らすことができたであろう。」

私たちは、神が初めのお方、天地の創造主であることを知っている。私たちは、彼がすべてのすべて、なるお方なることを知っている。それでは、今、彼は何であらうか。彼は「有る」というものではない。神は一つの極から他の極へと飛んでいる。

無神論者は一つの勝ち点を持っている。私たちは、彼が「無神論」とは何であるかを言えないように神とは誰であるかを言うことができない。これは、また、絶えず進化の中にある。単に神を否定したに過ぎない昔の愚人の無神論は多くの場面を経過して、軍国的な科学的な基礎づけをされた、今日共産国に支配される無神論になった。

しかし、私たちが神が誰であるかを言うことができない事実、私たちの思考を停止させるものではない。

使徒パウロは書いた。「神の見える性質、すなわち水の永遠の力と神性は、地創造のなかで、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。」

ギオルダン・フルーノは言葉をおぼえて、インテレクティオ(「知性」は自然が私たちに与える「インテルナ・レクティオ」(内面の訓練)であると言っている。機械のことを知れば知るほど、それを構築した技術者を賞賛せられる。美しい宮殿であればあるほど、その設計者に尊敬の念を抱かせられる。

敵たちによって提出された無神論科学者の一覧表は驚くべき。私たちの宇宙はインシュタインの名に繋がっている。彼はそれについて何かを知っているにちがいない。彼は、私の見る世界、という本で次のように書いています。

もしも人が予言者のユダヤ主義と、イエス・キリストが教えたられたキリスト教、それに続くすべての教え、特に聖職の教えを追放するならば、人類の社会をいやすことのできる教えを捨てることになる。彼自身の小さな世界において、できる限り、この真実の人間の教えを生ける力、すなわち、断続的努力をするには、善意のすべての義務である。もしも彼が同時代の人々に贈らなければならぬ、それをするには、この方面において正直な努力をするならば、彼は、彼自身と、彼が幸運にも所属している社会のことを考へることができない。

「宇宙において永遠に理解しがたいことは、それを理解することができないということである。」

無神論者が、あやまって彼らの仲間のひとりと考えているエバン・ポール・ドールは、次のように言っている。「世界は知性によって造られている。……ニュートンの知性は他の知性から来ている。」

だが、造った者のいない時計を信ずることができようか。私たちの時計は地球の動きに従って時を刻む。だがこの精密時計を造ったのだろうか。

創造を注意深く観察する人を驚かす第二のことは、自然界の厳密な秩序である。それは、また、偶然の結果ではあり得ない。

ウィックスマンが書いた。「われわれは、自然の中にすべての象徴を眺め取る。」「地質学者クルーズは書いています。「われわれは大地の音楽を聞く。」

神の存在を信ずるための神学によってもたらされる多くの合理的な証拠に非難的批判的であるカントは、いわゆる宇宙論的証拠の合法性を認めている。自然の秩序は創造主を指す。

当時の大英帝国の商業主義と功利主義の生活様式の犠牲者であるチャールズ・ダーウィンは、自然もまた、功利主義の原理に従って動いていると考えた。しかし、これはそうではない。自然界では、空想力をもった、ひとりの偉大な芸術家であり、建築家である者が働いている。

孔雀の羽の美事な美しさは、小さな変異の積み重ねによって進化したきたとは説明できない。なぜなら、彼らはもっとも簡単に仲間をひきつける有利なものを持っていて

「神とは誰であるか」という質問に答えるのを困難にしている。なぜなら、彼はいつも新しい形で人類に彼の善きものを注いでいるからである。彼の愛の炎は火の炎のように絶えず変化している。あなたは実際に真理を言うことができない。真理は、いつも、変化する物や人に関する主張の顔の全部である。

それ故、神が最初に御自身の啓示を与えられた言葉であるヘブル語は「神」という単数の言葉を持つていない。「顔々」——「パニム」という言葉だけがある。すべての人、またすべての物は、絶えずその局面を変化する。神御自身についても、聖書は、この複数形の「パニム」を用いている。彼はまた、絶えずその愛と義の表現を変化する。

あなたが自ら「神とは誰であるか」と問う時、神とというイメージが万花鏡のように、それぞれが他よりもっと美しくあなたの目の前を過ぎて行く。それ故、彫像を作ることがユダヤ人には禁じられた。

ヘブル語は「有る」という表現を避ける。イエスはヘブル語そののアラマイク方言を話されたが、これは私のからだである」とは決して言わなかった。単に「これ——私のからだ」と言われたのである。(ロシア語では、中国語でも、「ある」という動詞を省略する。)

もしも神学者たちがもっとも聖書の言葉を知っていたら、イエスが言われたことについての争いを「減らすことができたであろう。」

私たちは、神が初めのお方、天地の創造主であることを知っている。私たちは、彼がすべてのすべて、なるお方なることを知っている。それでは、今、彼は何であらうか。彼は「有る」というものではない。神は一つの極から他の極へと飛んでいる。

無神論者は一つの勝ち点を持っている。私たちは、彼が「無神論」とは何であるかを言えないように神とは誰であるかを言うことができない。これは、また、絶えず進化の中にある。単に神を否定したに過ぎない昔の愚人の無神論は多くの場面を経過して、軍国的な科学的な基礎づけをされた、今日共産国に支配される無神論になった。

しかし、私たちが神が誰であるかを言うことができない事実、私たちの思考を停止させるものではない。

るからである。ゆすのからすも仲間を見つめる。豪華なゆとり同様、路傍の草花は蜂を引きつけて受粉する。

どうしてある種の小さな魚はあんなにも必要な美しさを持ってゐるのだろうか。まがいなく、それは芸術のための芸術である。おぼむはうしておしべの能力を持てゐるのだろうか。小さな鈴を鳴らすようにさえるペルバードはどうして存在するのだろうか。それは、まがいなく、芸術家の夢のようである。鹿の角はとうていあんなに規則的な模様をしてゐるのだろうか。まがいなく、ひとつひとつの花は、それぞれ違う色をしてゐるのだろうか。

ニーチェは言つた。「われわれ各人の中には遊びがかりの子供がゐる。これらすべてを創造した神の中に、なにか子供らしいものはないだろうか。それは、まさしく神の本性と書えなうだろうか。それはまさしく神の中に生まれた赤ん坊の中に、まがいなくザレの町で他の子供と遊ぶ少年の中に見られる神の本性ではないだろうか。水鳥に見られる正確な角度、左右対称、美しい形はそこからくるのだろうか。

東洋にゐる幾何学が自分でつむいた糸の糸を縫ひ合せて染をやるのはどうしてだろうか。くもの巣作りが人間の技術に勝つてゐるのはどうしてだろうか。

天体望遠鏡に、くもの糸がメッシュとして使用されてゐる。人間は耐久性や耐熱性の土で、それに優るもの、くもの糸を造ることができないように思われる。

人間はリーダーを導明した。しかし、彼らは、それをどうもかちと学んだ。今日、私たちは素晴らしい光学機器を持つてゐる。しかし、その一つでも人間の目に勝るものがあるだろうか。

私は、ひとりの共産主義者が、幼児の耳の繊細ならせん状の形を見てクリスチャンになったのを知つてゐる。それは、まがいなく、設計と作り作られたものにちがひない。それは、原子の自然の結びつきによつてできたのであると思ふ。

あなたがたも人間の耳を調べ、その中で、二万四〇〇〇の神経が一つに結び合わされ、脳に情報を伝達する役割をしているのを見たら、賢明な創造主を信じないではいられないのではないだろうか。

小麦の茎をよく注意して見てもらふなさい。その高さは四フィート半ほどあるのに、その穂は二インチの十六分の一に過ぎない。比較するために、千二百五〇フィートの高さの建物を想像してみよ。それは、だいたい一〇〇階建てのビルディングである。その床面積は、平方ヤードに過ぎない。さて、その茎のてっぺんは重い実がなつてゐる。それは風に揺られても、折れることはない。茎はよく考えられた学

的構造を持つてゐる。そのてっぺんどのようにして水を送るかは人間にとつて今にまで知られてゐる。高層住宅の上の階に水を送るに、私たちはポンプを必要とする。私たちはそれをどうもかちと学んだ。今日、私たちは素晴らしいものを造ることができない。私たちが神に学ばなければならない。

さて、水のことを話したので、ちょっと立ち止まって、その不思議な現象を見てみる。すべての物質は冷やされて水になつて休養を増すのは水だけである。その水は水よりも軽いので、上へ浮く。それは覆いを作つて、冬の寒さから魚をまける。このよきな水の特長がある。川の中で生き残るは不可能である。そして、魚を食へて生きていた原始人は生きのびることができなかったであらう。

このような例外はどこから来るのだろうか。それは、単なる偶然的な事なのだろうか。それとも賢明な創造主の命令によるものなのだろうか。

有名なデクニシャン、ワナー・シーメンスが次のように言うのを許してあげよう。

厚いペールによつて私たちの完全な理解から隠されてゐる、永遠の動かさざる法則によつて動かされてゐる自然の調和のとれた力の領域に私たちは入り込む。この科学の止めることのできない眼から飲みたいと思ふ私たちの願望と知識

私は「神とは誰かを言ふことができないのはそのとおりであるが、しかし、私たちが注意深く彼によつて造られたものを見るならば、私たちはその見ざる力を発見することができよう。それは、全能な支配者、また偉大な芸術家として神について語つてゐる。それから、私たちは、神が秩序の神であることを知る。

イエスが弟子たちに父なる神を見せてくださったと尋ねられた時、答へて言つた。「リボ。こんな長い間あなたがたといひしように、あなたたちはわたしを知らなかつたのですか。わたしを見た者は父を見たのです。わたしに父におり、父がわたしに与へられたことを、あなたは信じてゐるのですか。……わたしのうちに居られる父が、ご自身のわざをしておられるのです。」「ヨハネ一四、十」

これらのことによつて、イエスは、私たちが彼の人格について考えるべきこと、しかしまた、私たち自身について考えるべきことを教へてゐる。

釣り合ひのこの感覚を持つてゐるなら、私を見た者は誰でも、あるいは、あなたを見た者は誰でも、あなたが無神論者である者であつても、父を見るのであるといつては注意せよ。なぜなら、

私たちはみな、彼の像のうちに、彼に似せて造られたものだからである。

ニッサの聖パウロは「人は神の人間の顔である」と書いた。

聖パウロは、「神と人との間には、非常に近しい関係がある」と書いた。聖パウロは、「人間は神になつての命を受けけた存在である」と書いた。

人は、すべての人は、どんな人であつても、——無神論者でも、犯罪人でも、聖者でも——まず、その肉体の構造がすばらしい。どんなに悪い、卑しむべき人間でも心臓を持つてゐる。それは人々に造ることのできないポンプである。——それは、一日に六〇〇回体中に血を送る。五十年間とすれば、八億四千万回になる。そしてこれほどときめきもなかつた行

第三に、人間は魂というものをなまじりくしり抜かれたものである。それは一つ一つの驚くべき実体であつて、ほとんど定数であることができない。それは完全なものである。ある意味で、肉体的なものにも存在する。そのことは、耳の聞こえないベートベンの第七交響曲で、その独立性が証明されてゐる。あるいは、おしで、つばはめくるといふ三重奏を背負つたヘレン・ケラーの生涯において、それを発見することができよう。彼女は作家であり、偉大な恋愛家となつた。あるいは、九才にしてユークリッド幾何学の公理を再発見したパスカルの場合とそれを見る。あるいは、五才にして音楽

を作曲し始めたモーツァルトの生涯にそれを見る。

それは、また、遠視力、テレパシー、予知力、そしてまた催眠術の経験からして、感覚からも独立してゐることが証明される。

催眠状態では、心臓の鼓動がほとんど消えてしまふほど弱くなる。人はほとんど呼吸を止めてしまつたようになる。血液が脳の血管にわずかに動いてゐる。それは手細血管には届かないかもしれない。適当な酸素がなければ、それは腐敗が作り出すもののためさかされてしまふ。脳の活動はほとんど停止状態になつてゐるが、催眠をかけた人の心は、非常に活潑になる。一度、その人に長い詩を讀んで聞かせるだけで、彼は一つの間違いもなくそれを繰り返す。彼は、ヘブル書の一ページを讀んで聞かせる。彼は言葉を知らないかもしれないのに、それを正確に反復する。彼は子供の時からこのさういふ出来事を知り出す。

魂の領域には非常にたくさんものがある。

しかし、人間は第三のすばらしい構造を持つてゐる。肉体の上で人間は動物世界に類してゐる。でも（進化論に科学的に反対してゐる人もあるが、このことは何も恥ずべきことではない。アシンの聖フランシスは、仲間の説教と語り、仲間のモンキーと語り、こんで話をしたと伝えられる。人間は、また、精神を持つてゐる。それによつて、人は神に似てゐる。

私の教えたは、その存在を認め

めるといふしなれないかもしれない。なぜなら、それは感覚では捕えられないからである。それが立証者自身である場合はさか。目はそれ自身を見る。ことができない。異はそれ自身をかくことができない。精神は感覚に従つて動く。光景には従つてゐない。それは傍観者であつて、その範囲内にあるものに対して、それ自身の好みに従つて反応する。

アリストテレスは言つた。「あなたがたの中にたゞ人間だけを認めるなら、あなたは人を裏切り、彼を惨めにする。なぜなら、彼の存在——精神——に必要欠くべからざるすべてのものによつて、人は単なる人間のいのちよりも、もっと高度なものに呼びかけられてゐる。」「単に人間であるといふことは、人間でないといふことである。単なるさなきに過ぎないと思へられることは、さなきとして価値がある。それは、また、過程を経て、蝶になる。そのようなわけでは、私たちは、人間の品性を下げて、かたがたされない。人に対して、イエスは、あなたがたは神である。」「ヨハネ一〇、三四」と言われている。神の中には神子以上のものがある。それは潜在的な花を持つてゐる。

人間は神の像を持つた存在である。私は、神がどんな姿をしてゐるのか言ふことができない。しかし、人間を見よ。人類の最後の典型を見よ。そうすれば、あなたは神の向かを見るだろう。あなたは生きる喜び、創造的な熱狂の喜び、知識の深み、美を求める心、いのちの機微、可能性を見分ける識別力、いと高き所に到達しようとする能力を見るだろう。

人間とは、なんと偉大なる存在だろうか。人は神の似姿であり、神の像である。なぜなら、人もまた、宇宙の創造者である。彼自身

顔が美しいのはそれが魂を現わしているからである。世界が美しいのはあなたがそれを通して神を見るからである。——カント

人間とは、なんと偉大なる存在だろうか。人は神の似姿であり、神の像である。なぜなら、人もまた、宇宙の創造者である。彼自身

の内なる宇宙の創造者である。私の外なる自然は、渦巻くエネルギーの大渦であり、おぼたしい電波や放射能の渦であり、電子や陽子や基本的な微分子の振動である。しかし、物質的な電波が耳に聞こえるものとなり、見える放射能が目に見えるものとなる。そして、理解できない世界が、人間の心に理解できるものとなる。私の外には、実体がある。私はそれに、量、性質、原因性、究極性、形態を求める。私はこれに、外見上の混沌たる実体を私が編みだして描き、それから秩序ある宇宙を作り出す。自然がそれ自身の美しさを現わすのは、私の心においてである。私がはるかなる光を見る時、それは深紅の光をばなして生きている、かぐわしい香りを放つ。もし人間が存在しなかったとするならば、ばなはなんの価値もなくなってしまう。そして、単なる原子の集合と過ぎ去るであろう。内側から私が私自身を知る自然の唯一の対象は、私自身である。そして、私自身の中には何かがある。混沌に秩序を与え、私自身の宇宙を創り出し、おぼたしいものがないが、私に喜びを与え、あるいは悲しみを与え、私他の人たちを失望に導く力である。知識のあらゆる局面において、私たちは外部者として生きている。私たちは知れる者から知られる者へと進んでいる。もし私たち自身が、観察者が見ることができるといふ外部のものよりもまさる者であるならば、私たちを取り巻く世界に外面に表われるものよりもまさるものが存在するの、不可能なことではあるまいか。

レーニンが観念論哲学の創始者ビショップ・パークレーにお世辞を言つて、もっとも打ち負かし難い観念論哲学者である、その理由は、

は、パークレーは神に対する信仰のために、筋の通つた議論を用意したといふのである。ある議論は私にとって非難に値する見えて、宇宙は心の中にのみ存在し得ると言つて、心の外では、実体は混沌としている。それは、トニー・P. ポーラーである。それはそれから宇宙を構成する心である。その法則を伝授し、それに秩序の仕組みを与え、それを分類する心である。宇宙に在るものは心の中に存在し得る。しかし、人々は、永遠には存在しなかつた。人間の心もまた同じである。それ故、人間が出現する前には、宇宙に存在したもう一つの心があったにちがいない。人は、彼自身について、構成された宇宙の部分として考へてゐる。宇宙にいつも存在した心は、神と称はれた。私も、また、宇宙の創造者である。内なる宇宙の創造者である。しかし、私は創造者である！それ故、私を見る者はだれでも、父なる神を見るのである。私は、神がだれであるか、あなたに言うことができない。しかし、あなたは、人間を見ることによつて、神について、何かを理解することができよう。

ナザレの

イエスを見よ

あなたが知っている、最高のそして最後の人類の典型に目を向け、最も愛すべき存在に目を向けよ。そうすれば、あなたは彼の中に、ほんやりではあるが、父なる神の何かを見るだろう。

しかし、あなたが特別な方法で神を見ることのできる人の子がいる。それは、ナザレのイエスである。――なぜなら、彼は人の子であつただけでなく、神の愛肉であつたからである。

私たちは神が何であるかを言うことが出来ない。しかしキリストを見ることによって彼の品性の何かを理解する。

神はすべてを知つておられる。神は、わづかなら、神にしては外から知られることのできないことがある。裁判官は刑法のすべて、刑罰のいっさいを知り得るが、それでもなお、正しく裁判できるとは限らない。なぜなら、彼は、罪人の生涯を生きたことがないからである。毎日毎日罪人として刑務所の中で過ごす五年間と、法律に照らして罪を規定し、刑罰を言い渡して過ぐる刑務所の五年間とは全く異なることがある。神は、それを知ることができよう。彼は一度も、何かの道徳規範に違反したという経験を持たない。ところが、これらの罪は、あなたが毎日とり囲まれてゐる生活の無視できない要素である。神もまた、聖天使たちも、死を知らない。死は、彼らにとっては、単なる光景にほかならず、外側から眺めるだけである。

それ故、神の子なるキリストは人間のすべての個性と制限を持つた人となつた。男性である彼は、女性の誘惑を知つた。抑圧された民族の執しい大士である彼は、反逆や、不正義の誘惑を知つた。むち打たれ、そして十字架上につけられた彼は、失望や恨みの誘惑を知つた。罪を犯すことはなかつたが、使徒たちが、彼の十二才から三十才までの出来事は記録しないほうが賢明であると考へた、このような罪の深みを、彼は知つた。

た。しかし、彼は、彼の三年半の公生涯のことを記録した。それによつて、彼の敵たちは、彼が知らずや、汚れた女と親しくしてゐると言つて、しばしば彼を攻撃した。

神の子、イエスは、そのすべての負い目を持つた人間の性質にあらずかり、死を味わうことを選んだ。かくして、御自身が、たゞ単に人を正しく救ふだけでなく、その弁護者、また救い主となつたのである。イエスの生涯とゴルゴタの十字架における彼の死は――人間の救う力とは別に――人間の間を渡る、個人的に、親しく知つた神の方法であつた。ゴルゴタの経験の前には、神は、のちに知つたところの比べれば、わづかし知らなかつた。そして、今や、肉において私たちと同じになることによつて、彼は、私たちをよりよく理解し、よりよく私たちを救ふことができた。天の王国は、私たちのところにもっと近づいて来たのである。

神の子の、この大いなる謙遜を何に比べることができようか。

アメリカの刑務所の殘酷な待遇を改めるために、自ら獄につなぐれ、多くの年月、囚人として拷問の生活を送り――のちの彼の勇敢な改革運動の準備をすべてととのえたオスボンの職務上の試みに比べることができるとは思ふまい。

有罪な病弱体を自らの体に注射し、そこから得た経験によつて同胞を助けようとしたある医者の行為に比べることができるとは思ふまい。

しかし、ちがう。これらの類似は、何も私たちを救えてくれない。なぜなら、これらの場合、ひとりの人が彼の同胞である他の人たちのために、彼のいのちを危険にさらしたのであるが、イエス・キリストの場合には、それは全く異なるからである。

キリストは神である。彼の目には、私たちの世界は微々たるものである。すべての国民は、彼の前に、バケツの水の一滴のようなものだ。また、塵りの上の塵りの一つのようなものだ。彼の偉大な行為は、むしろ、悪魔を放つ、血を吸う虫に対して人が示す愛の矛盾に似てゐる。その虫は、もしそれが殺したいと考へてゐる人間の指の間をうづめてゐる。しかし、彼は、南京虫になり、人間を害する傾向を持つた南京虫の生涯を生きて、彼の以前の地位を再び取り戻して、最後に、虫を正しく殺さ、彼の無慈悲な機嫌者たちから彼を守り、彼らを権威をもつて擁護し、彼らに無害な利益をもたらす者にしようと考へたのである。

このような例は、多くの人の氣に入らないものであることを、私は知っている。しかし、キリストが、醜い、いまわしい、罪深い種族の中に愛肉することを選んだことは、天使たちには理解できないこと、いかに思はれたにちがいない。

キリストは、単に、人間の善徳にまぎれただけではない。若い処女マリヤの体内で、神秘をよめる受胎の過程を通じて、単なる胎となり、有機物から同様に無機物から滋養分を取り、胎内で九か月を経過して、赤ん坊となり青年になり、そして人となつた。どんな人になつたのだろうか。彼は、バル・コクバのような英雄になつたのではない。タヤナのアポロニウスのような偉大なる始祖になつたのではない。プラトンのような哲學者になつたのではない。人を、すべての人を救うために、キリストは、人類がおぼれると同じ深みに身を沈めなければならなかつた。それ故、人間の正真正正な成長過程を経た後で、彼は、教養のない社会階級の一角であるユダヤの大工になつた。彼はたゞさ人の言葉を知らなかつた。彼は、ときどき、卑しい基準の討論に参加しなければならなかつた。なぜなら、彼が討論するのはこのような水準の人たちだつたからである。彼は、弱さ、怒り、苦痛、恐れを知つた。そして、彼は犯罪人たちの中に身を置いた。

イエス・キリストにある、人々の非難的になるようなこれらのことが、理解する人々にとつては、彼の偉大なる謙遜さと底知れない愛を燃ゆる刺激利となつてゐる。

そして、キリストに、彼がどうしてこのような犠牲を払つたのかと尋ねるならば、彼は威厳をもって単純に、神はそのひとり子を絶わすほどにこの世を愛してゐた。それは字を信じる者がひとりも滅びないで、永遠のいのちを得るためであると答へる。彼は父なる神が彼を遣はしたのだと言ふ。

私たちは、神が何であるかを言うことが出来ない。しかし、キリストを見ることによつて、私たちは、彼の品性の何かを理解する。私たちは、神をもっとよく表現するものは愛、義、人類に対する慈悲であることを知る。私たちは、彼がこのような愛であることを知る。そして、この愛が彼をして御子を与へせしめ、私たちのために死なせたのだということを知る。

イエスを見る者は神を見る

神の品性は愛と義と慈悲である

# 創造

しかし、なぜこのような回り道を  
するのだろうか。どうして、私  
たちは、自然の中に、人間の中  
に、イエス・キリストの中に神を  
見るのだろうか。

バビロニアのタルムードに、異  
教の皇帝がラビに質問したことが  
書かれてある。「わたしに神を見  
せて。」ラビは答えた。「一つの  
条件の時、あなたは自分の目  
で神を見るべきです。まず

あなたは五方間、太陽を直視しな  
ければなりません。」皇帝は太陽  
を見たが、すぐに目を瞑りてし  
ました。そこで、ラビは彼に言っ  
た。「あなたは一分間も太陽を見  
るべきではありません。太陽  
は神の創造の第一歩です。それ  
なのに、あなたは、無数の星と  
その光りを見えられぬ方を見た  
と云っています。」

確かに、現代の知識人は、信  
仰は失われてしまった。  
彼は、世界では、すべてのこと  
が自然の法則に従って生じてい  
ると思っている。存在する事物が  
前の段階の結果であるように、一  
つの物が他の物へと精密な法則  
に従って発展する。山や、谷や  
川や、生物は、この世で普通考え  
られている意味での創造ではない。  
星が創造ではなく、ある前の  
状態からの発展であるという考え  
と同じである。ある星は古く、消  
滅寸前である。ある星は成熟期で  
あり、ある星は幼弱期である。あ  
らゆる年代の星が、宇宙に存在す  
る。それでは、創造の時期はいつ  
だったのだろうか。消滅した星の  
数は五〇万に計算される。今存在  
する星は、いつも存在していった

は限らない。神の中で進化すること  
が知られている。この理屈から  
すれば、すべての生物は神の直接  
の創造物ではないと言えよう。  
神が世界を創造したお方である  
と単純に考えられないところに、  
むしろかしこみがある。彼は生ける  
いのちを賦与する神である。彼は  
絶えず、彼の固有の品性である科  
学的法則に従ってすべてのものを  
動かしている。それ故に、彼を捕  
えるのが、非常にむずかしいので  
ある。

ヘラクリタスは、「それは、そ  
れ自身を隠してあらゆる性質を持  
っている。」と言った。このこと  
は、神について、更に適切に言っ  
てゐる。神についてソロモンは  
言う。「主は自ら義の道の中に住  
まうと言われた。」(列王紀上  
八二)

隠れた存在であればあるほど、  
それ自身を隠して、さらに大い  
な恵みを与える。そのような存在  
が神である。そして、それ故に、  
彼は見えざるままに在る。私たち  
は、私たちの祝福の源を探さなけ  
ればならない。ルターは言う。  
「無はさらに小さな存在である神  
がなくとも小さい。無はさらに大  
きな存在である神がなくとも大  
きい。無はさらに短い存在である  
神がなくとも長い。無はさらに長  
い存在である神がなくとも短い。無  
はさらに広い存在である神がなく  
とも狭い。無はさらに狭い存在で  
ある神がなくとも狭い。」彼の著  
作のほとんどのところで、彼は付け  
加えている。「無はいくつ神を存  
在せしめる。そして神とその力よ  
りいくつ神中心の存在である。」

そして、私たちは、神の霊が動  
く時以外には神を見るべきでな  
い。ちょうど、風が吹かなければ  
空気を見るべきではないのと同じで  
ある。あなたの中で、霊の衰弱し  
た感覚を目ざめさせ、あなたが主

の存在を知覚するのは、黙想と靈  
的経験を通して、イエス・キリス  
トの犠牲を信じる信仰があなたに  
与える純粋な性質を通してだけであ  
る。「一心の清い者は幸いである。  
その人は神を見る。」とイエスは  
言う。

あなたはもうしら人が清くな  
るかを人に言うことができない。  
なぜなら、あなたは彼らよりも  
清くない。これから清くなるので  
ある。それにもかかわらず、あな  
たは神を知る。あなたは栄光から  
栄光へ、神の似姿へと変えられ  
ていく。

私は、神はいま、と言いつ残し  
て眠死したクリスチャンたちを知  
っている。彼らはまちがっていた  
のだろうか。ちがう。私もまた、  
ちがいない。

私たちはそれぞれ異なる基準で生  
活している。科学者は、すべての  
物体は基本的な微分子の旋風であ  
ることを知っている。お互いの微  
分子が距離を保ちながら、地球と  
太陽の間に均等に合っているのだ  
である。しかし、彼はなんのために  
いもなく極度に暖かくなる。それが  
非常に固い物体であることを知っ  
ているからである。ある意味で、  
すべての星は、巨大な真空の中を  
電子が回っている大きな空洞であ  
る。しかし、ほかの基準から考え  
ると、壁は空間以外の何ものでも

ない。あなたはこの邪魔にならない  
壁に注意しなければならぬ。  
あなたが原子理論を学ばなければ  
に向かって突進する、あなたは  
ひどく頭をぶっつけることになる。  
同じことが数回づついても言え  
る。私たちは説明したように、神  
に対して「存在する」とか、あ  
る」とかという言葉を適用できな  
い高い、哲学的な基準がある。な  
ぜなら、それらの言葉は、あまり  
にも単純だからである。神は存  
在している以上のものである。私た  
ちクリスチャンは、神についての  
無神論的な否定を考へる心の余裕  
を持っていない。ところが無神論者  
は一つの基準に現れる事実だけ  
しか知らない。それ故に、彼らはそ  
れをまちがって理解し、そのため  
に、彼ら自身を恐ろしい危険にさ  
らすことになる。神が単純に存在  
するか、あるいはあるかというこ  
とについて、もう一つの基準があ  
る。

部分的な真理というものは、危  
険なものである。私たちが真理、  
完全な真理、真理以外の何もので  
もない、と極端に信じるのは理由の  
ないことではない。

すべての教義ある人間は、ニュ  
ートンの宇宙とアインシュタイン  
の宇宙に同時に生きていくことを  
知っている。その二つの宇宙は、  
それぞれ独自の法則を持っていて  
る。ニュートンの宇宙が知らな  
い人は月に飛ぶことも出来ない  
人は原子力を持つことも出来ない  
は、原子力を持つことも出来ない  
だろう。私たちは、神に会うこと  
ができない世界と、無神論者は知  
らないが、神が単純に存在する世  
界、そこで、彼と私たちが交わり  
を持つことが許される第二の世界  
と同時に生きている。

それは霊の世界であり、実際の  
な宗教の世界である。  
椅子も、壁も、パンも存在す  
る。そして、それは、分子理論や  
原子理論とかかわりなく、用いら  
れている。同じように、神は単純  
に存在する。

突然、特別な危機の時に、自覚  
の壁を破って神の臨在が現われ  
る。  
古くから知られる実例がある。  
そして、私は個人的に、このよう  
な多くの例を知っている。もちろ  
ん、無神論者の、一党の過激な  
犠牲になって共産党の半死で死ん  
だ共産党の指導者たちの例も聞  
いている。彼らは、最後の瞬間に、  
「神さま!」あるいは「イエスさ  
ま!」と叫んだのである。

歴史全体を通して、なん百万と  
いう人の心に、この神に対する信  
仰をもちしめたのはどこからであ  
るかとなすねることは有益なこと  
ではないだろうか。神を否定する無  
神論者は、彼ら自身の心に存在す  
る観念を否定しているのである。  
イギリスの哲学者ロックは、私た  
ちの感覚を通してのもの以外は、  
私たちの知性に何もないという  
思想を展開した。ニュートンの  
ジャンクルに住む未開の人間は、  
その心に「デレニ」という観念を  
持たない。なぜなら、そのものが  
彼の生活している世界には存在し  
ないからである。もしも人間が、  
かつて一度も神を経験したことが  
ないとするならば、どうしてその  
心に、このような観念を持ったの  
だろうか。

もしも人間が、かつて一度も神  
を経験したことがないとするなら  
ば、どうしてその心に神の観念を  
持ったのだろうかという疑問に対  
して、エンゲルスは、生存在中、  
一つの答えを用意し、神の観念は  
社会的現実が私たちの心に幻のよ  
うに反映するものであると言っ  
た。そこで、クリスチャンたちは  
エンゲルスの考えは間違っていると  
は幻の反映ではないことを証明し

ようと努めた。しかし、神に關す  
る観念は、天の天体の正確な反映  
である。ほかの観点から考えてみ  
よう。  
私は、神に対する信仰は幻の反  
射であることを認める。そして、  
その幻だけが現実であることを付  
け加えて置く。人間が月に行くこ  
とが出来るとか、潜水艇が北極の  
氷の下をくぐり抜けるとか、飛行  
機で短時間に地球を回ることによ  
って距離をなくするとか、原子を  
分離するとか、天然ガスで家を造  
るとかということを否定する。現  
実主義は、すべて、あやまりで  
あることが証明された。同じよう  
に、神の世界に生きているのであ  
って、現実には存在しないとかま  
じめ主張する人たちの「現実主  
義」も、まちがいである。他方、  
レオナルド・ダ・ビンチや、ジュ  
レス・バードや、彼らのような他  
の人たちの夢は、現実となった。  
神と共に歩いているという夢想家  
の夢を、あなたは見ることもでき  
なければ、触れることもできな  
い。そうするためには、あなたは  
信仰の機能を発展させ、すべての  
被造物にゆきわたっている現実を  
感知しなければならぬ。

夢だけが、現代科学の真実であ  
る。ニールズ・ボーアは尋ねて言  
う。「真理を完全に所有するほど  
の狂人がどこにいるだろうか。」  
科学とは何か。夢を真実ならし  
める記憶である。

細胞の核の中にある染色体に、  
前の世代すべてが、新しい世代に  
彼らの経験と、彼らの経験的な形  
態を伝えてきたコードがあること  
が発見された。今、この知識は、  
たんぱく質が組み立てられる様だ  
けでは説明がつかなくなった。そ  
ういふなかで、核にはゼロック  
スの機械のような、染色体を複製  
する装置がある。そして、そ

のゼロックスの機械を操作する  
「だれか」がいる。複写は必ずし  
も原本のままでない。複写機を  
操作する「人」は、写真複写をす  
る時、記録の一部を消したり、あ  
るいは特別な記録を付け加えたり  
する人である。そして、染  
色体は、この知識を細胞外に運び  
出す。

なんとこの夢のような話であ  
う。どんな小説家も、これ以上の  
話を創作できなかった。この夢が  
私たちの機関に関する「真理」で  
ある。  
宗教も、また、夢の反映ではあ  
るまいか。そして、それは、幻の  
実体の正しい反映であり、また、  
幻の創造主の正しい投影である。  
人間の心は二重の性質を持って  
いる。それは、事実を理解すると  
同時に、夢を見る。もしそれが夢  
を見ることになかったとしたら、  
人間性は進歩しなかったであろ  
う。文明は以前には夢であったこ  
との成就である。私は事実だけに  
立脚する宗教を拒否するだろう。  
それは、私の二重の性質を満足し  
ないだろう。それは、夢の後に、  
神話の後に、私の望みを満たすに  
ちがいない。

マルクスとエンゲルスは、初期  
の資本主義下に存在した恐ろしい  
搾取という事実を記述した。しか  
し、彼らはそれに止まらなかつ  
た。なぜなら、彼らは人間たっ  
たからである。事実を分析した後  
に、夢が動き始めた。搾取や戦争  
のない、社会主義にもとづく新し  
い社会の夢である。科学の夢は成  
就してきた。信仰生活をこれから  
始めようとする人にとっては全く  
夢である現る生活は、多くの人  
々によって達成されている。しか  
し、マルクス社会主義社会は、い  
まにユートピアである。そのよ  
うなわけで、エンゲルスが、ギリ

存在する

## 神は存在する

る哲学の持ち主である哲學者は、ほんとうは哲學者でないにちがいない。神であるべき神は、彼の行為と彼の存在によつて、私たちの理性を越えるものでなければならぬ。

蜜蜂のことを考えてみよう。それは蜜を貯えるために一万の部屋を幼虫のために一万二千の部屋をもった町を造って、蜜を貯え、女王蜂のための場所を造る。蜂は温度が上がって、ろうが融けて蜜が流

ない。だが、これらの魚に航海術を教えたのだろうか。

私たちが刑務所に入れられていた時、つばめが私たちの部屋に巣をつくった。そして、いつも秋になると私たちの国から旅立って行

あなたが「神」と言った時には、彼の存在は暗黙のうちに了解されてゐる。

祈りが、理屈なしに存在する。

どうして人類は祈りを持っているのだろうか。どこから、この現象

て、たたかれました。神よ。わが神よ。私はなんと惨めに苦しんだことでしょう、なんと私はだまされていたことでしょう。

しかしながら、主よ、私たちはあなたに対して祈った人々とは

あなたではありません。あなたには私ではありません。私たちは、とにかく、全く新しい存在です。」というような高尚な祈りとは遠くから離れた叫びである。

越えていることを想像することは可能であると答えるに、ちがいない。このようにして、あなたがたは太平洋の真中にある全部がダイヤモンドから成る一四方の島を想像することができる。しかも、そのような島は存在しない。しかしあなたが「想像した」すべてのことは現実である。自然は、島がある。太平洋がある。ダイヤモンドがある。そして二マイル四方の丘

私たちの呼吸している空気は、私たちの肺に合うように、酸素と酸素がちょうどよく配合されたものである。太陽や月からの地球の距離は、生命、健康、幸福を維持するのに、ちょうどよい具合になっている。雨や雪の間のない期間は、土地を肥沃にする。打ち寄せる波は、海岸をきれいに、新鮮に保つ。からたを維持するために必要なビタミンは豊富に供給され

れ出すのを見ると、彼らはいくつかの群れをつくって、入口に番兵を置き、足を付けたまま羽をふるわせて、蜜を冷やするための空冷装置をつくる。――それはちょうど電気扇風機のようなものだ。蜜蜂は二十平方の地域から蜜を集める。さて、蜂の小さな頭脳がこんなすばらしいことをすることができるのは、その背後に、もっと重要な心――神の心があるからではないか。

つた。しかも、この間につづめた  
ちが、モザンビークのような遠い  
国から、彼らが半年前に飛び立つ  
たルーマニアの刑務所の、正確に  
十二号室に縛つて来た。

目を開いた彼らのために、神の  
知恵と力が方向を定めさせる。  
神は存在する。この質問は尋  
ねる必要もないことである。

主題叙述形式のすべての真実な  
表現においては、叙述は主題の中

は始まったのだろうか。どこからでもない。人間は絶えず神のことを考え、彼との交わりを探し求めてきた。哲学も、実證的な宗教もある時には原始的であつた。またある時には豊しくまがっていた。しかし、それらは存在した。

北アメリカのインディアン部族  
祈りに次ぐようなものがある。  
おお、わが母なる大地よ。

交わりを持つことができるようになりました。彼らから、私たちは学びました。――能力のすべてを傾けて、私たちがあなたのお姿を思い浮べた時、あなたは、偉大で、力ある、私たちの言葉を聞くことができ、私たちを助けることができ、あなた御自身が姿を現わさなくとも私たちに知覚できるお方となりました。

神の調御が、彼の無神論の調御が成功するやうと神に祈つたのを知っている。彼は生活の糧を得ることができやうにと、祈つたのだつた。

意識するとならないにかかわらず、人間は、存在し、出会うことのできる神との交わりを求めてゐる。そして、彼らが熱心に求める。ならば、彼らは神に出会う。

さが存在する。今、あなたは、不適当に、現実をつなぎ合わせたのだから。しかし、それこそ、あなたが想像することができた現実である。そのように、私たちの心の中で、私たちの持っている神の概念が、まちがった思想と結び合わされることである。私は、悪い神人間の姿をした神、部族の、あるいは民衆の神、そのような類のそ

る。自然の法則と力は、人間が利用するのを待つてゐる。神は地球を美と魅力で賣した。そこには壮麗な山と豊かな谷、高い木と緑のじゅうたん、月の光、砂漠の静けさ、小鳥の囀きがある。それらは、みな、神が私たちのためにこのために地球を造つたという事実を証明している。

ひとりの若者が少女を愛して、彼女に、すばらしい莊園に迎ま

あるまいか。

シカゴの科学者のあるグループが二つの実験をした。めずらしい種のおすの蛭が部屋に放された。同じ種のおすの蛭が、四角離れた所から放された。町の煙にかかわらず、距離にかかわらず、そしてめすが閉じられた部屋に入れられていたにもかかわらず、二、三時間経って、おすの蛭が、めすが閉じ込められている部屋の蛭がらすを

に含まれている。神は理想の存在であり、すべて最高の資質の集大成であり、愛とか、善とか、義とか、全能とかである。もしも彼がすべての完全の所持者であるならば（そのとおりであるにちがいない。そうでなければ、彼は神でもない。そうではなくて、彼はまた、存在をも所持してなければならぬ。存在しない神は、完全の想大或とは言えないだろう。神は

われらはあなたの子供です。  
あなたが求める犠牲を、われ  
らは膝をかかめて捧げます。  
輝く太陽の光の着物を私たちに  
に編んでください。

朝の白い光はたて糸。  
夕べの赤い光は横糸。  
降りしきる雨をよきとして、  
紅でへりとりしてください。  
輝く太陽の光の着物を私たちに

た。そして、小さな子供ではあつても、私は、私の選んだところの私の助けであるあなたに、祈りはじめた。そして、あなたに話しかけながら、私は何を言つていいのかなくなりました。私は小さな子供にすぎませんでしたけれども、学校で、もうこれ以上たたかれないようにと私は熱心に、あなたに、祈りました。

の他の神を信ずることができぬ。しかし、正しい神の時も、私は、正しいか、いすなひかは別として、現実を取り扱っている。神は自ら存在する。そして、存在するもののである。私たちが存在すると思ふるものが神ではない。

エングルスは、私たちの信仰はばかけたものだと、私たちに言へきでなかった。

もしも神が私の理性のわく超へ

た郎平をプレゼンツして、「これは、私があなたのために選ったのです」と言ったとする。そうしたら、少女は、疑いもなく、若者、彼女を愛していると思うだろう。このことは、神を私たちに与える出来事と全く同じである。彼は、私たちにために食物を齎した。そして、地中には、道具や燃料のために、鉱物や石油がある。これらは、みな、神が私たちの必要を満

羽で打ちたたくのが発見された。このよみなことは、知的な存在——すべてを創造した神をめきにし、て説明できるだろうか。

魚がノルウエーの峽谷に卵を生む。そして、卵からかえった稚魚は、どうにかして、大海を横切り、カリブ海まで、彼らの道を見つけたたぐり着く。薩摩の時期になると、今度は、彼らが以前に出て

「存在は存在しているか」と尋ねるのに等しい。  
神は存在する。この信念をもつて私は生き、この主張をもつて私は死ぬことをぞむ。私が神は存在するという表現を用いるのは、ただ、無神論者を相手にしているからである。ほかには意味のないもので、**「独身男性は男である」**と三言二語で、同・言葉のくり返し

に頼んでください。  
私たちは小鳥のさえずる中を歩きたい。  
私たちは緑の草原を歩きたいに  
おお、わが母なる大地。  
おお、わが父なる天よ。  
聖オースチンは、小さな子供の  
ように、折りの経験を書いてい  
る。  
私は学校に入れてもらって、  
読み書きを学びました。そのこ

無神論の学校で育ったソビエトの兵士たちが、戦場で折ったと云う折ったらしいかわからなかったもので、彼らの多くは「神と母の聖母、助けたまえ!」と言った。スターリン時代に迫害の犠牲になった、むかし共産黨員であった人たちが、刑務所で私たちと同じ部屋になった時、彼らは困難な時に折った、と私たちに語ってくれた。

に適合することが出来るものであ  
るならば、それは神ではなくて、  
私と同じ類の低い存在に過ぎない  
だろう。五歳のむすこに理解され

たしてくれる証刻である。そして  
それ故に神が実際に存在するとい  
う証刻である。

た正確に同じ峡谷に燃つて来る人間の場合には船長になって、地中海を横断航海するためには、二十年間、学びに費さなければなら

してある。あなたが『独身男性』  
と言った時には、すでに『男』と  
言ったのである。同じように、あ

とが役に立つとは、ちっとも思  
いませんでした。いつも、同じ  
ように、私はおぼえるのが遅く

このような祈りは、聖ガートル  
ユードの祈り、「イエスよ、私は  
あなたで、あなたは私です。私は

神は理性の枠組みを超越した存在

# 聖書の預言の成就

## 預言

『無神論者』の著者たちは、どんな預言の可能性をも否定する。彼らは、科学の名のもとに、預言を無用済みにしている。それならば、歴史上傑出した科学者、理性の父と言われた、アイザック・ニュートンが、預言に関する考察、という本を書いたのはどうしてだろうか。彼は、イエスの歴史を、最初、真に科学的に年代別に整理したのである。

しかし、預言が可能かどうかという議論のかわりに、事実を分析してやろう。事実とは、証明されるならば、自らのために語る。預言が成就したことを示している事実があるだろうか。

聖書の幾い知識をもつてさえ、これまでに成就したと言っている預言は明らかであり、また、私たちの目の前で成就しつつあるものもある。

第一に、聖書の重要な主題であるイエス・キリストに関する預言がある。

聖書では、キリストがアブラハムの子孫から出て、ユダヤに属する者が預言された。預言者ミカは、キリストがベツレヘムの町に生まれることを、実際の出来事とさかのぼること七百年前に預言した。おおよそ同じ頃、イザヤは、彼の職責と密接に関連して、彼の生涯の模範を述べた。預言者ゼカリヤは、イエスが娘を産むに際して、エルサレムに入ることを預言した。『黙示四一』は、彼が弟子のひとりに囁かれることを預言した。ゼカリヤは、この囁めが、その裏切りによっていくらの金をせしめるか、そして金を受け取ったあとにはどうなるかを預言した。イエスが打ちたれ、つばきをか

けられることも預言された。キリスト以前五百年ほど前に、ゼカリヤは、人々は彼らが刺した人を見るだろうと書いた。ダレシは、彼の両手、四足が釘打たれるだろうと預言した。イエスの復活も同じように予言された。

これらの予言のあるものは、それらの成就は、イエスとその追従者たちによつて、一彼がロバに乗ってエルサレムに入城すること、十字架で「われ、かわく」と叫ぶとか、単純に並べかえられたものだと言つて、ばかにされた

り、無視されたりすることがあるかもしれない。しかし、ローマの兵士たちが、時常に書かれている予言「彼らは私の衣を被らぬの間で分けて、私の着物をくじ引きした」という言葉が成就するためによく考へて準備したのだろうか。ローマの兵士はユダヤの予言について、どんな知識を持っていたのだろうか。あるいは、どんな関心を持っていたのだろうか。しかも、この十字架刑の場面を記述する、みな兵士たちが彼の着物を記録した。ミハネは、それらに付け加えて、縫い目のない布は置かうがなかったのだ、裂かれて四人の兵士たちの間で分けられたと書いている。

しかし、すべての中でもっとも大きな出来事、イエスの死者からの復活についてはどうだろうか。彼はその舞台まわしをするのができたのだろうか。

たゞ彼が、無神論者が好んで言うように、大うそをついたとて、

しても、ユダヤ人とローマ人がそろつて見つめる中で、十字架の上で死なす、(もう一つの明白な預言の成就となる)とどうだろうか。一様に悔をくだれるということもなく、封印され、番された墓で死なすにすることができたのだろうか。そして、彼がこのことを全部

指示したとして、彼の恐怖におののいている懦弱な弟子たちに、兵士たちの眼を破り、封印された石を転がし、妨害されることなしに彼を解放するのをまかせることができたのだろうか。それは考えられないことである。

ローマ帝国の有名な歴史学者セネカは、救い主の復活を、ローマ史の中で、もっともよく証明された事実であると言っている。それは人間によつて仕組まれたとは考えにくい。それは預言の成就であつた。

## ユダヤ民族についての預言

「予言にいうものはない」と彼らは言う。私たちが予言者である人々は、正しい知識の持ち主であつた。それで、彼らは出来事を言ひだしたのである。

『無神論者』によれば、人類の最高の知的天才は、マルクス・エンゲルス、レーニン及びその類の人たちであつた。『無神論者』が政治や社会の出来事を理解の上でもっとも強力な手段として、すなわち、史的唯物論に考へていふことを、彼は心の中に持つていた。

マルクスは、ユダヤ問題、という本を書いた。彼は、明らかに、史的唯物論が思想家に賦与する可能性を持っていた。十九世紀後半に生きていた彼が、諸国に散らされていたユダヤ人が彼らの土地に縛り、彼ら自身の国を持つたところと、このことを少しも考えなかったのはどうしてだろうか。レーニンは二十世紀に生きていた。シオニスト運動がすでに始まり、次第に勢力になつていた。彼(人類の偉大な天才)は、ユダヤ人が彼ら自身の土地に集められるとは、全

く考えなかった。政治生活において、あらゆることの鋭い観察者であつた彼は、史的唯物論という強力な武器を持っていたにもかかわらず、シオニストのことを考へもしなかつた。彼はこの運動のことを一行も書き記さなかつた。ただでなく、その勝利を予想もしなかつた。

スターリンは、国民の疑問」という題の本を書いた。それは第一次大戦前に書かれた。一度は、無神論者によつて、これまでには出なかつた。これからは出ないであつた。天才と言はれた彼は、国民としてのユダヤ人を認識したことはなかつた。なぜなら、ユダヤ人は、国民とは何かという彼の定義に入らなかつたからであつた。

しかし、発展途上のユダヤ国は、マルクスの本の反ユダヤ主義と、彼らがスターリンの本において無視されたという事実を無視した。ユダヤ人は国家を形成した。それは、全く別の本『無神論者』がその本よりもさすんだ二冊の本——聖書で予言されていたことの成就であつた。

かつて、プロシヤのフリードリッヒ大王が彼の武官に尋ねた。「聖書がほんとうに靈感されたものである」といふ証拠を私に提出せよと武官は答へた。「それはユダヤ人でありませう。陛下。」ユダヤ民族とその奇跡の歴史は、聖書の予言の真理のもう一つの証拠である。

不思議でならないのは、無神論者『無神論者』のなん人がユダヤ人であることである。それが、ユダヤ人のある者はすべての人々の呪いとなるであらうという聖書の予言と一致している。しかし、無神論と戦い、神についての知識を広めてくれるユダヤ人もいふ。かくして、それは、イスラエルの残りの者は最後の日に、救い主イエス・キリ

ストに帰れ、大いなる祝福となる」といふ聖書のほかの予言の成就である。

ユダヤに関する予言は、約四千五〇〇年前、最初のユダヤ人であるアブラハムに對してなされた約束をもつて始まる。それを見よう。「わたしはあなたを大いなる国民としませう。」

キリスト教世界はひとりのユダヤ人の名、イエス・キリストを担っている。共産主義は、もうひとりのユダヤ人の名、マルクスを担っている。宇宙全体は、もうひとりのユダヤ人の名、アイゼンシュタインを担っている。

ノベル賞受賞者の六十パーセントはユダヤ人であり、彼らの中には、今はなきソビエトの作家、ボリス・パステルナークがいる。ユダヤ人は共産主義革命において非常に大きな役割を演じた。——トロッツキー、ツィンエフ、カネネフなどがその人々である。レーニンは半分ユダヤ人だつた。今日ユダヤ人は、ソビエト連邦内部における反政府闘争において、大きな役割を演じている。リトヴィフ、作家のダニエル、クラスノフ、ラビティン、その他投獄されて苦しめられている自由戦士たちはユダヤ人である。ユダヤ人は、アメリカ合衆国はじめその他の多くの国で、経済生活や政治生活の面で活躍している。彼は多くの西側諸国において、政府の要職を占めている。ユダヤ人のテラーは「核爆弾の父」と呼ばれている。セル・ハリソンはその著書『著名なユダヤ人たち』で次のように書いている。「今日のユダヤ

人が世界の命脈を握っているというところに、だれも異存を差しさまないだろう。彼らは行く先々で経済の専門家になる。」

パシル・モウルは、その著書『聖書から見た今日の出来事』で次のように言っている。「第一次大戦前にイギリスから出た西ヨーロッパの大学教授を注意深く教えてみると、約七〇パーセントがユダヤ人、またはユダヤ教徒であつた。」

史上初めて、婦人がローマ教皇庁で働くことになつた。彼女はユダヤ系のクリスチャンである。ユダヤ人女性、シモーヌ・ウエイルは、今日のカトリックの最も深遠なる神学者のひとりである。ヘブル語は、復活して、現在、イスラエルで一般に話されている唯一の古代言語である。このようなどことは、ラテン語、古代ギリシヤ語、スラフ語、アイルランド語、ウエールズ語では見られないことである。

このように、予言は成就している。小さなベドウィン族は大いなる国民となり、良かれ悪しかれあらゆる場面で大きな働きをしている。無神論者諸侯の創始者であるこの運動の指導者、エバン・イアロソフスキはユダヤ人であつた。

予言は続けて言う。「あなたは祝福された者になるだろう。」共産主義によつて祝福された考へてゐる。ユダヤ人を新マルクスに負っている。資本主義によつて祝福された考へる者は、このシステムを打ち出すことに貢献したユダヤ人にそれを負っている。キリスト

聖書のユダヤに関する予言はことごとく成就する

教によつて祝福されている者は、それをひとりのユダヤ人、イエスに負っている。

聖書は、また、同じ章で言っている。「わたしは、あなたがたが祝福する者を祝福し、呪う者を呪うであらう。」(創世記十二13)歴史がユダヤ人の友を好んだことは、まさきもない事実である。スベインがユダヤ人を追放した時、太

陽は全く沈んだ。帝政ロシアがユダヤ人を迫害して、その報いを受けた。ナチドイツも同じことをした。ユダヤ人に自由を与えた国は、彼ら自身も自由を享受している。

アブラハムの時代からずっと後、ユダヤ人は国民の間に散らされるであらうと予言された。今日、三つの散らされている民族がある。シブシ、アルメニア人、ユダヤ人がそれである。しかし、その中で、ユダヤ人がもっとも広く散らされて、ユダヤ人のいない国はまれである。

イエスはエルサレムの破壊を予言した。それは紀元七〇年に起こった。予言者ホセヤは予言した。(九七)彼らは聞き従わないので、わが神はこれを捨てられる。彼らはもろもろの国民のうちに、さすらいの人となる。「そして、彼らはそのようになった。申命記二八38には、こう書いてある。「あなたがたが主があなたを追いやるれるもろもろの民の中で驚きとなり、ことわざとなり、笑い草となるであらう。」

う。」そして、彼らはそのようになった。「きかないユダヤ人」というのが、ばかりする時の一般的なことである。

しかし、ユダヤ人がバレスチナに帰還するのを予言された。そして、このことが、私たちの目の前で起った。彼らにきいた聖書の民は、再び、その祖国を持っていた。

聖書は再び、ユダヤ人は神によつて選ばれた特別の民であると言っている。そして、夷夷は彼らにそれとおりである。

ほかの民族の記録は伝説や神話に包まれている。ロシアの先祖はただであるかと言ふことのできる人はいないであらう。ドナツやトルコの先祖についてはどうであらうか。ユダヤの先祖はただだが尋ねるならば、そのユダヤ人もたまたまに、アブラハムと告げらるであらう。

ユダヤ人は、聖書の記録の信頼性に対するあかしとして独特である。各国民の間に散らされているといふことが独特である。同様に、彼の帰還は独特である。ユダヤ人は世界の人口のパーセント半に過ぎない。それなのに、彼の苦難は約合に大きい。彼の宗教、彼の祖国への帰還も同様である。彼は、彼の全歴史が予言されているといふこと、独特である。神はモーセをおして言った。「わたしはあなたがたを國々の間に散らし、つるぎを抜いて、あなたがたの地を荒れ果てらう。あなたがたの地は荒れ果て

と約束した。このことは、エルサレム滅亡後、ユダヤの離散約八〇〇年、キリスト以前約七〇〇年に生じていたイザヤによつて語られた。彼は、いかにして、ユダヤが散らされたのち、全世界から集められることを知ったのであらうか。

イスラエルに帰還したユダヤ人で、宗教的な人はごくまれである。彼らの大部分は聖書や予言者を全く知らない。彼らのことを先

に知っている予言者たちを信じる人の数はごく限られている。それにもかかわらず、彼らは帰還する言ふことが出来るかもしれない。ちようど渡り鳥が冬の期間、南に渡るのと同じである。——あるいは、他の言葉に置き換えれば、神の力が御自身の言葉の成就のため

に彼らを動かしている。ユダヤのバレスチナ帰還に關するもう一つの重要な予言の中で、彼らは二つの方法で帰るであらうと言われている。(エレミヤ一六16) 神は彼らを、すなはち、  
シブシを遣わすであらう。そして、シブシは、彼ら自身の民の故郷といふ所へ、多くのユダヤ人をすなはち、  
同じ所へ、また、神はユダヤ人を遣ひ出す。多くの、預言者を遣ひ出すと言っている。全世界の反ユダヤ主義、特に、ヒットラー支配下のそれは、ユダヤ人を狩り出して、彼らをバレスチナに向かわしめた。

ユダヤに關するもう一つの驚くべき予言は、イスラエルの民の残りの終りの時に、彼らがキリストに帰ると言っている。これもまた、予定のとおりに成就される。

私は、前のところでユダヤ人のアインシュタインは、ナザレのイエスの賛美者であつたと書いた。有名なユダヤの詩人、フランス・ウエルフェルは、有名なキリスト教の本、*ベルナデットの歌*を書いた。偉大なユダヤの小説家、ジョロム・アッシュはキリスト者になつて、有名なナザレのイエスといふ本を書いた。偉大なユダヤ人の哲学者マルチン・ハイパーは、イエスを、*わが偉大な兄弟*と呼んだ。ヘンリ・ペルダンは、彼のクリスチャンの信仰を告白した。偉大な物理学者、ネイルズ・ボーアはユダヤ人クリスチャンになつた。成國に最初にいった人、オウギニスト・ピツカドもそうだった。

目を転じて、共産主義者は予言をしたが、それはどこでどこで成就していないのを見よう。エニグダルスは、一八八八年十月十日、ソビエトに於て年経、カナダは十年以内アメリカに併合されるだつと予言した。一世紀経つた今でも、そのような徴候は多々ない。

フルシチョフ同志は、一九五八年に予言して、ロシアは五年以内にアメリカ合衆国の経済水準に追いつき、それを超えると言つた。現在、いまだに、ソビエト連邦はアメリカから小変を輸入している。神によつて特別に賦与された

人だけならば、未来を予言することはできない。私たちの無神論の友人は、共産主義國家は永遠に固い基すなで結ばれると言つた。ところが、今、私たちは、ソ連共産黨が中国、ユーゴスラビヤ、またルーマニヤと争つてゐるのを見る。信憑性のある予言は、神の言葉によつて裏打ちされた愛の靈の独占的特權である。

### 最後の時の預言

「無神論者」は次の言葉で予言を片付けている。「数多くの聖書の予言は、予言されたことが起こつたあとでなげ作られたものである。それぞれのテキストは、事件後、すなわち、それぞれの出来事の完成後に書き上げられたものである。」

さて、私たちの無神論の友人たちは、歴史上のイスラエルの勝利ニールンベルクのヒットラーのブラン・ハウスにシオニストの旗がひるがえつたこと、またユダヤ國家の復興なく、これらすべての二十世紀の出来事が、最近になつて聖書の中に書き加えられたものだと思ふことを、ほんとうに期待しているのだから、キリスト以前の目付を持つ死海写本は、予言の大きな時代をあかししてはいないであらうか。新約聖書は、元來は大いなる熱で書かれたであらうといふ鰐淵ペテロの予言を含んでいないであらうか。これは、核戦争を予言したものではないであらうか。

世界戦争の可能性は、三千年前にはなかった。大陸間の交渉は極く原始的な規模のものを除いてはなかったからである。

しかし、キリスト前約六〇〇年に生きたエミヤは、世界戦争を予言した。彼は、アメリカやオーストラリヤ、日本が存在すると

は知らなかったが、「全地の民の剣……聖が國民から國民に及び……殺される者が地の果てから果てにまぎれあつた。」と言つた。(エレミヤ二五27-33)その予言は二千年前達成した。いく干万という人々が日本からロシアへフランスへ広がつていった戦争で殺された。その戦争で、アメリカ人や、中国人や、ドイツ人や、ユダヤ人が死んだ。そして、これらのことは、次の世界の大災害の即である。

イエスは再びの目について語つた。「その後、世の初めから今日まで、そしてこれからもいふやうな大患難があるであらう。」そしてこのことおりになつてゐる。人類の歴史において、ナチのガスを焚でなされたような患難は例のないことであつた。また、スターリンや毛沢東による大屠殺も同じである。

キリストが、「これらの日は近づいてゐる。その日にはたれも救われる者がないであらう」と語つた時は、すべての肉なる者のいのちをおびやかすような破壊手段は存在しなかつた。人々は、弓や槍を持つてゐた。だれも、人類を全滅させることができなかった。今は、全世界を一度に破壊することのできる兵器が作られてゐる。

しかし、なぜ、そのやうなことで予言されているのだからか。共産主義自体、予言の成就である。それは、聖書に予言された大いなる反キリストのやうである。「それは、聖徒たちと戦争をして彼らに勝利するが彼に野されたすべての血、諸國、國民を支配する權威を彼は与えられた。」

ほかの予言者は、共産主義のものとされる勢力のことを書いてゐる。彼は、彼らは地獄のやうに

## 聖書はくり返しユダヤ人は神によつて選ばれた特別の民であると言っている。そして事実彼らはそのとおりでである。

# 無神論の共産主義は幸福になるための秘密を知らない

彼らの心を拡大し、死の恐怖をなくし、すべての国民を彼ら自身のもとに集めて、すべての国民を彼ら自身にひきまわらせるまで満足するところがないと言っている。

私はクリスチャンは、これらの野望が実現するものであることを知っている。スターリンは、彼の悪意を十億の人々に押しつけて天罰を呼ぶのを待たない。しあわせになったか、彼の妻は自殺した。彼は、彼自身の家族を殺戮した。彼は、彼自身にも毒を灌ぎ、いなかた。彼の心も身もがな悶絶にさへなされた。彼の周囲には、彼が犯罪人という汚名を背せられて死ぬのを待ったフルシチョフは、スターリンは、かつて、「わたしは自分自身をさへも信算しない」と言ったと言っている。

ここに、重い病気があったりりの金持ちの語がある。彼は、たれかしあわせな人の上衣を着ればなおと言われた。そして、彼は奴隷に命じて、しあわせな人を探しに行かせた。そして、どんなに高くてもよから彼の上衣を買ってくるといふ言った。しかし、奴隷はしあわせな人を見つけたことができなかった。すべての人が、他人のしあわせをうらやまっていた。また、彼が持つてくるよりもっと多くのしあわせを望んでいた。また、たててい進し得ないのののの

ため彼らは、あちこちと探しまわったあげく、彼らはとうとう、一米もまともな探のきで、山に会った。彼は、あちこちに、歌をたながら、きつい労働を待っていた。彼は、彼に尋ねた。「しあわせか。」彼の答えは「何の不足もない。」だった。そして、彼は、きつい上衣を賣り出して、たてさのお金を出した。しかし、残さないうち、彼はまたたてさであった。しあわせは、彼を苦しめることにあるのではなく、神にいつたなることである。私たちが共産主義の友人たちは、この秘密を知らない。それ故、彼らは巨大な野望を持っているが、けっして満足することがない。彼らは、達成できず、苦悶にさいなまれている。アからはいつも進んでいっているのである。

「このことは、また、伝道者ヨハネがこれを書いた時には理解しがたいことと思われたにちがいない。スペインや、北アフリカにいる人が、どのようにして、イエスがオリブ山から昇天するのを見るのができたのだろうか。そして、どのようにして、彼らは再び同じように彼が天からくだったのを見るのができるのだろうか。」

さよう。テレビジョンが聖書の予言の真実を証明している。全世界が、人々がそこにいたように、オリンピックの試合を見た。全世界は、イエスの再臨を見るだろう。

そして、その後、イエスの名の前にすべてのひきがひきまき、天上のもの、地上のもの、地下のもの、そしてあらゆる舌がキリストは主であると告白して、父なる神の栄光を稱するであろう。

イエスの地上再臨の後に、すべての権威がイエス・キリストの手に渡されて、祝福の日が来るだろう。そして、彼の支配が完全にのききたり、私たちのあわれな星から、その罪と、その悲しみが全部拭い去られるであろう。

その時が来る前に、私たちは、まず、恐ろしい破局を通過しなければならぬ。災いが近づいてくるという兆しがあるのに、多くの平和会議が開催され、軍艦の話し合いがなされることも、聖書に預言されているところである。「人々が『平和だ。完全だ。』と言っているそのまなとき、突如として滅びが彼らに襲いかかる。ちやうど狂瀾に華みの苦しみが行むようなもので、それをはがれることとは決してできない。」「(マサロニク五三)

使徒パウロがこの予言を書いた時は、人々は世界を、聖に覆滅する手段を持っていなかった。それは、剣や槍にはもたないことである。今では、人々は核兵器を持っている。

予言は、この時代に、非常に重要になっている。イエスは予言で、異邦の時代が訪れるまで、異邦人がエルサレムを支配するだろうと言った。一九六七年にユダヤがエルサレムとパレスチナの全土を支配したという事は、異邦人の時―すなわち、異邦人(非ユダヤ人)がキリストの教会に参加して、すべてが教えられる時が近づいているという最初のしるしである。ちやうどこの時期に、無神論が「予言の有効性と存在に對して疑いをはらまう」として、この予言は、聖書のたくらみである。

そのたくらみにおいて、この本は、それ自身、聖書の予言の驚異的な成就である。「十字架の言葉は、滅び行く者には愚かである……。」

私たちの無神論の敵たちは、しばしば、彼らの問題を解決して、正教会をおとす。ときどき、彼らが静かに折りを待っている時、その場所の神聖さに圧倒されることがある。

そこで、彼らはロシアの古い賛美歌、処女マリヤ賛歌を聞く。「ハイル、マリヤ。めぐみなり。」

神は存在する。私たちは神との交わりを持つことができる。神は予言者たちをおして、また、御子イエス・キリストをおして御自身を顕わされた。

自然は美しさのようである。そこにはバナナあり、トマトあり、小麦がある。しかし、料理のない饗宴はあり得ない。同じように、創造主のない世界はあり得ない。これこそ、神の存在のための最善の議論である。

しかし、私たちの敵たちは、ほかの質問をもつて答える権利を有する。もしすべてのものが原因を持つていなければならず、あなたが原因を神と叫ぶならば、神もまた原因を持つていなければならぬ。だが彼が創造したのか。このような質問は質問である。さて、答えを避けるのはいいが、彼が創造したのか。その質問は理にかなったものか。それ自身、子供の時、同じ質問をした。すべての物質は絶えず運動している。それは一箇先のものと全く同じではない。そこには、常に、変化を作り出した原因がある。物質の運動は時間によって量られる。時間の中で、物質のある状態が結果を生み出し、それが今度は新しい変化の原因となる。物質は最初の原因なしには考えられない。

しかし、時間の中の存在が存在の唯一の形態ではない。そこには時間のないものもまた存在する。そこでは、先のものなければ後のものもない。原因もなければ結果もない。これは神の領域である。神はすべてのものを創造した。神は自己存在の領域に属する。だれも神を創造しなかった。ところが最初か、にわたりか

## 誰が神を造ったか

か。これは古くからの疑問である。神というなら、たれがそれを造ったのか。にわたりか、もしそれがどこから来たのか。もしあなたが、最初の質問が次の三つの仮説を持つていかに気がつかないならば、結論に到達することなしに、なせなく、この神論法を議論することができ。①にわたりか存在する。②神が存在する。③最初、と、最後、がある。

最初、と、最後、は、私たちの思考の範疇に、私たちの感覚の性のための形式、絶える運動の中にある物質の動的な場面を私たちが理解する手段である。しかし、時間は、それが計られる運動から分離して存在しない。時間は具体的な存在、物体と現象から独立した存在ではない。これはアインシュタインの相対性理論の初歩である。運動のエネルギーが運動を運び出し、時間の観念を生み出す。潜在エネルギーの巨大な領域についてはちやうど、それは休眠している。潜在エネルギーだけの世界を想像してみよ。そこには運動というものは多く存在しないだろう。それは時間のない宇宙である。無時間、また、聖霊の分野、神の領域である。私たちは彼を永遠と呼ぶ。永遠とは終わりのない時間ではなくて、無時間である。

上述の意味を例証してみよう。一千九百年のなにかある。惑星に、私たちよりもっと進んだ動物がいて、彼らは私たちの地球だけではなくて、住民の様々も見る。これが動物が、今日、ベツレヘムを見る。彼らは何を

全世界はイエスがイスラエルのオリブ山から昇天したと同じ有様で彼が天から降ってくるのを見るだろう。

このような動物が三、五百年かたの感懐にいと、限定する。彼らは、パレスチナの国境に向かつて進む、千丁せに準いられたイスラエルの子たちを見るなら、彼らは、救い主が生まれるという知らせを聞いておどろき上がるイスラエルの人たちを見るだろう。彼らにとって、イエスの誕生は未来の出来事である。

一つの同じ出来事が、地球から見るならば過去であり、ある星から見るならば現在であり、他の星から見るならば未来の出来事である。これについては、三つの星で起こっていることを同時に理解し、すべての人の心を説くことができないとはいかなることであろうか。そこには、過去も、現在も、未来もない。

「にわとりが先か、卵が先か」という疑問は解決される。先も後もない。この問題は、過去、あるいは現在、原因、あるいは結果のない領域では意味を持たない。「神を創造したのは誰か」という問題は提出することができない。先はない。

私たちの「現在」は、原子の出来事によって何ら価値がない

それは、動かしに難い状態にあり、  
場合により短い。前者にとって、  
時間は、より短い。時間が、彼に  
とって、より短いだけでなく、汽  
車の中にあるすべてのもの、遅れ  
る彼の時計にとっても、より短  
い。

それと近くなると、光の速度で地球を離れる。宇宙飛行士の体内の運動も起こるだろう。同じことが、宇宙飛行士の体内の運動も起こるだろう。それでも、宇宙飛行士自身は、何も変ったことはないと思っていようかも知れない。

身の時計で計った山免後二年、  
たちのカレンダーでは三百年後  
その人は帰還することになる  
う。その宇宙飛行士が三十だ  
た山免の目に生まれた彼の娘の  
孫は、彼自身は三十三才のに  
百才になっているだろう。

このようなロケットは、たわ  
のないおとぎ話ではない。こ  
の運送など、もの数ではない

れが観察した出来事から成っているかのように、現実を生きる。しかし、時間の概念を當に当てはめることは、核物理学にそれを当てはめるのと同じく愚かなことである。

相対性原理によれば、光速で度はずべての時計が止まる。それ故聖書において、神が「光」と呼ばれ、クリスチャンが「世の光」と言われるのは、理にかなう。

「はいないだろうか。」

私は、死に對するクリスチャンの勝利について知らなかった。

ソビエトのクリスチャン、タラントフは、信仰のために獄中で死んだ。彼の長男が信仰の戦いを引き続いた。彼もまた獄中で死んだ。次男が戦いに立ち上がった。今また、彼も獄死した。彼らは死を恐れなかった。

クリフ・ニッソンは、彼の信仰の華  
いのために、ソビエトで銃殺され  
た。彼の娘アイダは、父の運命に  
ひるまず、父の後を継いだ。彼女  
はまた若い。彼女はキリストに対  
する信仰を告白をしたために、こ  
れまで四度投獄された。

無神論者にとって、死は、目の  
前におどまがっているデモクレス  
の剣のよなものだ。まもなく、

死は、それが何たるかを知っている者には恐れを抱かせない。

イエスは言った。「生まれてわたしを信じる者はだれでも、この言葉で死ぬことはない。彼は、この言葉で、彼を信じた者の墓のそばで語った。イエスは、正しく証明し

無時間は神の領域である。私たちは彼を永遠と呼ぶ。永遠とは終わりのない時間ではなくて無時間である。



る。無限の時間というのは、期間の否定である。無限の時間は存在しない。永遠は無時間である。

私たちは、夢の生活の可能性の中に、このことをわずかに見ることができ、その中で、心の働きは、ときどき、非常な速さで成し遂げられる。通常は長い時間を要する行為の連続が、夢の間の瞬間に、私たちの心を通過する。空間の関係もなくなる。私たちは遠く距離を瞬間に横切ることができ、私たちは夢の中では、空間と時間によって束縛されることがない。そして、夢の生活を深く考えることによって、私たちは、私たちが目ざめている時に私たちがとりこにする空間と時間の壁が、私たちが、現実と誤り慣れている限られた領域を超えた生命のもう一つの性質を、私たちが認識していることに気がつく。

人間の肉体は、それが完全に調子になるに、そんなにたくさんのもを必要としない。食物、着物の住居、休息、ある年代には異性の伴侶、そして、資本家や、ソビエトの上層階級はこれらのものをすべて十分に持っているのに、ときどき、憂鬱になり、不満の心を抱くのはなぜだろうか。信仰のために戦っている人々は、肌を寒さに震え、顔に汗が流れ、長い年月、彼の愛する者たちと引き離されているのに、喜びでいっぱいになることができないのはなぜだろうか。肉体がすべてのよいものを持つているのに、苦しみを通過しながら喜びがそこであるという不思議な実体は何だろうか。それは肉体以上の別のものである。それは魂である。

それは、私たちの地上の生活の間、肉体から独立しているが、それと共存していることを示す。それは肉体から独立しているのだから、自殺を決断することができる。魂

は、心理上の理由から、それ自身の肉体を殺す決心をすることができ、肉の死は、この強固な意志を持った、独立した実体の死を同時に意味すると信じるべき理由はない。

聖書の列王記下(二五五)に、奇妙な表現がある。そこで、ソロモン王が王の宮のために作ったいろいろなものを数えあげている。その一覧表は次の言葉で結んである。「これらすべての器具の青銅は重さがなかった。」(英訳)

青銅に重さがなかったのだろうか。青銅に重さがある。私たちは空間の物体を考へる時だけ、重さを考へる。空間にある青銅や、羽毛にはそれそれ重さがある。概念化された青銅には重さがない。スロア哲学は、物体の本質とその出来事とを分けて考えたことで正しかった。パンの本質は、それが食物のために供給される粉から作られた物体であるということである。この本質は、重さを持たない。パンはさまざまな出来事を持つことができない。それは、まさにパンであったり、小麦パンであったり、新鮮な、あるいは古いパンであったり、小さい、あるいは大きいパンのかたまりであったりすることができ、重さは、それによって変化するのである。重量、大きなものは、出来事によって定められる。本質は、これらをも持たない。パンは私たちの魂においては概念である。そこではそれは重さがない。それが空間の形態を取るまで無重量である。同じく、青銅は、ある一定の大きさの形を持たない限り、無重量である。

ソロモン王は聖的な宮を造ったのである。主の栄光のために、彼の心の中に造ったものを持ち去ることができないパビロンの兵士は、だれひとりいなかったのである。一九六八年九月一日、ソビエト

連邦で、一つの法律が施行された。それは、もしも両親が子供たちにキリスト教信仰を教えるならば、子供たちは両親のもとから取り上げられ、無神論の寄宿学校に收容されるといものである。クリスチャンの両親たちはこの圧迫に耐えている。スロバキアから三人の子供が取り上げられた。マロゼムロフ家から七人が取り上げられた。だが、聖的な考えをもった人たちが子供たちを引き離すことができようか。

子供、という実在がある。そして出来事がある。彼らは変化して、私の子供は胎児であった。初めに、それは動物のものと非常によく似ていた。それから、赤ん坊になり、それから、人形遊びをする少女になる。今、彼女は学校に行っている。私は子供を抱くことができる。それは遠く離れていることもある。それは従順な子供でもあるし、あるいは言うことを聞かない子供であったりもよい。出来事は変化し得る。母親の関係、実在の領域に属する子供。私たちは出来事の世界で、共産主義者が子供たちに何をすることを恐れない。母親の関係、決して変化しない子供。

同じことが、生命にも適用される。死によって滅ぼされる生命があるだろうか。私は豊かな生活をした。また、貧しい生活をした。幸せな生活をした。また悲しい生活をした。自由な生活をした。また囚人の生活をした。健康な生活をした。また病気の生活をした。そして私が、生命の形態の一つをもって自らを定義するならば、生命の特定の形態が終わる時、私の生命は終わることになる。ある人にとっては、それはもうやせいやがてきかなる時、生命の価値を失う。しかし、私はクリスチャンは実在において生きている。

イェスは言う。「わたしは道であり、真理であり、いのちである。」(英語のde道)「は、イェスが話した言葉である。ヘルムで使えない。それは、ちょうどロシヤ語と同じである。彼は言った。「私—道、真理、生命」彼は、抽象的概念で自己定義している。自然は、かしの木、松、りんごの木などだけを知っている。「木」は、私の心の中に形成された一つの抽象である。あなたは世界中の木をどこどこで破壊することができ、概念の「木」は、このような脅威によって害われることがない。

自然には、ギリコリエフとか、イワフとか、ガラシエフとか、ロシヤ人、ウクレイナ人、アメリカ人、貧乏人、金持ち、女、男など、実際の人間だけが在る。実際には、自分中心の生活が、それとも犠牲的な生活がある。活動的な生活があるかと思えば、沈黙的な生活もある。

イェスは、生命の一つの種類で自己定義せず。「生命」という抽象的概念をもって、あらゆる可能性を含んでいる生命をもって自己定義している。彼は、私たちに、同じようにせよと教えている。私は、六十五年前に生まれて、いすれは死んで行く私自身の名前が私に生命を定義しない。私は生命である。それは、いつも神の中に存在してきたものであり、アダムとエバによって人間の生命の形態をとったものであり、決して終わることのない生命である。神の子としての私の生命は、滅びることがないものである。

私の肉体は、私の「私」ではない。ある意味で、私はたかさんの肉体を持っている。胎児のそれ、赤ん坊のそれ、幼児のそれ、青年のそれである。聖ペテロは書いて「わたしはこの舞臺の中に

いる。」彼は、ある場面における肉体を考えている。私はいくつもの舞臺に生きてきた。しかし、私と、私がしほの問をその中で生活した居るには、明確な差がある。イェスは「七セマネの園で」言っている。「わたしの魂は苦しい。わたしの魂は苦しい。わたしは注ぎこみ、彼は魂について語っている。そして、魂を観察し、それが悲しいことを認定する魂の持主について語っている。私は私の魂のある状態と同一ではない。それは、私が私の肉体のある状態と同一でないのと同様である。私は、肉体において苦しむが、さもなくば、魂において苦しむ。私は、私が苦しむのを知ること十分知っている。私が「実際の私」と考へるものに対して起るすべてのことを観察する私の中で何が最終的な実体であるのか。彼は「私は今健康である。あるいは、私は今死んでいる。ことを知っている。これらのすべての変化を経験し、観察しているのは誰であるか。彼自身は変化しない。彼は一つの生命ではなくて、生命そのものである。内にいます神の子、決して、死ぬことのないお方である。

イェスは言った。「私は真理である。」真理は消滅することができないだろうか。私が、彼のようには、私を破壊することができない人があるだろうか。2274は、私が囚人の身であつと、自由の身であつと、生きていようと死んでいようと、自問の理である。私は真理と一つになる。それは外面の出来事と関係ない。

もしも私がキリストと一つになるならば、もしも私が「わたしは道であり、真理であり、いのちで

ある」という言葉を私自身のために取るならば、私は永遠に生きるものとなるであろう。生命の階段の最も下等なものは単細胞生物である。それらは分裂によって増える。一つが二つになり、二つが四つになる。そして、今では無数のアメーバがいる。しかし、最初のアメーバは死んだのだろうか。それは存在の形態を変えたのである。一つの膜の中に閉じ込められているかわりに、無限に増殖したのである。毎日、多くのアメーバが死ぬ。しかし、それらは、みな、最初のアメーバの一部に過ぎない。最初のアメーバは、このようにして、それらの中に生きていく。無死が、生物の段階の最初のところで、すでに表われている。それなのに、私たちは、最高生物が、単に、地上を過ぎ去ると考へる「かげろふ」のようだろうか。

私たちは、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵やミケランジェロの彫刻を、細心の注意を払って大事に保存している。それならば、創造主は、これらの作品を製作した芸術家たちを、少くとも同じ注意深さで保存していないといえるだろうか。

永遠の生命は存在する。そして毎日の改めるヒットラーは、彼が殺した無実の子供たちと同じ場所へ、快適に過すことはできない。正しい者は天国が、そして不義なる者は地獄がなければならぬ。

無神論者は、彼らが決して死なない者のように、眼をなして生きている。彼らが、無神論の教育によって多くの人々を間違えて指導したことを、最後の瞬間に、自ら悔い改めないとはいひ切れないではないだろうか。

キリスト教の偉大な敵であった人たちの最後の言葉から、彼らは学ばなければならない。トレラン

ド。「わたしは、呪われた者の苦しみを感じている」「ミシエウ。「永遠のことを考へなくとも済む罪業をなさい。」「ポルデル。「わたしは神と人に捨てられる。わたしは地獄に行かろう。お、キリストよ。お、イエス・キリストよ。」「フランスの王、チャールズ九世。「血ぬられた人、悪魔の会衆に、私は参加した。私は失われる。私にはそのことが分かる。」「トム・ペイン。「わたしは世俗を持っているならば、理性の時代」(反キリスト教著作)が出版されなかつたならば、わたしは世俗を返してしまいたい。キリストよ。助けたまえ。みさきにあらめたまえ。ひり取り残されるのは地獄だ。」

私は、無神論者、科学者の著者がたが言いたいと思つた。水蓮の生命はかきするのではなくて、少くとも、それを説明したいと思つた。彼らが笑うのは自由だと思つた。彼らが出版を拒否しているからである。

最も困難な手術を計画する医者の国際学術会議があった。ドイツ人が、それは腹手術だと言った。フランス人は、心臓手術だと言った。私たちのソビエト代表は、扁桃腺手術だと言った。みんな大笑いした。しかし、彼は言った。

「あなたがたは私の主張をばかっていると考えている。あなたがたは忘れていたが、革命以後、われわれは頭顱骨を空けて、脳から扁桃腺を取り出さなければならなくなつたのである。なぜなら、われわれは口を開くことを禁じられているからだ。」私は、共産党政府の許可なしに口を開いた。クリスチャンが口を開くと、彼らが正しいことが分かる。





のひとひつが他の二万五千の  
神様と連絡できる。可能な連合の  
数は、二万五千の力に対して、百  
億とおりの順序があり、その数は  
私たちの知っている宇宙にある原  
子の数よりも、もっと多い。

さて考えてみよう。無神論者  
のひとりとしては、体内に千マイ  
ルの長さの血管を持っています。脳  
や器官に血液を供給している。皆  
からの正しい宗教を打ち負かすこ  
とは容易な仕事ではない私たちの  
敵たちは、そのことに汗を流して  
いる。無神論の著者ひとりとして  
は、体の表面に百五十万の汗腺を  
持っている。彼は宗教反対の論文  
を書きながら呼吸している。彼は  
呼吸できるのは、七千万個の細胞  
から成る肺を持っているからであ  
る。創生反対の論文を書きながら  
、彼の腕は正確に脈を打って  
いる。その脈拍は、生涯中になん  
千なん回を数える。実際、平均  
寿命で、それは、約六十万トンの  
血液を送り出している。私の敵た  
ちは、知者とかかわりなく、そ  
れ自身で存在するこのような巨大  
な重量を保持する記重機を考へ  
ることができぬだろうか。

無神論の傑作の著者たちは、こ  
のことに限って、神様エネルギー  
の莫大な量を消費している。さて  
著者たちのひとりとしての神経組  
織は神経細胞三兆から成っており  
その外皮には九十億の細胞がある。  
さらに、彼は、健康でなければ  
本を書くことができない。彼の  
健康は、血管中の血液によっ  
て保障されている。彼は、また  
百万の四重×一三〇個の赤血球を  
持っている。

疑いもなく、彼は、ときどき  
執筆前に思考を刺激するために、  
散歩をする。雨が降ってきた。し  
かし、鼻孔には水滴はいらな

い。なぜなら、鼻孔の先が下向き  
になっているからである。だが  
このような些細な点まで配慮した  
のだろうか。

ああ、これらの学者たちが、伝  
道者三へんとして知られる論議は  
どの知識を保持しているのだろうか！  
彼は心臓の神経について考えた。  
それは規則正しく鼓動を打ち、生  
命の継続を知らせる。彼は、  
彼の最後の足であるイースの胸に  
もたれて、彼の規則正しい心臓の  
鼓動を聞いた。そして、そのこと  
で、そこに神がいまそこを再臨  
聖した。ちよと、時計の秒を刻  
む音を聞く者が、時計の製作者が  
いることを思ふのに似ている。

私は、私の存在のすべてをかけ  
て希望する。私たちの敵たちは、  
そのことに気が付くこと、――  
神と宇宙の真理が最終的に明らか  
にされる地獄においては――  
今すぐやめて――そうなるて  
は手遅れだ！  
サイバネティックスのロボット  
よりもはるかに複雑で、彼ら自身  
の肉の機械を考へることから  
切り離して、長い吊り橋を貫通す  
ることにして、くもが、庭の小  
道をこちら側から向こう側まで結  
ぶのに、まず、最初の吊り橋を考  
える。しかし、だが、私たちが  
驚かせるような技術の知識をも  
に与えたのだろうか。そのような  
素晴らしい能力のある者をも  
与えたのはたれだろうか。レオナ  
ルド・ダ・ビンチからアイト兄弟  
まで、最初の飛行機を作った人た  
ちは尚か学んだ。

しかし、私の敵たちは、私が彼  
らを理解していると思っているか  
もしれない。彼らは科学の名で語  
る。科学は真理に基づいている。  
それなのに、彼らは一つの大きな  
真理の条件を見逃している。そ  
れは、自由で、公正な議論であ  
る。

ソビエトのアカデミー会員が、  
アインシュタインやプランクがそ  
うだったように、宗教的な結論に  
到達したと仮定しよう。彼らは、  
彼らの確信するところを表明する  
著書を出版することができたら  
うか。確かに、彼らは出来るかも  
しれない――しかし、秘密にしか  
できない。しかも、刑務所行き  
の危険を冒してである。私たちは、  
このような条件のもとで書く著者  
たちから多くのものを期待できな  
い。すべての人が、英雄や潜在的  
殉教者ではない。

共産主義国の支配者たちは、客  
観的真理に対してよりも、彼ら自  
身の教条に重きを置いている。そ  
れ故、唯一合法的な試験、自由な  
討論のそれに服従する。このよう  
にして、彼らは、科学の名によっ  
て論議する権利から彼らの学者た  
ちを締め出している。

無神論者が保有している出版の  
独出権を悪用して、宗教が何も知  
言しなかったことを宗教のせい  
にするような状態、科学の名によ  
って語ることのできる人がたれか  
いるのだろうか。  
次に、いくつかの例をあげよう。  
「無神論学書」から無作為  
に取り出したものは、神は、全部の  
星、太陽、そして月を創造の第四  
日に創造した。ここで、私の敵  
たちは、全部の、という言葉を  
簡単に付け加えている。この一つ  
の言葉は聖書の文意にはない。聖  
書はここをたけを教えている。  
すなわち、星は神によって創造さ  
れたということである。それは、  
「無神論学書」が言うように、新  
しい星の出現を締め出していない  
。神は、御自身が立ち上げた法  
則に従ってこの宇宙を創造した。  
それは、他の領域に、新しい人間  
新しい植物、新しい思想の出現の  
可能性を許す法則である。

「無神論学書」からのもう一つ  
の質問、「宗教の説教者は、生命  
はわれわれの星（地球）の上だ  
け神によって創られたというが、  
科学は、生命の宇宙の中に、非常  
に広範に分布していることを示  
している。」

一つ、宗教の説教者が、生命は  
われわれの星にだけ存在すると  
言ったのだろうか。一つ、科学は第  
二の命題を述べたのだろうか。  
自然主義が、神によって造られた  
世界は不変であるという定説がな  
らば根拠のないものであることを  
明瞭に示している。神によって造  
られた世界は不変である。ある  
は、人間は自然を征服することが  
できないと主張する宗教の定説に  
は何を言うのだろうか。聖書は、  
神がアダムをエデンの園に置いて  
管理させ、そこで働かせるよう  
にしたという物語りで始まって  
いる。それは、自然を征服するこ  
とである。アベルは、すでに動物  
を飼育する羊飼いであったし、カ  
インは農業をした。人間は自然に  
影響を与え、それを変えるように  
造られたのである。

彼らの本の一部に、あがないの  
教義の破綻、という副題の付いた  
論文がある。その中で、これらの  
無神論者たちは次のように書いて  
いる。「聖書者たちがわれわれを  
説き伏せようとしているのは、神  
は存在であり、神の言葉は、ある  
一定の所に受肉していると同時に  
、生物の存在するこんな世界に  
も、肉をもつて存在している、  
というところである。そうするとキ  
リストは無限の数の星の上に、同  
時に生まれて、苦しみを受けて  
死ななければならなかったこと  
なる。」そして、私の敵たちが  
言った、そのようなばかげたこと  
を言った聖職者がひとりでもある  
なら、その人の名前をあげてみる

がよい。第一に、科学は、なん千  
なん億という星に、知的な生物が  
存在することをまだ確認していな  
い。第二に、教会は、キリストは  
多くの星の上で死んだとは、一度  
も言ったことがない。

しかし、私たちはこのことをあ  
らざる言わねばならない。なぜなら  
それからアベシムとして、無神論  
の著者たちは、彼らが前に述べ  
上げた二つを正真正正反対のこ  
とを言っているからである。そ  
で、彼らは、神学者よろしく、  
（これも彼らをそのように認め  
はしないが）地球は人類が罪を犯  
した唯一の場所であると言ってい  
る。それ故に、あがないが必要  
だったのであり、それ故にそ  
他の星の他の生物は、信託にと  
まつたのである。でなければなら  
なかつた。このような問題  
に、神学者が教義上の答えを出し  
たことは、これまで一度もない！  
笑いながら、私は、無神論学書  
から、もう一つ引用しよう。  
「宗教は、われわれの星の地球上  
の自然の進化だけを認める。なぜ  
なら、それは神から来るものであ  
るが、しかし、地球上の進化の過  
程における人間の創造的介入は、  
全く排除されているからである。」  
彼らはこのことによって、宗教は  
神の目的のための水路を造ることを認  
めないと断言している。いつ  
か、いつ、宗教が水路の建設に  
反対の声明を出したのだろうか。そ  
れはどんな宗教だろうか。

ようい。今度は、私の敵たち  
が引用する番である。彼らは、約  
二〇〇年前のアストラムカ州の統  
治者であったコリフシン王子を引  
き合いに出す。彼は、二つの川を  
結ぶ水路の建設に反対した。しか  
し、私は、州の知事、宗教の代  
表者としていちいち記憶していな  
い。

他の引用。「宗教家たちは、な  
ん千年もの間、神の許しなしに入  
間が空を飛ぶことは許されるべき  
ことではなく、神への冒瀆である  
と主張し、そのような飛行を懲罰  
しようとした勇敢な人々を、人  
間の宇宙飛行士について話をな  
いようにと幾度にも迫害し、彼らを根  
絶しようとした。そして、現在で  
は、これらの宗教原理はこころ  
くつがえされた。」

私は謙虚に聞くよう努めている  
が、しかし、このようなことは、  
明らかにうそであると言わざるを  
得ない。飛行を試み、そのため  
に捕られた人々の名をあげるこ  
とができる人はひとりもない。アメ  
リカ宇宙飛行士は捕られるたろ  
うか。最初のアメリカ宇宙飛行  
士は神への冒瀆を告白し、それに  
縛る宇宙飛行士たちは、月のまわ  
りの軌道に乗っている時、聖書を  
朗読した。彼らは捕縛された。彼ら  
は虐待された。彼らのひとりだに  
殺されなかった。どうして、学者  
たちはこのようなことを書くこ  
とができるのだろうか。

私は、モスクワ科学アカデミー  
によって出版された一冊の本から  
これらの奇妙な文章を続けて引用  
してみよう。「宗教の伝道者ある  
者は、至高者（神）は、宇宙の深  
みに住いを移したと言った。そ  
れだから、宇宙ロケットや人工  
衛星は天国に到達するのには不  
及はないと言った。どうして神は  
この場所に住いを移す必要があつた  
のだろうか。」「いつ、宗教の伝道  
者がこのようなばかげたことを言  
ったのだろうか。」

しかし、この無神論の著者たち  
は、いち早く自分たちの言ったこ  
とは忘れて、ほかの議論で私たち  
に戦いを挑む。「宗教家たちは、  
特別に、人は神、あるいは彼の霊  
的なしもべたちを見ることはでき

ない、なぜなら、それらは非物質  
であり、肉体を持っていない、そ  
して、霊の世界に所属するもので  
あって、物質の世界に所属するも  
のではないからと強調する。」「こ  
れは、まだましな言い方である。  
しかし、彼らは、神という虚的な  
存在は、月のように遠くに行つて  
だけ宇宙飛行士によって見出され  
るものではないという事実を受け  
入れていない。彼は書いてい  
る。「非物質も、また、人間の手  
の届く所にある。」あわれな唯物  
主義者たち。彼らは、ほんの数  
一先で、物質と運動以外に存在  
するものは何もないと断言した  
りである。今、彼らは、非物質が  
存在すること、それが人間の心  
に受け入れ易いものであることを  
認めている。それは真実である。  
（神）と彼ら自身の説を発見しよ  
うと思えば、分かる。

無神論学書に、あるもう一  
つの意味のない主張は、宗教は無  
知を正当化するということであ  
る。だが最初の大学をヨーロッパ  
で始めたのか、それはクリスチ  
ヤンではなかったか。修道院は、  
文化の最初の中心ではなかった  
か。ドイツ語や英語――その他の  
多くの言語が、聖書によって形づ  
くられたことを否定する人はいな  
いのではないか。

ようい。私の無神論の友人た  
ちは、どんなことも主張するこ  
とができる。彼らは独断を再現  
させ、彼らの敵たちはさるくつ  
をまき散らしている。

「無神論学書」のもう一つの  
主張、「宗教は出来事に無関心で  
あると言つて人々を非難する。」  
共産党の秘密警察は全く同じ意見  
を持っているわけではない。その  
出先機関は、クリスチャンは愛身  
ではない、ということをよく知つて

がすべての科学を受け入れなければならないというわけもない。なぜなら、科学にも多くの後退があるからである。

に属する。科学は、事物の物質的な局面についてのみ、私たちに告

賢明な読者をうならせざるに十分であらうから、そのような低次元で書かれた本にいちいち反論する必要があるかどうか、自問のことであろう。しかし、それでもそれは反論されなければならぬとい。というのは、この本は多数の言語にはん訳されて、莫大な量が配布されているからである。それは青年たちの心に影響を与える。それは、むちの力によって支配す

西、科学は宗教に反対を許さない。科学が反対の立場を取ることを許すのは、ある種の反宗教に対してだけである。

私が、舟、という言葉を出したとする、この言葉は、あなたがたの心に、それぞれ違うイメージを作り出すことができる。あなたは、目の前に、ノアの方舟や、太平洋を横断するボリネシアの原始的な舟や、アメリカに最初に到達したパイキングの船や、百年前の汽船や、あるいは、現代の豪華な大西洋運送船などを思い出すことができる。

私が、宗教、あるいは、神、と言つ時、同じように、この言葉は、それぞれ違つイメージを心に呼び起す。それぞれの時代のそれぞれの人が、理解力や、感覚、霊的洞察力に従つて、別々に神を理解した。彼らは、また、別々に、その啓示を説明した。

ある神の概念は後退している。そして、疑いもなく科学と矛盾している。しかし、そうかと言ってそれがすべての宗教に当てはまるわけではない。また同時に、宗教

がすべての科学を受け入れなければならないといういわれもない。なぜなら、科学にも多くの後退があるからである。

科学と宗教は二つの異なる分野に属する。科学は、事物の物質的な側面についてののみ、私たちに告

グスの異端に対して嚴重な弾圧を要求した。ルーテルがどうしてこのような弾圧を要求したのか謎のままである。ルーテルの著作の中に、このような言葉を探しても見つけることのできる人はいないのではないか。

「しかし、カルバンは偉大な宗教学者セルベタスを賛刑にしなかつた。私たちが敵たちはあゝぬ。それはのとおり。不幸にも、カルバンはセルベタスを賛刑にした。しかし、彼は彼の科学上の発見のため、に賛刑にされたという、無神論者、習書」の主張は、単的に言つて、真実でない。彼が死刑にされたのは、間違つた宗教の教義を教えたのからである。それは五百年前の出来事であつた。それは非常に残念

つことにいて、異論となさるだらう。科学はこの半分に過ぎない。残りの部分は、芸術であり、哲学であり、最後の部分は宗教である。

あなたは原形質の組織としてだけ生命を考へる時、それについてほとんど何も知らない。しかし、実は、シエクスピアから、ディッケンズから、ミケランジェロから、ラファエルから、世界中の偉大な宗教家から、神の代身であるイエス・キリストから、それに就いて学んで知っている。

血脈中にアドレナリンが急激になつてゐる。

敵たちがこのことについてやかか言つのは、おかしいのである。ひとりセルベタスだけでなく、な干干ん百万という人々が死刑を言い渡され、あるいは、共產党の強制収容所でなぶり殺された。彼自身の同志たちによつて後に否定された独裁者の教へではなく、ある政治信条を他人に語つたという理由で、それらの人たちは殺されたのである。

**四世紀**の終わりに、アレクサンドリアの図書館が、クリスチヤンの熱狂派によつて破壊された。

の抱懷を説明することは正しいだらうか。そして、これが、その瞬間に起るすべてを言い当てているという説明は正しいだらうか。それは非科学的である。それ故、生命と科学に帰することは正しくない。

『無神論学習書』の著者たちは事物の實際的側面に対する科学と宗教間の關係に関する神学的考察を除外している。言われるところによると、ルーテルは、コバルニ

という私たちの敵たちの主張も、うそである。もし彼らがそのようなことをしたのであれば、回教徒たちが七世紀になってそれを破壊したが、それができなかったと思われからである。

もう一つのこつけない嘘。『無神論学習書』がいうところによると、アメリカ合衆国や、イギリスや、オランダなど、このような国々では、天然痘が流行している、それは、聖職者や宗教家が宗教管轄区での予防接種に反対している

からという。これらの国のうちどこかで、天然痘が最初に流行したのはいつだったであろうか。確かに、アメリカ合衆国では予防接種は行われていない。それは疫病が完全に駆逐されてしまったからである。

科学は宗教を弁護する。  
地球は太陽から丁度よい距離の

であらう。カトリック教会の  
 指針は、ある種の本を讀むことを  
 禁止しているといふ期間がある。  
 カトリック教会は、第二バチカン  
 會議でこの指針を廃止した。私  
 たちは、いまに、共産主義國で  
 廃止になったのと同じでない。人  
 々は、パスカルオクやソルジェ  
 ニツィンの本を自由に讀みたい  
 と思つている——聖書やその註解  
 書とまじはるゝもの、少なく  
 とも、プラトシや、ニエトシや  
 とらにあって、そこに生命を司  
 能ならしめる丁度よい速さで軌道  
 を回転している。もしも私たちが  
 もう少し太陽に近かつたとするな  
 らば、私たちはその火によつて燃  
 えてしまふだろう。もしも私たち  
 がもう少し離れているとするなら  
 ば地球は冷えて、何も成長するこ  
 とができなくなるだろう。もしも  
 地球が太陽のまわりを回転しなけ  
 れば、季節の変化はないだろう。  
 たんぱく質は五つの主要元素の

ヘルツンの本には、それは明らかだ」と思っている。スターリンの本さえ禁書になっている。それらは書店に行っても買つことができない。調査のしようがない。機能の組織を造り出すということとは、今では、生物学の自明の理である。私たちは光や色を見るために目を持っている。私たちが耳を持っているのは、聞くための音があからであり、手があるのは持つべきものがあるからである。

「無神論者論書」の著者たちが科学と宗教についての神学的な発言をしても、調査のしようがない。結合である。炭素、窒素、硫黄、酸素、たんぱく質の分子一つ一つには、四万ないし五十万の原子がある。おおざっぱに言ううと、地球上に任意に散在している百の化学元素のうち、わずかこれら五つが、しかもきまった割合で、たんぱく質の分子をつくることができる。このようなことは、偶然起こることだろうか。偶々合わせられなければならないのは、物質の量と、偶然たんぱく質を獲得するために、この仕事を完結するために要する時間の長さとは、確率の法則から計算される。スイスの数学者チャール

眼があるのは、考えるべきことがあるからである。信するといふ、信仰を持つていふ不思議な能力を私たちが持つてゐるのは何のためであらうか。そこには、対応する実体がなければならぬ。私たちを取り囲むすべてのものが外部の実体と対応しているこの世界では信仰によって理解される。そこにはいふものなしに私たちがこの信仰の能力が備わっているのは、理にかなつてゐることをうか。私たちが信仰の能力を持つてゐる。

ス・キューイがこの計算をした。彼は言う。このようなことが偶然に起こる確率は、一対一〇の百六〇乗である。つまり、その意味は、物質が任意に混合される時、一〇の百六〇乗回に一回の割合でたんに物質の分子一つが逆り出されるということである。混合される物質は、知られてゐる全宇宙の物質よりも大きいはずである。このために必要な時間は、なんと、一〇の二千四〇〇乗億年にもなる。

J・I：「マテ、おれが言ふんだとこにせよと、非特に単純なたんばく賣の鎖の輪は、一〇の五四乗通りの組み合わせがある。偶然はこのような分子をつくることができな。偶然が住宅やビテナの骨組みをつくつたためしがない。そ

かへりて出来た鎖は、日曜日が爆発して完璧な辞書ができたと確率のものなのだ。」

しかし、私の議論は、すでに頑固な無神論者たちには何程にも立たない。彼らは、ネアルダルター／＼とそれに類する他の人間の質を、神と云々、ミラン

それは、どちらも、たんに物質の分子の二つ二つに比べれば非常に単純であるのに。

私が刑務所にいた時、どうもうたがが言い争っているのを聞いた。彼らはささくさく遊遊をしてた。ささいなことがあまりにもばしば六の目を出すので、他のどしほうたちは、腹くち、そのささいなには船がつめられていて、偶然が動かなくなっているのではないかと疑った。六の目がくり返しくり

てい。

聖書は非科学的な書き出しで始まっている。私たちの先祖は、動物世界から進化した非善に原始的な人間であった。聖書と科学の間には一致があるかどうかという疑問があるはずがないと、彼らは言う。

今から三〇〇〇年前の地球を巡

返し出るというところは、普通には起り得ないことである。單なる偶然が、現在の秩序ある宇宙を私たちに与えたとは思えない。ひとりの哲學者が、無神論の哲學者でさえ、任意な物質の発展の結果であるはずがない。單なる偶然は、無神論の思想家をつくり出すことはけつてないだろう。

一つのたんばは、黄分子がつくり出される運事が、一〇の百六〇乗になるということ、私はひとりの數學者がきき合ひに出た。私の無神論の敵なでたれか、一対一〇の百六〇乗の運事で与えたる

握して、考古學者がオーストラリア原住民が、あるいはニューギニアの石器時代生活していた人間の二つが三つの頭骨骨を発見したと仮定する。當時の人類學者は、われわれの時代には文明人はいないかゝつたと言ふだろう。しかし、現在目にロケットを打ち上げる人間がヒダミー族と二種に生存している。

アダムの精神の発達した子孫が、洞窟に住む人間と共存していなかつたと言ふならうか。

私は、科学と宗教の問題について、十分語り尽くしたと思う。

真理の名において發する權利を要する

聖書の著者たちは、とても宗教的な人々ではあつたけれども、けつして、疑いを表明することを羞しひかえることはしなかつた。あなただ、それらを、詩篇に、また、ヨブ記に見る。バプテスマの聖ヨハネさえ、獄にいた時に、イエスがメシヤであるかどうかと疑つた。イエス御自身は十字架の上

で叫んだ。「わが神、わが神、どうして私を見捨てられたのですか。」

無神論者のための手引書の著者たちは、すべてのことに独断的な言い方をする。彼らは疑うことが許されていない。彼らは、宗教に反対の論文を書くようにという共産党の至上命令を果たさなければならぬのである。

だれも、完全に宗教的な人はいない。宗教的な人間は、疑いを持っている。同様に、いつも無神論という人もいない。無神論者は信仰の動機を持っている。しかるに聖書の著者、例えば、ダレテやヨブは、神を讃へるような思想を持っているのに、私たちの無神論の敵たちは、いつも非常に確信に満ちている。彼らは一部分で全部と思っている。無神論者、そして、無神論者。これは、自然ではない。彼らは、彼らが考える全部を説明していない。

彼らは、ハイゼンベルグの有名な不確定性原理を聞いたことがないように見える。私の無神論の友人諸君、あなたがたの側には政治権力がある。しかし、私たちの側には科学的な真理がある。イエスは科学思想の創始者と考えられる。彼は言った。「行って、あなたがたが見たり聞いたりしたことをヨハネに告げよ。」「私たちは、私たちが知っていることを話す。そして、見たことを証する。」また「見よ。空の鳥……野のゆりが、どのようにして生長しているかを考へよ。」彼は正確な観察を教えている。クリスチャンは、彼が知っていること、聞いたり見たりしたことを話すように教えられる。科学は、これと同じ原理の上に立っている。

# 罪の贖い

無神論者習書、は、ほかのたくさんの方に言及している。しかし、この論文の長きに制限がある。これは冊子にして、共産党に秘密に送り出されなければならない。それで、あまり長く書くことはできない。

しかし、私は、私の敵に負い目がある。キリストは、私たちの、悪には善をもて報いるようにと教えた。彼は私たちの宗教を中傷してきた。喜ぶための無神論の本の著者たちは、ほかの罪を犯した人と同じように間違いないで教わねばならぬ。

私たちは、この怒り、罪の实体と共に生活している。私は私の罪を持っている。私の敵たちは彼らの罪を持っている。人道主義的なものであれ、無神論的なものであれ、あるいは宗教的なものであれ、どんな哲学も、あるいは、宗教家たちや、その反対に無神論者たちとどんな思案も、人間を罪から解放するために何の役にも立たない。このために、神は、力ある有効な業を行なっている。私の敵たちは、聖書から、罪から解放されて、神の子となり、永遠の生命の相続人となる方法を学ぶことができる。

聖パウロは書いて、「キリストは、聖書によれば、私たちの罪のために死んで……葬られ……三日のうちによみがえった。」(1コリント一五、4)

二千年前にパレスチナで死んだキリストが、どうして私の罪を負ったのだのか、また、その時に彼がなした犠牲によって、どうして私の罪が消滅したのかという二点について、完全に理解できる人はだれもない。しかし、それは、私たちが、電気のあるいは、重力のあるいは、私たちが自身の生理学的、心理学的過程の性質に、完全な説明を与えることができないのと同じである。私たちは、それから利益を得るために、罪の贖いについての完全な説明を必要としない。キリストが私たちの罪のために死んで、私たちの罪を負ったのだとしたら、私たちの罪は、もはや私たちに帰せられることはない。いつかを情しただけで十分である。

キリストは神の化身である。それだけではない、彼は自らへりくだって、私たちの罪の罰を、彼自身の苦しみの中で受けてくださった。聖ペテロは、そのことを次のように言っている。「あなたがたが先ず知らず犯した罪は、銀や金方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちるものにはならず、傷もなく朽ちない小羊のようなキリストの、尊い血によつたのです。」(1ペテロ一八)そして、天においては、キリストを賛美する歌がうたわれている。「あなた方は、ほめられて、その血により、あらゆる部族、言語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を主とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」(黙示録五、10)

キリストが彼の血によって、すべての国民を贖った時に、彼は、共産主義者と無神論者をも贖ったのである。

前にも言ったとおり、私たちは罪の贖いをすべて完全に理解することはできない。しかし、私たちは、その一部分を理解することができ、私たちが、キリストは神であること、すなわち、無限の価値と権威を持っている人であることを心に留めるならば、その時、(一)のよい言い方はジョックである。これを私は知っているが、しかし、それでも、あえて言う(のだが)キリストを殺害したことは、全人類を十字架にかけて殺したよりももっと悪い罪であった。あなたは、イザヤの言葉を熟読するならば、このことをもっとよく理解するだろう。神の前では、国々は、手おけの一しずく、はかりの上の一みのようにみなされる。(イザヤ四〇15)

非常に簡単な実例が、私たちが考えていることを示すだろう。私は結構である。それで、私は数多くの結核菌を薬で殺してきた。私はまた、ほかの多くの細菌や、あらゆる種類の昆虫を殺した。多くの動物が私の食物として殺されてきた。私はそれらのために自暴の念にかられることはない。しかし私の良心は、私が人に対してなした悪行については一瞬も躊躇せず私を責め立てる。それは、人間は昆虫よりも高度なものだからである。

——人は神の姿に似ている。同じように、神の化身であるキリストは、人間に過ぎない人間像という存在よりも、無限の高い価値のあるものである。それ故、彼の十字架の死は、全人類を、そのすべての罪から贖うのに十分であったのである。——ただし、彼が私たちのためになしてくださったことを信じるならば、という条件付きではあるが。彼の人格において、神は苦しめ、神は人々のために死んだ。彼は死ぬべき人間の姿をとったのは、彼にとつて最初のことであつた。なぜなら、神は不死だからである。

それ故、ペテロは再び書いて「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。」(1ペテロ三18)そして、聖ヨハネは書いて、「御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」(1ヨハネ一7)パウロの聖ヨハネは、イエスを指さして言った。「見よ。世の罪を取り除く神の子羊。」(ヨハネ一29)聖パウロは書いて、「キリストの血によって義とせられた私たちは、神の怒りから救われます。」(ローマ五9) 無神論者習書、のような冒険的な本は、なんと神の怒りに触れなければならぬことだろう。しかし、私たちは、この怒りから救われることができる。なぜなら、私たちは「イエス・キリスト」のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち、罪の赦しを受けているからである。(エペソ一7)

罪の贖いは、一部のクリスチャンたちによつて、二千年間熟考されてきた問題である。それは、いろいろな方法で説明されてきた。罪の贖いに関する多くの教義がある。それらのうち、どれを、私たちは選ぶべきだろうか。

リゼの聖テレサが、クリスチャンの徳の中で、もっとも実践したいと思うのはどれか、と尋ねられた時、「全部!」と答えた。罪の贖いの教義に関して、私は同じことを言いたい。それらは、みな、神を信じる、愛する魂たちの深い黙想の結果である。それらの一つでも無視する理由はない。

キリストが私たちの罪の代価として死んだという代価説は真実である。また、彼の態度や、彼の犠牲の美しさをとおして、私たちが新しく、敬虔に生きるように感化を与えるためにキリストは死んだ

という道徳感化説も真実である。神は自由に罪びとを赦すことができるが、しかし、どんな罪でも罰を受けなければならない。そして私たちがキリストのたいなる苦しみを見る時、私たちは私たちの罪の償いがいかにかりであるかを患うために、神はキリストを苦しめたとする支配説は真実である。キリストとその信者は一つであつて、両者は分離できない愛によつて結ばれているとする神秘説は真実である。母親が何める子供と共に苦しむように、また、愛する花嫁が、悩みを通過する花婿と共に苦しむように、私たちは、私たちの愛するキリストと共にゴルゴタで苦しんだ。そして、私たちは一つなので、私たちの罪のための罰を、キリストのからだで受けた。

しかし、私が思うに、二十世紀の人間にもっとも説得力のある説明は、転嫁説である。私たちは、みな、私たちの心理の中に、転嫁のメカニズムを持っている。私たちに何か欠けたものがあり、どうしてもその埋め合わせができない場合、だれかほかの者、私たちの妻とか、子供とかを、それぞれの場合に代りて置き換えて、私たちのかわりに、その人のせいにさせて済ます。私たちは、罪をかぶつてくれる身代わりを持っている。子供が足台につきまうたとする。子供はお母さんを、ぶつ、かわりにけがをさせた足台をぶつて満足する。そして、子供は、直ぐに気を静める。転嫁のメカニズムは、私たちの中に深く根を下ろしている。私たちが、私たちの当面している問題をだれかほかの人に代わつて背負ってもらふならば、私たちの心は平安を見出す。その身代わりとなつてくれる人は、独裁者であれ、ブルジョアジーであれ、領主であれ、アメリカ人であれ、資本主義者であれ、共産主義者で

あれ、トロツキストであれ、スターリンであれ、ユダヤ人であれ、黒人であれ、白人であれ、要するに自分以外の人であればだれでもよいのである。

イエスは、意識的に、この転嫁のメカニズムを用いた。それ故に彼は人類のところにきて、神の子として自らを捧げた。彼は次のように言っているように思われる。

「さて、もしもあなたがたが、あなたがたの罪をだれか他人に転嫁しようとする傾向を持っているとするならば、もっとも正常なことは、それらの罪を私に肩がわりさせることだ。私は責任を取るべきである。なぜなら、すべてのものは私によって創られたものだからである。私は、いつでも、すべての罪を私自身で背負う準備ができています。あなたがたは、あなたがたの罪は当然罰を受けなければならぬと考えている。カントは言った。罪は罰せられるべき権利を持つ。私は、あなたがたの受けるべき罰を受けるだろう。そうすれば、あなたがたは自由になるだろう。」

私は、私の無神論の敵たちに言いたい。彼らは、宗教に対して、中傷的なうそを書いて、非常に多くの魂を傷つけてきた。彼らは、この罪を、彼らが攻撃してきたキリストの肩に委ねた。よい。キリストは、全世界の罪を取り去る神の子である。それ故、彼は、無神論者や「無神論」の著者たちの罪をも取り去る。キリストを信ぜよ。そうすれば、あなたがたは救われる。

あなたがたは、無神論の理論で宗教に反対しようとしてきた。これは子供じみたことである。内面の苦しみの前に重要なのは、批評的分析である。無神論の理論は、死にかかっている人や、愛する者

を失う家族のために、何の助けにもならない。あなたがた自身の理論は、あなたがたが疑いの苦悩を通過し、この本を書くことによって恐ろしい罪を犯さなかったかどうかと自問する時、あなたがたにとって、なんら役に立たない。

あなたがたは、きょう、そのことを考えないかもしれない。しかし、あなたがたがそのことを考えなければならぬ日、あなたがたの死の日が来るであろう。

モスクワと、北京と、ワシントン、世界中でもっとも影響力のある市になろうとして競っている。そのどれも、そうはならないだろう。最大の人口を擁する市、王たちや共和国主義者たち、資本主義者や共産主義者、スターリン主義者やトロツキスト、無神論者や宗教信者、宗教家やその敵たちが相会する市は、耶路撒冷という市である。そして、聖場の向こうの未信者の前に横たわるのは、後世に留めである。

死の面前でさえ、遅すぎることはない。その瞬間に、あなたがたは次のように祈ることができる。

「主イエス、神の御子よ、罪びととなるわれを赦してください。」あなたがたのために、イエス・キリストによって流された血を信じなさい。そうすれば、あなたがたは救われる。

私の親愛なる無神論の友人諸君、私たちは、わずかな時間を一緒に過ごしてきた。私たちは、また、別々の道を行く。

聖書の物語りは、ユダヤ人がエジプトの奴隷だった時のこと、三日間、暗闇が続いたと書いている。エジプト人を取り巻く暗闇は非常に濃かった。お互いに見分けがつかなかったが、イスラエルの子どもたちは、みな、光を楽しんだ。

この光は、神の言葉である。神

の民はこの光を持っている。そして、その光は、彼の心を照らす。

パレスチナがトルコの支配下にあった時、残忍なパシヤは（トルコの高官）ユダヤ人が夜、明かりをとることを禁じた。町は、完全に暗闇に包まれた。

しかし、サファドで、ラビ・ヨセフ・カロの家は、夜になると輝いた。ラビは聖書を讀んだ。番兵たちが、その出来事をパシヤに報告した。彼は直ぐにラビの家に行きつけて、彼の様子を見た。彼は聖書を学んでいた。部屋には全く明かりがともされていなかった。に、部屋中が僅かに輝きだす。明かりで輝いていた。聖書はたまたまいつぱい止まっていた。光のものはたまたまだった。

ラビはパシヤに説明した。「神の律法は、それを守る人のいのちを照らすだけでは足りない。それを聞くはたまたまを照らすのです。」

私の無神論の敵であるあなたがたの中のいく人かの人や、既に信仰を持っていて人々が、この文章を讀むだろう。私は、断言するが、彼らの心が神の言葉に対するあなたがたの中傷によって暗くされているとしても、彼は光に照らされるだろう。そして、キリストの光である燃える光は、共産主義国全土に、その温かさと美しさを注ぐだろう。

# 主は共産主義者をも救う

## 最後の言葉

命令されたとおりのことしかしやべるばかりはいわね無神論者を私たちが理解する。しかし、悪い酒をすすめる宿屋の主人は、その量を少なめにすることによって、良心をなだめることができる。

セ〇ペーシにもわたる否定、また否定、神と、聖書と、永遠のいのちと、人間性の否定は、熱心に過ぎているように思われる。あなたがたは退屈な本を書いた。それはあなたがたのあやまちではない。あなたがたは、もっと良いことをすることができなかったのだ。すべての人は、その心に、神の形の空間を持っている。その空間を神で満たすかわりに、あなたがたは、空間の構造と美しについての本を書いた。

あなたがたはそれを書かねばならなかった。無神論の本は、ただ無神論のことだけを書いている。しかし、ルターは言った。「われらの主は、復活の約束を本に書いただけでは足りない。春に芽をく一枚の木の葉にもそれを書いた。」

しかし、あなたがたの本は退屈だ。しかし、それはまた、宗教書を読んで真理の知識を得る自由のない人々にこそは害毒である。あなたがたは、さなだに向って、おまんたちの努力はすべてむなしい、おまんたちは決して美しい聖になることができないといふて屈辱させる人のまた。あなたがたは、つばなに向かって、おまんたちはいつて花にはならぬといふ。あなたがたは、人間の魂に向かって、おまんたちは、この世の人生で、そしてパラダイスで、永遠にキリストに向ける者は

ならぬように運命づけられているといふ。魂を殺している。私はあなたがたをはずかしめたとは思わない。私は、あなたがたの魂が非常に危険な状態にいることに気づいてもらいたいと思っているのだ。あなたがたは殺人者よりも悪い。殺人者は肉休だけを殺す。あなたがたは魂を殺して、彼らが神を愛することができないようにする。

それ故、私は、ソーニヤが殺人者のラスコリニコフにしたと同じ忠告をあなたがたにする。「起きなさい。今すぐに、この時、行きなさい。そして、決断しなさい。それから、ひざまずきなさい。そして、あなたがたが得た大地に、まず最初に向きつけなさい。それから世界に向かつて頭を下げなさい。世界の四方に向かつてそうしなさい。そして、世界中の人々に向かつて、大声で、「私は殺した」と言うのです。そうすれば神は、再びあなたがたのいのちをくださるでしょう。どうしますか。ねえ、どうしますか。」

あなたがたと同じように、私が自分で行うソーニヤの忠告に気がつきそれを実行する日まで、私は無神論者であった。今、私は、あなたがたが無神論に固執するならば、あなたを待っている勢力と苦しみの人生に身置ける。私はキリストによって見出され、無神論から、罪から救われた。この道は、あなたがたのために開かれている。どうしますか。ねえ、どうしますか。

Donations to help late Reverend Richard Wurmbrand missionary work may be sent to:  
The Richard Wurmbrand Foundation  
PO Box 4124 Torrance, CA 90510, USA <http://richardwurmbrandfoundation.com>  
or to: Help For Refugees  
PO Box 5161, Torrance, CA 90510, USA <http://helpforrefugees.com>